

松山市埋蔵文化財調査年報 15

平成14年度

2004

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 15

平成14年度

2004

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



巻頭図版1 西石井遺跡2次調査地4区 完掘状況(東より)



巻頭図版 2 西石井遺跡 2次調査地 SE406断面 (南より)



卷頭図版 3 西石井遺跡 2 次調査地出土 分銅形土製品



卷頭図版 4 松山市内出土 分銅形土製品

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、開発事業等によって失われようとしている遺跡について、事前に調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成14年度に埋蔵文化財センターが市域において実施した発掘調査報告ならびに松山市考古館が主体となって開催した展示会、講演会などの教育普及活動内容の概要をまとめたものであります。

当該年度の発掘調査では、弥生時代から中世に至る数多くの遺構・遺物を発見しました。特に西石井遺跡2次調査地では、複数の井戸の底から多量の弥生土器が完形の状態で出土し、注目されました。また、継続的に学術調査が実施されている久米官衙遺跡群では、古代の役所施設の一つである「回廊状遺構」や7世紀前半にまで遡る可能性の高い政庁の存在など全国的に貴重な成果が得られており、平成15年8月に国史跡に指定されました。

このような資料・成果が得られましたのも、関係各位の皆様の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げます。今後とも、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本書が、松山市民の皆様をはじめ、多くの方々に埋蔵文化財に対するご理解を深めていただける資料として、ご活用いただければ幸いに存じます。

平成16年3月31日

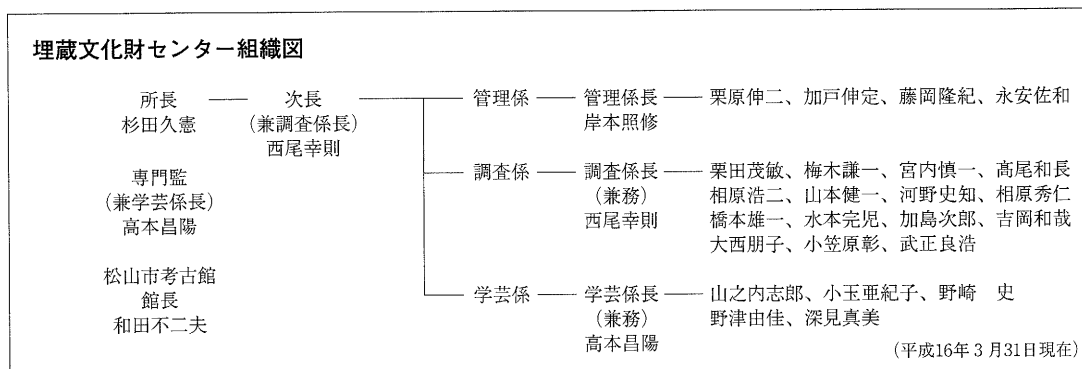
財団法人松山市生涯学習振興財団

理事長 中 村 時 広

例 言

1. 本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成14年4月1日から平成15年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。
2. 確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。
3. 各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は武正良浩が行った。
4. 本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。
5. 位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。
6. 遺構は、以下の略号で記した。
 SA：柵、柱列 SB：竪穴式住居跡（建物跡） 掘立：掘立柱建物跡 SR：自然流路
 SD：溝 SE：井戸 SK：土坑 SP：柱穴 SX：性格不明遺構
7. 各図の方位は、国土座標第4座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。
8. 刊行組織は、以下の通りである。（平成16年3月31日現在）

松山市教育委員会	教育長	中矢 陽三
事務局	局長	武井 正浩
	企画官	遠藤 宗敏
	企画官	石丸 修
文化財課	課長	八木 方人
	主幹	家久 則雄
	副主幹	田城 武志
	副主幹	重松 佳久
(財)松山市生涯学習振興財団	理事長	中村 時広
	事務局長	三宅 泰生
	事務局次長	菅 嘉見
埋蔵文化財センター	所長	杉田 久憲
	専門監兼学芸係長	高本 昌陽
	次長兼調査係長	西尾 幸則
	管理係長	岸本 照修



整理作業協力者（順不同）

水口あをい・山下満佐子・平岡直美・大西陽子・日之西美春・西本三枝・渡部英子・青野茂子・西川千秋・松本美代子・政本和人・山邊進也・黒田竜弥・山口由浩・田崎真理・高尾久子・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・宮内真弓・中村 紫・猪野美喜子・安井由起美・森田利恵・木西嘉子・鈴鹿八恵子・平岡華美・吉岡智美・萩野ちよみ・多知川富美子・矢野久子・丹生谷道代・大野祐子・岩本美保・木下奈緒美・村上真由美・篠森千里・石丸由利子・松下郁子・福岡志保美・渡辺佐代枝・末光美恵・新藤奈緒子・菅原紗代・石川千代美・佐伯利枝・忽那理恵・林 頌子・玉井順子・川添利恵

9. 以下の方々より、ご指導・ご協力を賜った。（順不同・敬称略）

阿部義平（国立歴史民俗博物館）／山中敏史（奈良文化財研究所）／上原真人（京都大学大学院）／前園美知雄（奈良芸術短期大学）／五味盛重（文化財建造物保存技術協会）／田中哲雄（東北芸術工科大学）／岡村秀典（京都大学）／佐藤 信（東京大学）／松下孝幸（土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム）／関 太郎（広島大学）／三辻利一（大谷女子大学）／高橋 護（ノートルダム女子大学）／下條信行（愛媛大学）／内田九州男（愛媛大学）／松原弘宣（愛媛大学）／田崎博之（愛媛大学）／村上恭通（愛媛大学）／吉田 広（愛媛大学）／三吉秀充（愛媛大学）／定森秀夫（徳島大学）／長井数秋（日本考古学協会）／名本二六雄（日本考古学協会）／渡辺智恵美（財団法人元興寺文化財研究所）／冨田尚夫（愛媛県歴史文化博物館）／石岡ひとみ（愛媛県歴史文化博物館）／内田俊秀（京都造形芸術大学）／藤田三郎（田原本町教育委員会）／木戸雅寿（財団法人滋賀県文化財保護協会）／乗岡 実（岡山市企画局）／中野良一（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター）／柴田圭子（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター）／川上敏朗（株式会社文化財保存計画協会）／田口 泰（株式会社文化財保存計画協会）／川田秀治（株式会社フジテクノ）

10. ご指導・ご協力を賜りました機関は、次のとおりである。（順不同・敬称略）

文化庁／国立歴史民俗博物館／独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所／文化財建造物保存技術協会／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／大谷女子大学／奈良芸術短期大学／京都大学／東京大学／徳島大学／ノートルダム女子大学／東北芸術工科大学／愛媛大学法文学部考古学研究室／愛媛大学埋蔵文化財調査室／田原本町教育委員会／奈良県立橿原考古学研究所／奈良県立考古学研究所附属博物館／財団法人滋賀県文化財保護協会／土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム／岡山県古代吉備文化財センター／岡山市企画局総合政策部文化政策課デジタルミュージアム開設準備室／財団法人香川県埋蔵文化財調査センター／愛媛県歴史文化博物館／愛媛県立歴史民俗資料館／愛媛県教育委員会文化財保護課／財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター／財団法人元興寺文化財研究所／株式会社古環境研究所／株式会社フジテクノ／株式会社文化財保存計画協会

11. 本書の仕様は以下のとおりである。

製版 カラー写真・写真図版-175線

印刷 オフセット印刷

用紙 カラー写真：マットコート、本文：マットカラーHG

製本 アジロ綴じ

本文目次

I 平成14年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
姫原遺跡2次調査地	2
樽味高木遺跡5次調査地	8
樽味高木遺跡6次調査地	10
樽味四反地遺跡7次調査地	14
枝松遺跡6次調査地	18
枝松遺跡7次調査地	22
桑原遺跡4次調査地(4区)	28
西石井遺跡(4区～6区)	32
西石井遺跡2次調査地	34
平井遺跡2次調査地	40
上苅屋遺跡3次調査地	42
松山城本丸跡2次調査地	48
松山城二之丸跡4次調査地	50
松山城三之丸跡(県営ラグビー場跡地)	54
久米地区公共工事に伴う確認調査	60
久米高畑遺跡54次調査地	62
久米高畑遺跡55次調査地	66
久米高畑遺跡56次調査地	70
来住廃寺28次調査地	74
久米官衙遺跡群～54次調査の成果～	78
II 平成14年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
松山市埋蔵文化財確認調査一覧	82
松山市埋蔵文化財本格調査一覧	92
III 平成14年度 保存処理及び出土遺物整理	
1. 平成14年度出土遺物整理の概要	96
2. 保存処理	97
3. 自然科学分析	101
4. 出土遺物整理(分銅形土製品)	103
IV 平成14年度 普及啓発事業	
1. 展示活動	110
2. 教育普及活動	112
3. 収集・保管活動	116
4. 広報・出版活動	116
5. 施設の利用	118
6. 資料の貸出・調査	118
7. 職員研修・会議	121
8. その他	121

挿図・写真目次

巻頭図版 1	西石井遺跡 2 次調査地 4 区 完掘状況 (東より)		
巻頭図版 2	西石井遺跡 2 次調査地 S E 406 断面 (南より)		
巻頭図版 3	西石井遺跡 2 次調査地出土 分銅形土製品		
巻頭図版 4	松山市内出土 分銅形土製品		
姫原遺跡 2 次調査地 2			
図 1	調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1	S X 02 遺物出土状況 (北西より)
図 2	遺構配置図 (縮尺 1 : 150)	写真 2	S D 03 遺物出土状況 (西より)
図 3	出土遺物実測図 (縮尺 1 : 4)	写真 3	調査地全景 (西より)
図 4	円筒埴輪実測図 (縮尺 1 : 4)		
樽味高木遺跡 5 次調査地 8			
図 1	調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1	S B 01 竈検出状況 (西より)
図 2	遺構配置図 (縮尺 1 : 100)		
樽味高木遺跡 6 次調査地 10			
図 1	調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1	西側完掘状況 (北より)
図 2	遺構配置図 (縮尺 1 : 150)	写真 2	東側完掘状況 (北より)
図 3	出土遺物実測図 (縮尺 1 : 4) (縮尺 1 : 3) (縮尺 1 : 2) (縮尺 1 : 1)		
樽味四反地遺跡 7 次調査地 14			
図 1	調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1	調査地全景 (南西より)
図 2	遺構配置図 (縮尺 1 : 300)	写真 2	S B 301 完掘状況 (南西より)
		写真 3	S B 304 遺物出土状況 (北より)
枝松遺跡 6 次調査地 18			
図 1	調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1	調査地全景 (南西より)
図 2	遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	写真 2	調査区西半部完掘状況 (北東より)
		写真 3	S P 100 遺物出土状況 (東より)
枝松遺跡 7 次調査地 22			
図 1	調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1	2 区完掘状況 (西より)
図 2	調査区位置図 (縮尺 1 : 600)	写真 2	1 区完掘状況 (西より)
図 3	1 区遺構配置図 (縮尺 1 : 150)		
図 4	2 区遺構配置図 (縮尺 1 : 150)		
図 5	出土遺物実測図 (縮尺 1 : 4)		

桑原遺跡 4 次調査地 (4 区)	28
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 4 区東側完掘状況 (西より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 150)	
図 3 S R 1 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1 : 4) (縮尺 1 : 3)	
図 4 S R 1 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1 : 4)	
西石井遺跡 (4 区 ~ 6 区)	32
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 4 区完掘状況 (北西より)
	写真 2 5 区・6 区完掘状況 (西より)
	写真 3 5 区 S D 3 遺物出土状況 (南西より)
	写真 4 5 区 S K 501 遺物出土状況 (南より)
西石井遺跡 2 次調査地	34
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 2 B 地区完掘状況 (南西より)
図 2 調査地測量図 (縮尺 1 : 1,000)	写真 2 3 A 地区完掘状況 (西より)
	写真 3 S B 201 炭化物・焼土状況 (南より)
	写真 4 S K 205 遺物出土状況 (南東より)
	写真 5 S E 411 断面 (南東より)
	写真 6 S E 407 遺物出土状況 (北西より)
平井遺跡 2 次調査地	40
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 S D 1 遺物出土状況 (東より)
	写真 2 完掘状況 (南より)
上莉屋遺跡 3 次調査地	42
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 1 ~ 4 区完掘状況 (西より)
図 2 6 区遺構配置図 (縮尺 1 : 100)	写真 2 5 区完掘状況 (西より)
図 3 9 区遺構配置図 (縮尺 1 : 125)	写真 3 6 区完掘状況 (西より)
	写真 4 9 区完掘状況 (北西より)
松山城本丸跡 2 次調査地	48
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 調査地全景 (東より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 400)	
松山城二之丸跡 4 次調査地	50
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 番所跡 (東より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 300)	写真 2 城の内 3 号墳 (南より)

保存処理及び出土遺物整理99

- 写真1 東野お茶屋台14号墳出土鉢（処理前）
- 写真2 東野お茶屋台14号墳出土鉢（処理後）
- 写真3 東野お茶屋台18号墳出土鏃（処理前）
- 写真4 東野お茶屋台18号墳出土鏃（処理後）
- 写真5 伊台惣部遺跡出土馬具（処理前）
- 写真6 伊台惣部遺跡出土馬具（処理後）
- 写真7 伊台惣部遺跡出土鉄片（処理前）
- 写真8 伊台惣部遺跡出土鉄片（処理後）
- 写真9 松山大学構内遺跡3次調査地出土釘（処理前）
- 写真10 松山大学構内遺跡3次調査地出土釘（処理後）
- 写真11 樽味四反地遺跡2次調査地出土摘鎌（処理前）
- 写真12 樽味四反地遺跡2次調査地出土摘鎌（処理後）
- 写真13 来住廃寺24次調査地出土銭貨（処理前）
- 写真14 来住廃寺24次調査地出土銭貨（処理後）
- 写真15 北斎院地内遺跡4次調査地出土木材の顕微鏡写真

- 図1 分銅形土製品実測図(1)（縮尺1：4）
- 図2 分銅形土製品実測図(2)（縮尺1：4）
- 図3 分銅形土製品実測図(3)（縮尺1：4）
- 図4 分銅形土製品実測図(4)（縮尺1：4）

普及啓発事業110

- 写真1 特別展「海を渡ってきた ひと・もの・わざ」見学風景
- 写真2 写真展「むかし・昔のまつやまを撮る②」見学風景
- 写真3 企画展記念講演会風景
- 写真4 「とことん考古学Ⅱ」第3回風景
- 写真5 「古代のアクセサリー・自分だけの勾玉づくり」風景
- 写真6 「ガラス勾玉を作ろう！」離型剤塗り風景
- 写真7 「ガラス勾玉を作ろう！」焼成風景
- 写真8 「遺跡めぐり」湯築城資料館見学風景
- 写真9 城の内3号墳現地説明会風景
- 写真10 職場体験風景（発掘体験）
- 写真11 職場体験風景（接合体験）
- 写真12 出前考古学教室（発掘体験）
- 写真13 出前考古学教室（分銅形土製品製作）
- 写真14 出前考古学教室（土器見学）

表 目 次

松山市埋蔵文化財調査関係資料	82
表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧 (No. 1～10)	
表2 平成14年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧	
保存処理及び出土遺物整理	
2. 保存処理	97
表1 平成14年度 金属製品保存処理遺跡名一覧	
表2 平成14年度 動物遺骸体整理遺跡名一覧	
表3 平成14年度 調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧	
3. 自然科学分析	101
表1 樹種同定結果	
4. 出土遺物整理	103
表1 分銅形土製品一覧 (No. 1・2)	
普及啓発事業	110
表1 展示活動一覧表	
表2 教育普及活動一覧表 (調査研究会)	
表3 教育普及活動一覧表 (講演会・展示解説会)	
表4 教育普及活動一覧表 (勾玉づくり)	
表5 教育普及活動一覧表 (ガラス勾玉づくり)	
表6 教育普及活動一覧表 (遺跡めぐり)	
表7 教育普及活動一覧表 (現地説明会)	
表8 教育普及活動一覧表 (職場体験)	
表9 教育普及活動一覧表 (出前考古学教室)	
表10 出版物一覧表(1)	
表11 出版物一覧表(2)	
表12 施設利用一覧表	
表13 資料の貸出一覧表 (No. 1～3)	
表14 資料の調査一覧表 (No. 1・2)	
表15 職員研修・会議一覧表	
表16 平成14年度 考古館月別入館者数調 (平成14年4月1日～平成15年3月31日)	

I 平成14年度 松山市埋蔵文化財調査概要

ひめばら
姫原遺跡 2 次調査地

所在地 松山市姫原 1 丁目219番地の一部
期 間 平成14年11月18日～平成15年 3 月31日
面 積 500m²
担 当 小笠原彰

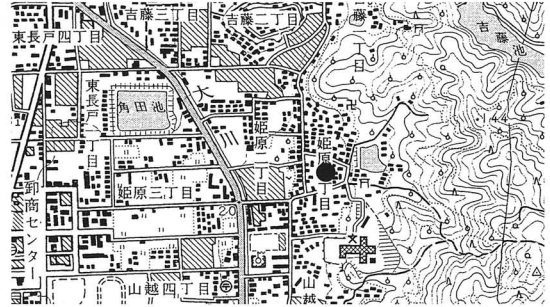


図 1 調査地位置図

経 過 調査地は松山平野北西部、高縄山系分岐丘陵南西の微高地上に位置する。西方の太山寺山塊との間には南北約 7 km、東西約 2 km におよぶ地溝性の低地帯が広がる。この低地上に位置する大瀨遺跡では、突帯文土器に共伴し彩文壺・磨製石庖丁・靱圧痕土器など初期稲作を推測させる遺物が出土している。弥生時代の遺跡の多くは丘陵緩斜面上に立地する。太山寺山塊側では鶴が峠遺跡、高縄山系側では姫原遺跡・吉藤宮ノ谷遺跡・座拝坂遺跡・谷町遺跡・平田七反地遺跡・金比羅山遺跡がある。これらの調査により、弥生期を通し微高地上に展開する集落の一端を窺い知る資料が得られている。低地帯を望む両丘陵上には多くの古墳が分布する。高縄山系では北谷、権現、潮見、姫原などの後期古墳を主体とする古墳群が存在し、平野の中でも有数の墓域となっている。

松山平野北西部は、まだまだ調査事例が少なく各時代の具体的な様相は不明な点が多いのが現状であるが、濃厚な遺構密度を呈しており発掘調査に期待のかかる地域である。調査は個人住宅建設（松山市埋蔵文化財包蔵地「No168姫原遺物包含地」内）における事前調査で国庫補助により実施した。

遺構・遺物 調査地は標高約26mの丘陵裾部に立地する。現況はほぼ中央付近を畦によって区切られた東西二枚の休耕田で西側が一段低くなっていた。地形は地溝帯に向け西方向へ緩やかに傾斜する。南西約150mに位置する1次調査地との標高差は4 m程度である。基本土層は、概ねⅠ層耕作土、Ⅱ～Ⅳ層旧耕作土、Ⅴ層黒褐色シルト質土、Ⅵ層褐灰色砂質土、Ⅶ層灰黄褐色シルト質土、Ⅷ層黒褐色砂質土（調査区南西部に一部堆積）、Ⅸ層黄褐色砂質土（地山層）である。調査の結果、弥生時代～近世にかけての遺構・遺物を検出した。以下、各時代の概略を述べる。

【弥生時代中期後葉～後期後葉】Ⅶ層からは磨製石庖丁・磨製石斧・打製石鏃・土製紡錘車・土錘・石錘などと伴に多量の弥生土器が出土している。中期後葉～後期後葉のものであるが、主体を占めるのは中期後葉である。Ⅶ層途中から掘り込まれたと考えられる遺構にS D03・04・06などの溝、S K02・03・04などの土坑、S X02の性格不明遺構がある。調査ではⅦ層掘り下げの過程で遺構プランが現れるものもあったが、判然としないため地山面で検出を行った。遺構によっては掘り方が地山面まで達しないものもあると考えられ、Ⅶ層出土とした遺物の中には遺構埋土のものも含まれる可能性がある。溝も底が辛うじて検出できた状況で部分的な検出であり全容は不明である。溝の性格であるが、完形の土器が一括廃棄された状態で出土することや緩やかな弧を描くもの、コーナーを持つものがあることから祭祀的な性格と推定されている『周溝状遺構』の可能性を考えておきたい。出土土器からS D04・06は中期後葉、S D03は後期後葉のものである。調査区南辺中央で検出したS X02は調査区外に展開するため遺構プラン、性格は不明であるが、中期後葉の一括性の高い土器が出土している。

【弥生時代終末～古墳時代初頭】Ⅵ層上面から掘り込まれる竪穴式住居址3棟を検出している。調査

区西辺での一部分の検出で全容が判明するものはないが、一辺 3 ～ 5 m 程度の小型方形住居址と考えられる。SB02・03の床面には多くの炭化物と焦土が見られ焼失住居の可能性を想定できる。特筆できる遺物として、SB01埋土から手焙形土器の完形品が出土している（図3-13）。

調査区北辺中央から南西方向へ緩やかに弧を描く自然流路SR01の埋土は基本的に2層に分層できるが、下層から弥生時代終末～古墳時代初頭の土器片が出土する。存続時期の上限をこの時期と捉えることができる。なお、上層からは古墳時代後期末～古代の須恵器が出土し、最終的にこの時期に埋没したものと考えられる。

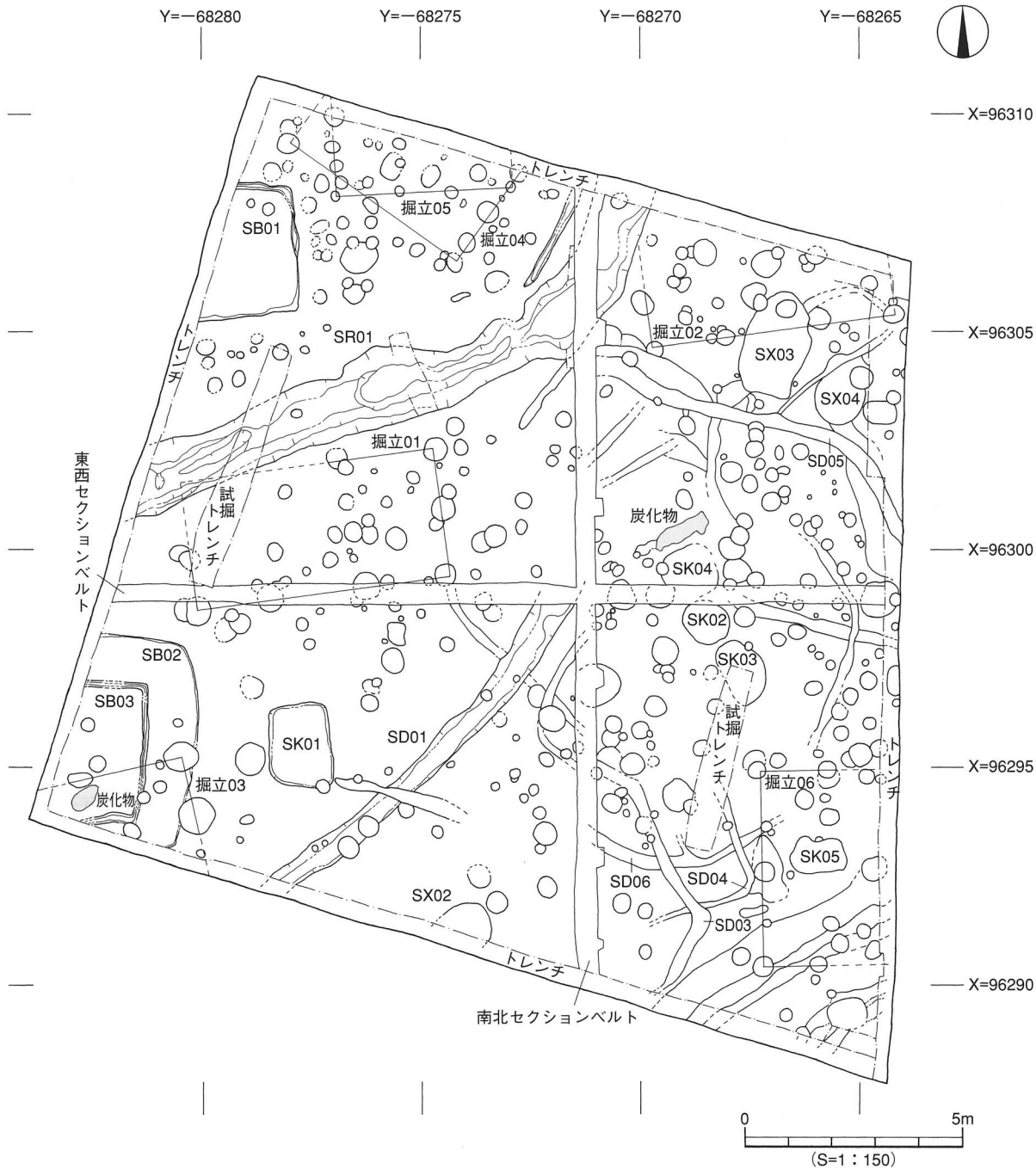
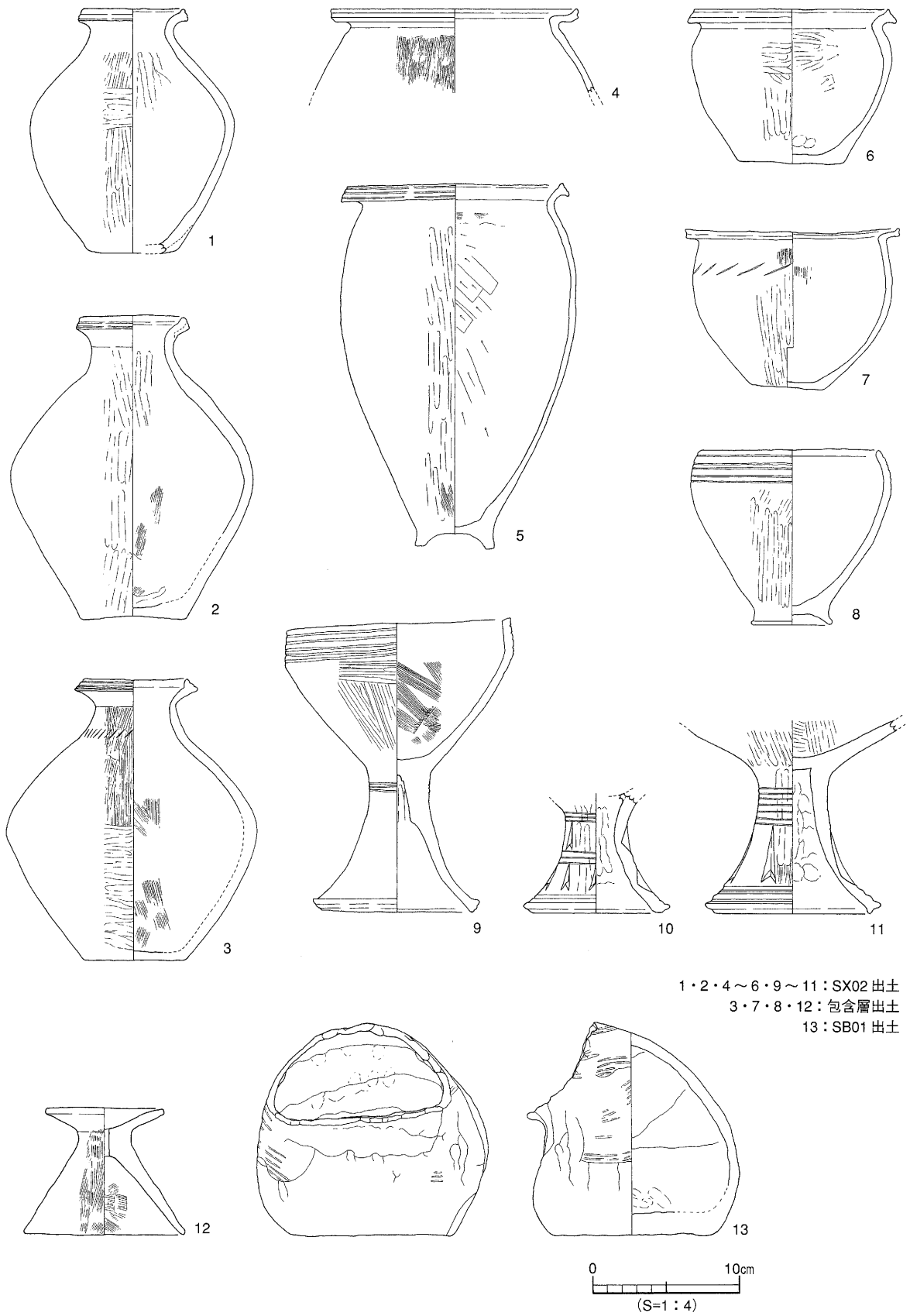
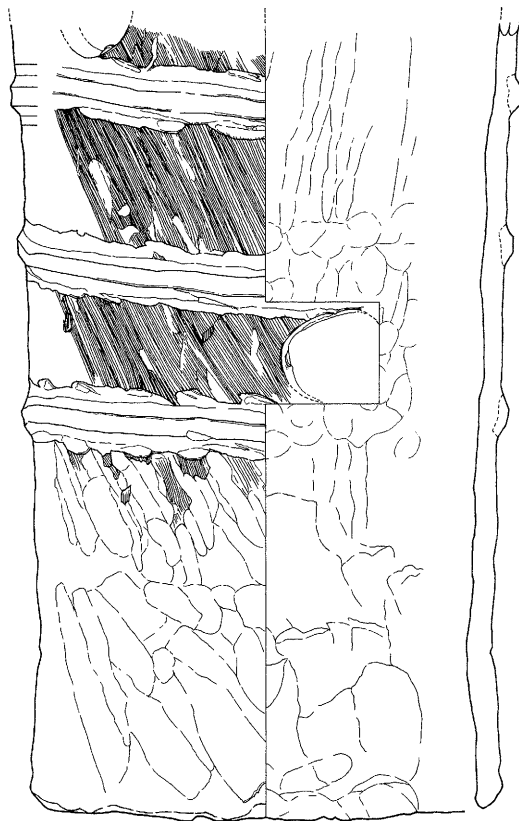


図2 遺構配置図



1・2・4～6・9～11：SX02 出土
 3・7・8・12：包含層出土
 13：SB01 出土

图 3 出土遺物実測図



SR01上層出土

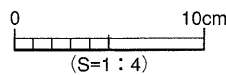


図4 円筒埴輪実測図

【古墳時代後期末～古代】この時期に所属する遺構として掘立柱建物址6棟と多数の柱穴を検出した。これらはV層中から掘り込まれるものと見受けられる。掘立01～03は建物主軸を同じくする建物群で、同時期に並存していた可能性がある。それぞれの建物・柱穴の時期比定は明確にはできないが、V層からは古墳時代後期末～古代の須恵器が出土しており、この期間を通して集落として利用され続けたことが窺える。なお、前記したSR01の上層からは円筒埴輪片(図4)が出土している。この埴輪片は摩滅が少ないこと、比較的大きな破片であることから、調査区から比較的近隣に埴輪を持つ古墳が存在していた証と言えるであろう。

【中世以降】水田耕作時における農耕具の痕跡をV層上面で検出した。この面からは14世紀後半～15世紀の土師器の坏や小皿、備前焼の播鉢などが出土し、この時期を上限とする所産と考えられる。またV層より上層にも旧耕作土と考えられる層がいくつも水平堆積している。IV層からは17世紀の唐津焼の破片が出土している。

小 結 最後に調査地における土地利用形態の変遷をまとめる。弥生時代中期後葉～

後期後葉では遺構は判然としなかったが、周溝状遺構の可能性のある溝の一部を検出した。調査地が集落の中でも祭祀的役割を担った空間であったと捉えたい。包含層出土であるが、分銅形土製品の破片4点とミニチュア土器が比較的多く出土することはこれを裏付けるものかもしれない。居住空間としての利用は弥生時代終末から古墳時代初頭の時期である。古墳時代後期～古代にかけても掘立柱建物が多数建てられその形態は続く。そして中世には耕作地として利用され現代まで存続したものと考えられる。

狭小な面積ながら出土遺物は相当な量にのぼる。現在整理途中であり、層位、遺構の性格と時期など十分に検討できていない状況である。今後の整理を通して各時代における遺構の詳細な把握に努め、当地域における歴史的事象の抽出を行っていききたい。なお、地権者の理解と協力を得、検出した最終遺構面は山砂による保全を行い、保護を行っていることを記しておく。(小笠原)



写真1 SX02遺物出土状況（北西より）



写真2 SD03遺物出土状況（西より）



写真3 調査地全景（西より）

たるみたかぎ 樽味高木遺跡 5 次調査地

所在地 松山市樽味 4 丁目179番地 1・2
期 間 平成14年 4 月19日～同年 7 月21日
面 積 361m²のうち約100m²
担 当 小笠原彰

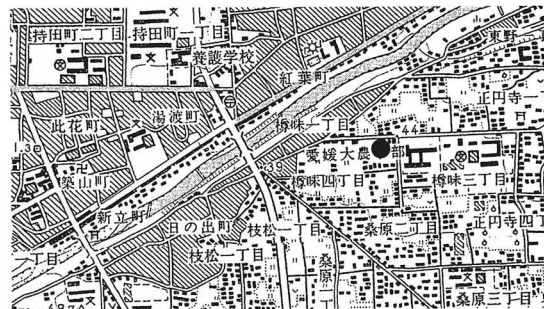


図 1 調査地位置図

経 過 調査地は石手川中流域の南岸に位置する。既往の調査によると、この地域は特に弥生時代後期～古墳時代の集落関連遺構が顕著に検出される場所である。近年では、東本遺跡 4 次で青銅鏡の破鏡を所持する弥生時代後期末の大型竪穴式住居が、樽味四反地遺跡 6 次で『首長居館』と想定されている古墳時代初頭の壕と柵列を伴う大型掘立柱建物（総柱構造）が検出され注目される。これらは有力首長層が居住する中核的集落を示す事例であり、該当時期の松山平野における集落動向を探る上で重要な地域と言える。本調査は個人住宅建設（松山市埋蔵文化財包蔵地「Na81樽味遺物包含地」内）の事前調査で国庫補助により実施した。検出遺構は地権者の理解を得て、砂で保全し保存を図っている。

遺構・遺物 調査地は石手川が形成する扇状地の扇央、標高41m前後に立地する。基本土層は I 層造成土、II 層旧耕作土、III 層床土、IV 層遺物包含層（黒褐色土）、V 層地山層（明褐色シルト質土）である。IV 層は弥生時代～古代の遺物を包含する。以下、各検出遺構の概略を述べる。

【竪穴式住居址】 調査面積は狭小だが、竪穴式住居が 6 棟という高密度で重複し検出された。弥生時代の円形住居と見られる S B04 を除き、残り 5 棟は 5 世紀後半～6 世紀初頭にかけてのものである。S B01 は東西幅 6.3m を測る方形の住居である。東側に遺存状況の良好な造り付けの竈を検出している（写真 1）。竈中央部には支石が置かれ、支脚としての転用と見られる土師器高坏の脚部が逆さの状態 で 2 個体出土している。S B01 を切る S B02 は唯一全容が把握できる住居址である。南北幅 4.88m、東西幅 4.96m のほぼ正方形のプランで支柱は 4 本構造である。北側で検出した竈には、S B01 と同様に支石が置かれていた。住居址埋土からは住居廃絶に伴う祭祀行為に使用されたと考えられる滑石製の白玉が出土している。S B03・06 は S B02 に切られる住居址で北側に竈の痕跡を確認している。

【掘立柱建物址】 掘立 01 は桁行 3 間（6.4m）、梁行 2 間（3.75m）、掘立 02 は桁行 2 間以上（検出長 4.05m）、梁行 2 間（3.55m）の建物である。建物に所属する明確な出土遺物はないが、包含層から 6 世紀前半に比定される須恵器が比較的多く出土するため、この時期以降の建物址と考えておきたい。

小 結 約 100m² という範囲の調査ながら 5 世紀後半～6 世紀初頭にかけての竪穴式住居址 5 棟、6 世紀以降の掘立柱建物址 2 棟が検出され、これまでの周辺における調査事例に漏れず濃密に展開する集落の様相を確認できた。断片的ながらも古墳時代中期～後期の集落構成や範囲を復元可能な資料が蓄積されつつある状況である。今後課題となるのは弥生時代～古墳時代にかけての集落の歴史的発展過程と、松山平野の中でも有数の大規模集落が営まれる歴史的背景を考察することである。そのためには、当地域における各時期の基本的な集落単位の抽出と集落構成の把握に努め、松山平野全体の動向の中に位置づけて考えていくことが必要であろう。（小笠原）

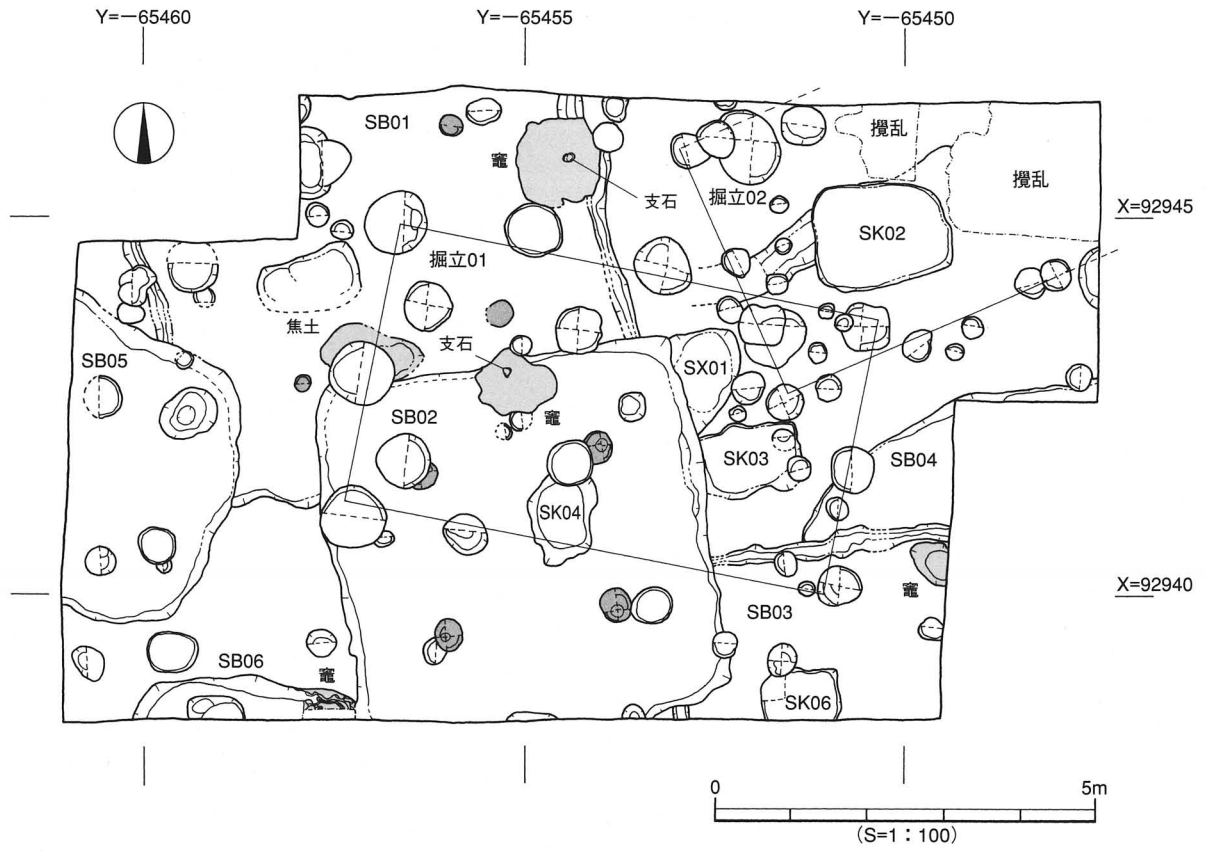


図2 遺構配置図



写真1 SB01竈検出状況(西より)

たるみたかぎ
樽味高木遺跡 6次調査地

所在地 松山市樽味4丁目246番地
期間 平成14年8月1日～同年11月29日
面積 912.15m²
担当 河野史知

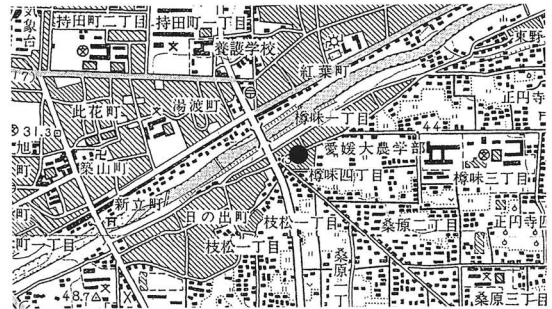


図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『No81 樽味遺物包含地』内における宅地開発に伴う事前の発掘調査である。周辺の遺跡には東側の樽味遺跡をはじめとして、樽味四反地遺跡1～6次、樽味立添遺跡1～2次、樽味高木遺跡1～5次調査など数多くの調査が行われ、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物が多数検出され集落の存在や規模が明らかになりつつある。

遺構・遺物 調査地は石手川左岸の洪積世扇状地上、標高39m前後に立地する。調査以前は水田である。基本層位は第Ⅰ層黄灰色土（水田耕作土）、第Ⅱ層明黄褐色土～灰黄色土（水田床土）、第Ⅲ層黒褐色土（土師器・須恵器を包含する）、第Ⅳ層黄褐色土（地山）である。遺構は第Ⅳ層上面で検出し、地形は南から北へ緩傾斜をなす。調査では、弥生時代から古代の遺構と遺物を確認し、遺構は竪穴式住居址13棟、掘立柱建物址8棟、溝7条、土坑4基、柱穴65基、倒木痕1基、性格不明遺構8基を検出した。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・石製品・鉄滓などが出土する。

【弥生時代】SB2・4・9・11～13、SD6・7、SP、SX1が検出されており、弥生時代後期中葉から末葉にかけて時期比定される。SB2は五角形に近い円形の竪穴式住居址で、直径6.6mを測り、高床や炉跡などの内部施設を伴う。SX1はSB2中央部付近の直上にあり、出土遺物からSB2とほぼ同時期であり、石と土器が散乱した状態で出土する。SB12は床面だけの残存であり、支柱穴の配置状況から察するとSB2と同様に住居址内の周縁部に高床が周り、壁体はさらに外側を巡る六角形に近い住居構造を想定する。

【古墳時代】SB1・3・5～8・10、掘立1～8、SD1～5、SK2・4、SP、SX2～8を検出し、5世紀後半から7世紀中頃にかけて時期比定される。SB1の壁体より内側の床面を全周する浅い溝は、住居内の排水に関連する施設の可能性をもち、北壁の中央部から焼土や炭を検出したことから竈の存在が窺える。SB3・7・10は同時期に並ぶほぼ同規模の竪穴式住居群であり、それらに後続する時期の掘立5～7も、並行した位置関係にある掘立柱建物群である。

【古代】段落ち遺構、SK1・3を検出し、8世紀代に時期比定される。段落ち遺構の壁体からSK3を検出するが、この土坑の基底面に炭が堆積し、炭上には焼けた砥石が出土する。また、SK3周辺の段落ち部の床面付近から鉄滓や炭・焼土を検出する。

小結 本調査では、弥生時代から古代の遺構や遺物を確認した。弥生時代の竪穴式住居址の直上にあるSX1は、遺物などの出土状況や位置関係から、SB2の廃絶に伴う祭祀行為の痕跡とも考えられる。古墳時代の竪穴式住居址や掘立柱建物址から6世紀初頭を中心にした集落であり、古代のSK3は、炭やその周辺の段落ち部から鉄滓が多く出土することから鍛冶関連施設と考える。

今回の調査では、樽味地区に展開される弥生時代から古代にかけての集落が、北西側への広がりを

確認することができた。今後は、周辺の調査で検出された集落遺構と比較検討しながら、集落のつながりや本遺跡の性格を整理していく必要がある。(河野)

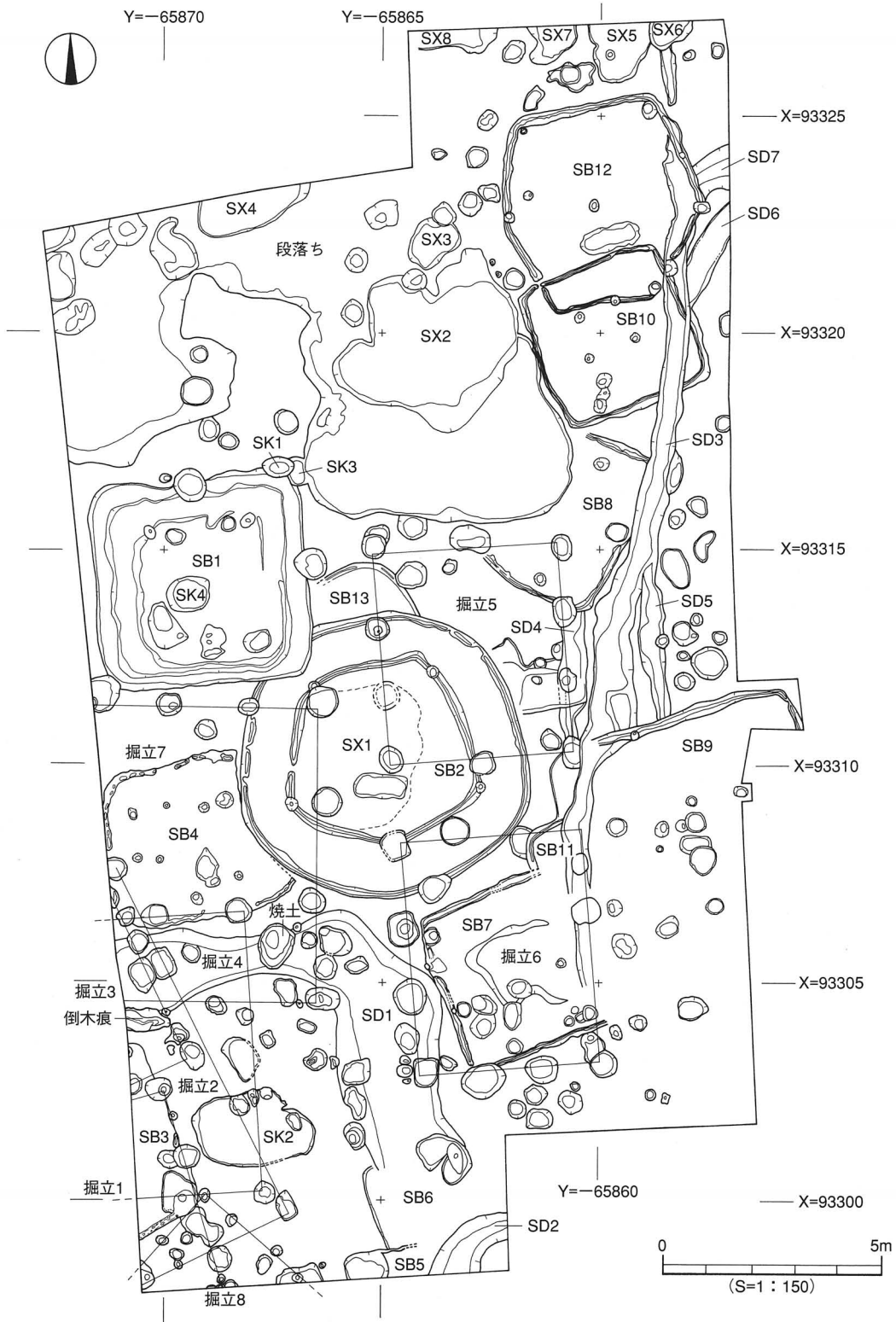


図2 遺構配置図

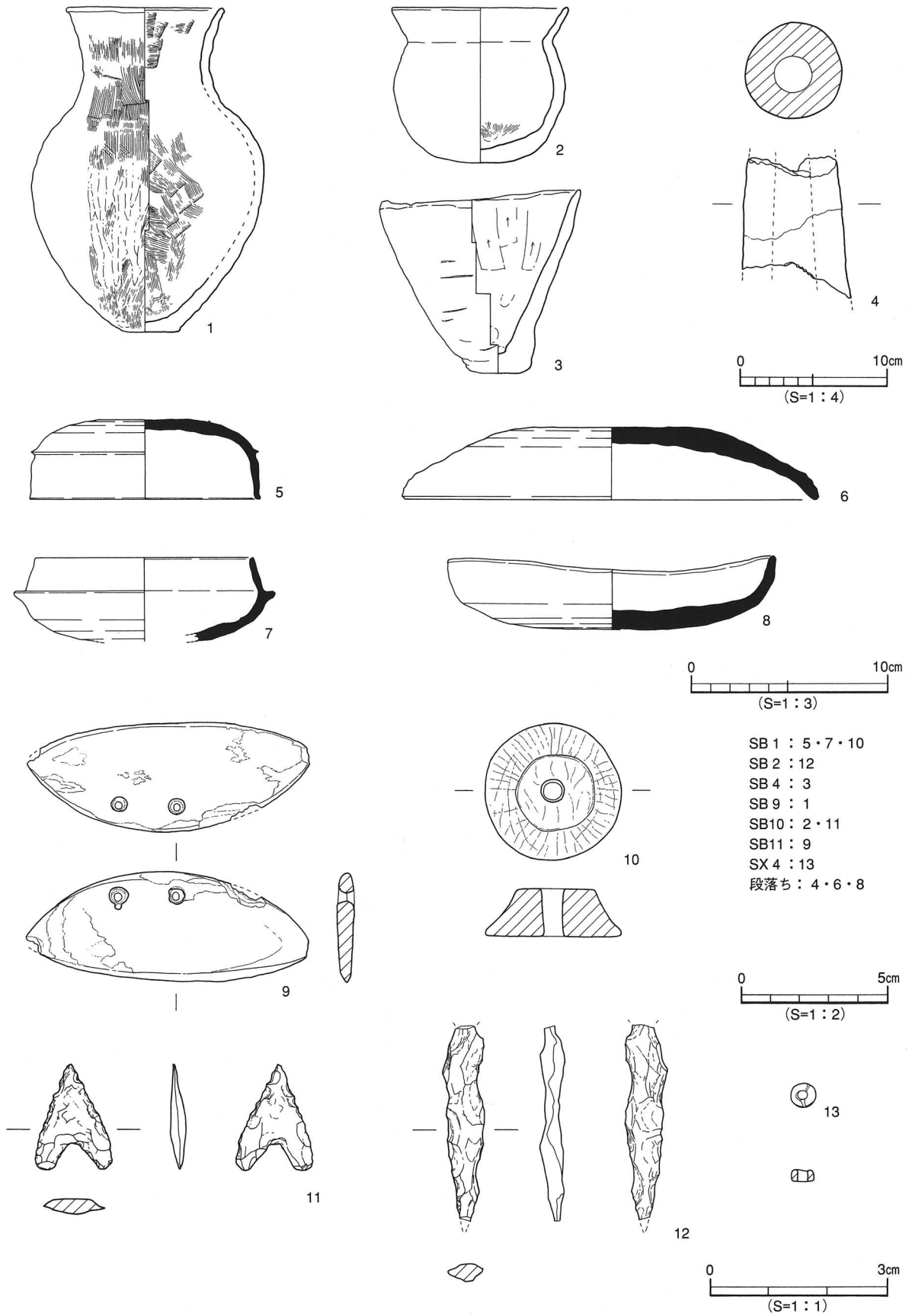


図 3 出土遺物実測図



写真1 西側完掘状況（北より）



写真2 東側完掘状況（北より）

たるみしたんじ 樽味四反地遺跡 7次調査地

所在地 松山市樽味4丁目218番1外
期間 平成14年11月1日～平成15年3月31日
面積 4,900m²のうちの781.31m²
担当 高尾和長・加島次郎

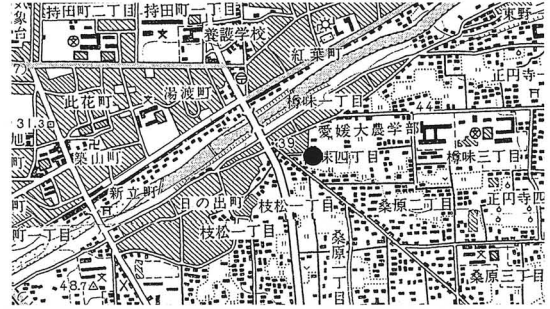


図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は水田と畑であった。現地形は調査地の南西側を通る市道桑原50号線を境界として、本調査地は3m程度土地が高く、微高地状を呈しており、標高39.9mを測る。周辺では、これまでに弥生時代中～後期の樽味高木遺跡（1～6次）、弥生時代後期～古代の樽味立添遺跡（1～2次）、弥生時代中期～中世の樽味四反地遺跡（1～6次）、弥生時代前期～古墳時代の樽味遺跡などが調査され、弥生時代～中世の集落関連遺構が広く展開することが指摘されている。近年、樽味高木遺跡3次では弥生時代後期の「船を描いた絵画土器」が出土し、樽味四反地遺跡6次では弥生時代終末～古墳時代初頭の総柱構造の「大型掘立柱建物址」が検出されるなど、弥生時代後期～古墳時代初頭の樽味地区では他地域と交流関係を持ち得るほど経営の充実した集落があり、「首長」と呼ばれる有力者層の存在した可能性が高いことが調査と分析により明らかになりつつある。

事前に試掘調査を実施したところ、土坑や柱穴を検出し、さらには弥生土器、古墳時代～中世の土師器や須恵器を含む遺物包含層を確認したことから、遺跡の存在が明らかとなった。このことから、集落の帰属時期とその広がり、さらに古環境や古地形を復元する上での基礎データを得ることなどを主目的に本格調査を実施した。

遺構・遺物 基本層位は第Ⅰ層耕作土（層厚15～20cm）、第Ⅱ層褐灰色土（層厚5～15cm）、第Ⅲ層黒色土（層厚45～50cm）、第Ⅳ層にぶい黄褐色土（層厚25～85cm）、第Ⅴ層にぶい黄褐色砂礫である。第Ⅳ層以下の旧地形は調査区北東から南西へ向けて緩傾斜している。遺物包含層は第Ⅱ層と第Ⅲ層であり、遺物には弥生時代後期の土器、古墳時代中～後期・古代の土師器、須恵器、中世の土師器、須恵器などがある。遺構は第Ⅳ層上面で検出をおこなった。

検出遺構は竪穴式住居跡4棟、溝1条、土坑18基、柱穴114基、性格不明遺構3基である。遺構の帰属時期は出土遺物から弥生時代中期後葉、古墳時代中期前半、古墳時代中期末～後期初頭に大別できる。以下、現時点において出土遺物から帰属時期を確定できる主要遺構について時期毎に詳述する。

【弥生時代中期後葉】 土坑S K 303とS K 312がある。S K 303は平面形態が円形を呈し、規模は直径0.9m、深さ0.3mを測り、埋土は黒色土の単一層であった。遺物は弥生土器の甕と壺が出土した。S K 312は平面形態が隅丸長方形を呈し、規模は長軸2.0m、短軸1.4m、深さ0.3mを測る。埋土は黒色土の単一層で、遺物は弥生土器の壺が出土した。

【古墳時代中期前半】 竪穴式住居跡S B 304、性格不明遺構S X 302とS X 303がある。これは一部で重

複関係にあり、検出状況から S X 303→S X 302、S X 303→S B 304の時間的先後関係は確認できたものの、S B 304と S X 302の先後関係は検出時においては確定できなかった。

S B 304は平面形態が隅丸長方形を呈し、規模は長軸4.9m、短軸3.4m、深さ0.2mを測り、埋土は黒色土である。住居内部には土坑が2基（S K 317と S K 318）伴い、このうち S K 317からは拳大の礫を多数検出した。遺物は土師器の甕、壺、高坏のほか、軟質土器の鍋がある。また S K 317からは算盤玉形紡錘車が完存で出土した。

【古墳時代中期末～後期初頭】 竪穴式住居跡 S B 301がある。S B 301は平面形態が隅丸長方形を呈し、規模は長軸6.0m、短軸5.8m、深さ0.2mを測る。埋土は二層に分層可能で、床面には一部張り床が認められた。住居の構造は四本柱で上屋を支えるものとなり、検出した4本の柱穴はいずれも柱が抜かれていた。遺物は土師器の甕、須恵器の甕、坏身、高坏が出土した。

小 結 今回の調査では、竪穴式住居跡、溝、土坑、柱穴、性格不明遺構など集落関連遺構を多数検出し、弥生時代中期後葉～中世の遺物を確認することができた。この成果は樽味地区における既往の調査成果を追認するものとなる。なかでも、古墳時代中期前半に帰属する S B 304は松山平野では稀少な事例であり注目される。本住居跡から出土した遺物のうち、土師器は当平野における土師器編年の基礎資料となるものであり、共伴した軟質土器や算盤玉形紡錘車は韓半島との交流をうかがい知ることができる資料として特筆される。今後は出土遺物の整理を行い各遺構の帰属時期を特定し、さらには既往の調査成果との比較検討を通じて、樽味地区における弥生時代～古墳時代の集落動態を検証していく必要がある。(加島)

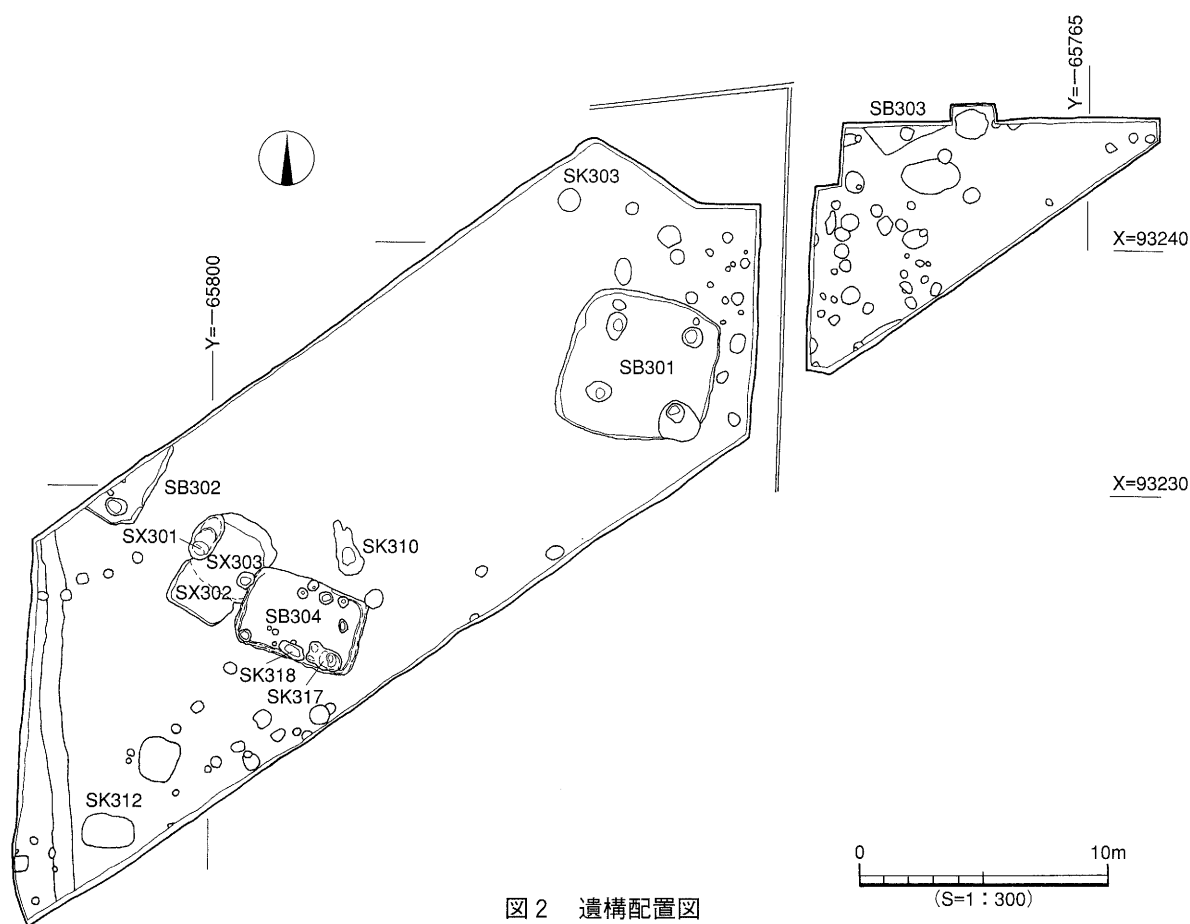


図 2 遺構配置図

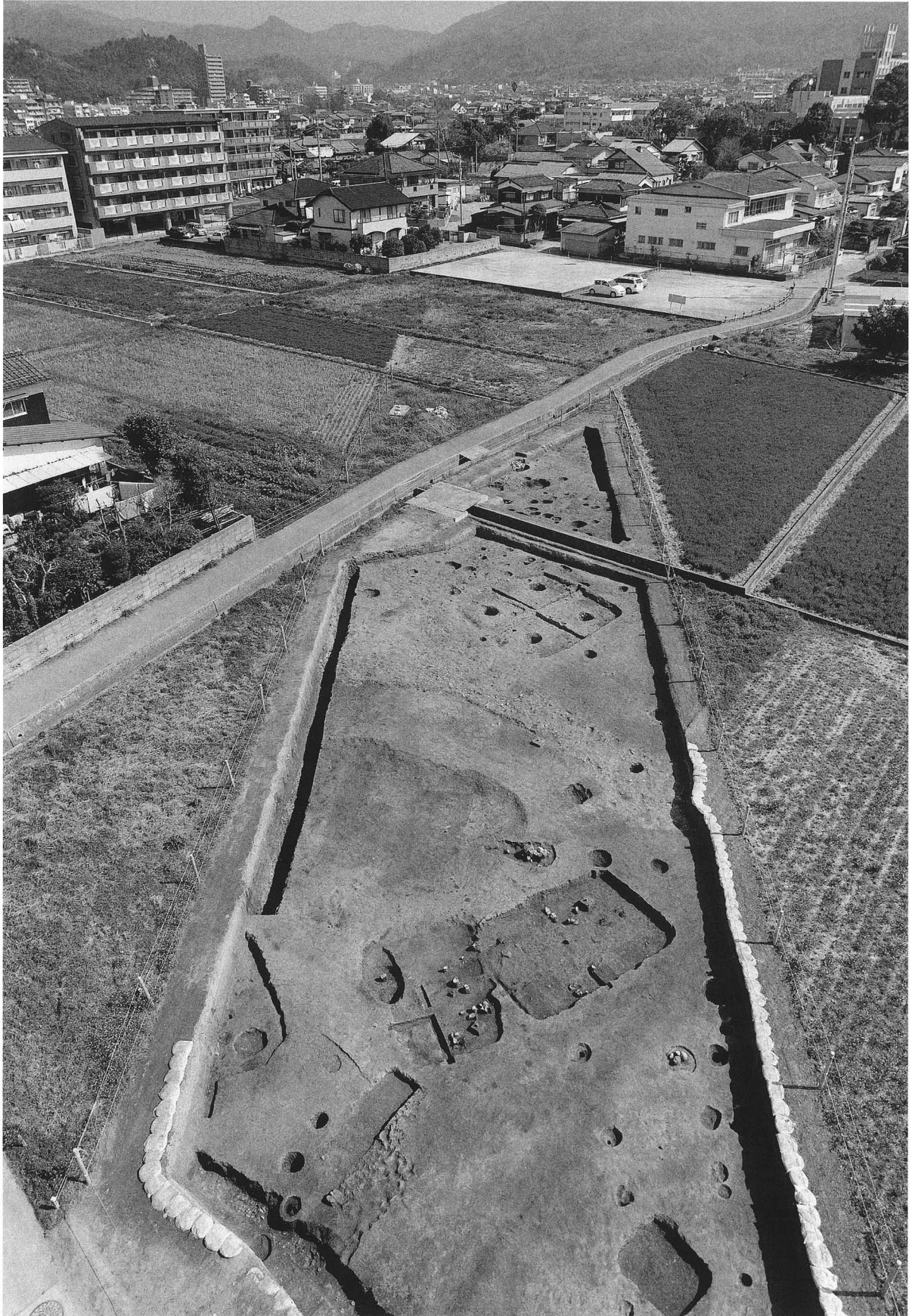


写真1 調査地全景（南西より）

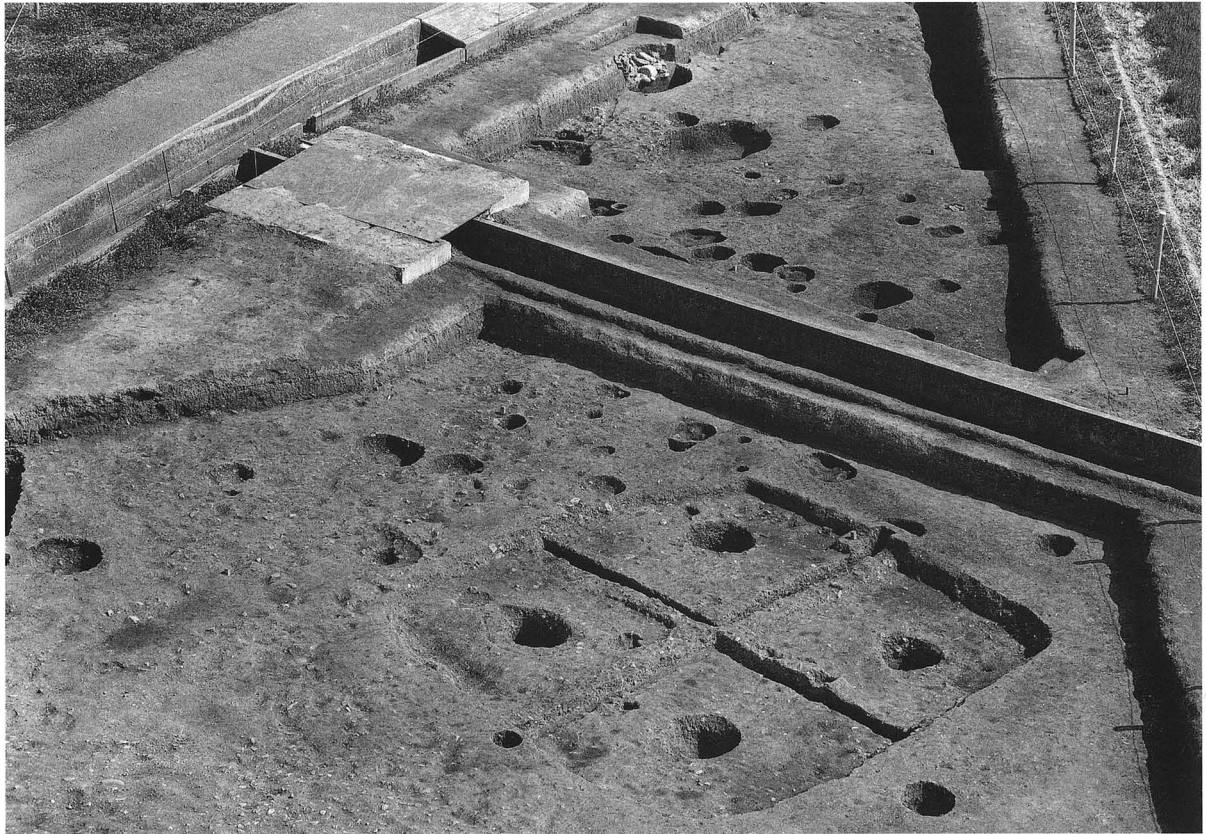


写真2 SB301完掘状況（南西より）



写真3 SB304遺物出土状況（北より）

えだまつ 枝松遺跡 6次調査地

所在地	松山市枝松一丁目433番2外
期間	平成14年11月1日～平成15年3月31日
面積	4,900m ² のうちの1,459m ²
担当	高尾和長・加島次郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は水田と畑であった。現地地形は調査地の北東側を通る市道桑原50号線を境界として、本調査地は3m程度土地が低くなっており、標高36.8mを測る。周辺では、これまでに枝松遺跡の調査が5回実施され、周知の遺跡として知られている。事前に試掘調査を実施したところ、数基の土坑と柱穴を検出し、さらには古墳時代～中世の土師器や須恵器を含む遺物包含層を確認したことから、集落の帰属時期とその広がりを確認すること、さらに古環境や古地形を復元する上での基礎データを得ることなどを主目的に本格調査を実施した。

遺構・遺物 基本層位は第Ⅰ層耕作土（層厚13～20cm）、第Ⅱ層褐灰色土（層厚0～6cm）、第Ⅲ層黒色土（層厚4～17cm）、第Ⅳ層にぶい黄褐色土（層厚0～40cm）、第Ⅴ層褐色砂礫である。第Ⅳ層以下の旧地形は調査区北東から南西へ向けて緩傾斜している。遺物包含層は第Ⅱ層と第Ⅲ層であり、遺物には弥生時代後期の土器、古墳時代中～後期・古代の土師器、須恵器、軟質土器、中世の土師器、須恵器などがある。ただし、これらの遺物は量的には少なくいずれも細片化しており、接合関係が認められるものは殆どない。したがって、遺物包含層の一部は、一段土地の高い市道桑原50号線以東側からの二次堆積層である可能性が考えられる。なお、第Ⅴ層以下はかつての石手川の氾濫に起因する堆積層であることを確認している。遺構の多くは第Ⅳ層上面で検出を行い、調査区の南西側に多く分布する傾向が認められた。

検出遺構は溝1条、土坑17基、柱穴104基である。遺構からは土師器の三足付き羽釜などわずかな遺物しか出土していない。ただし、遺構の多くは重複関係がみられず、埋土にも大差がないことを根拠として、遺構は14世紀段階に帰属するものが多いことが想定される。

小結 今回の調査では、溝、土坑、柱穴などを多数検出し、出土遺物の検討からこれらの遺構には14世紀段階に帰属するものがあることを確認した。したがって、当地は中世段階には居住域として土地利用が図られていたものと理解され、これは周辺における既往の調査成果を追認するものとなる。ただし、中世集落の構造については不明な部分が多いことから、今後は既往の調査成果との比較検討を通じて中世集落の広がりやその構造について検証を進めていきたい。（加島）

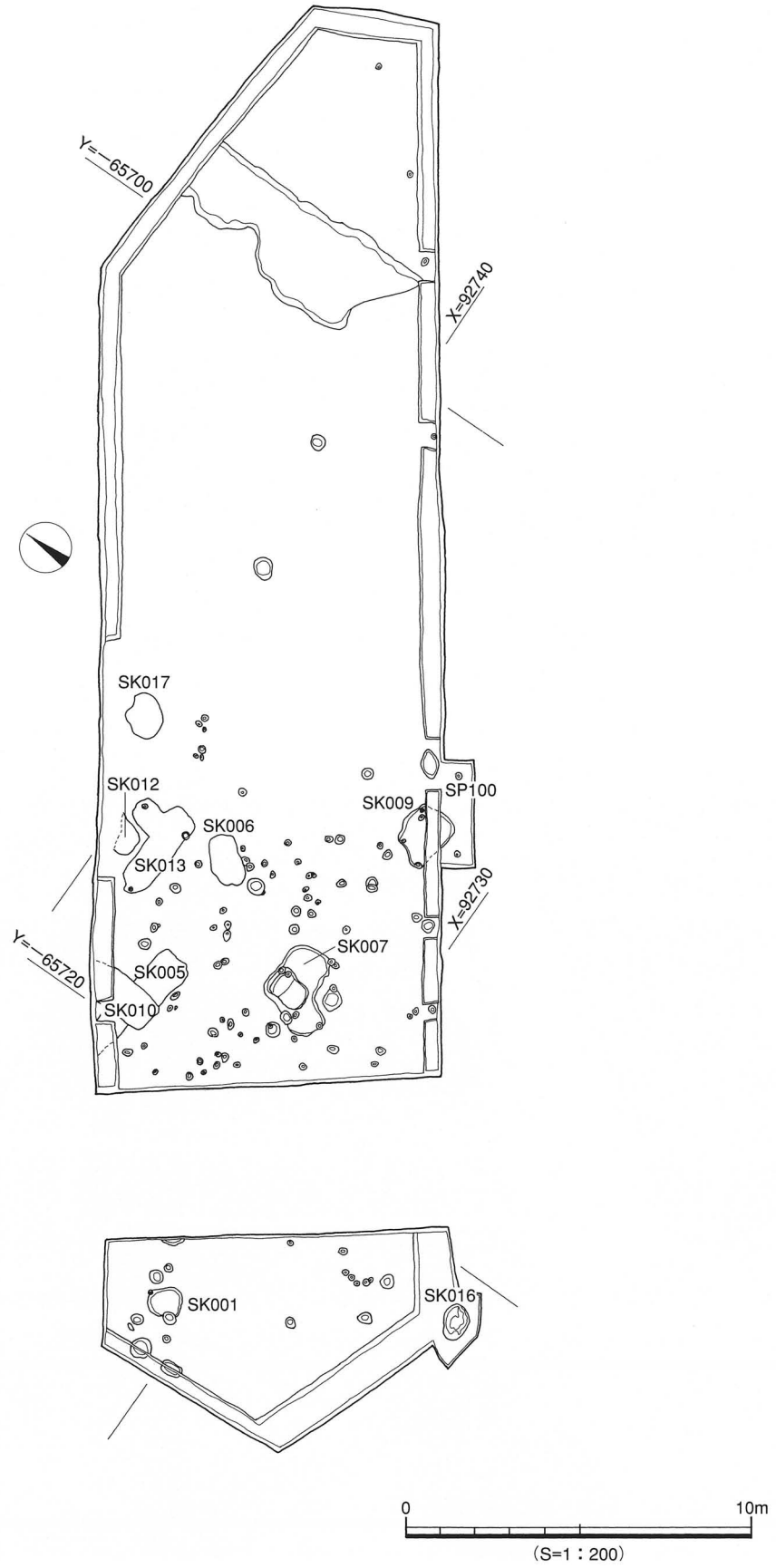


図 2 遺構配置図



写真1 調査地全景（南西より）

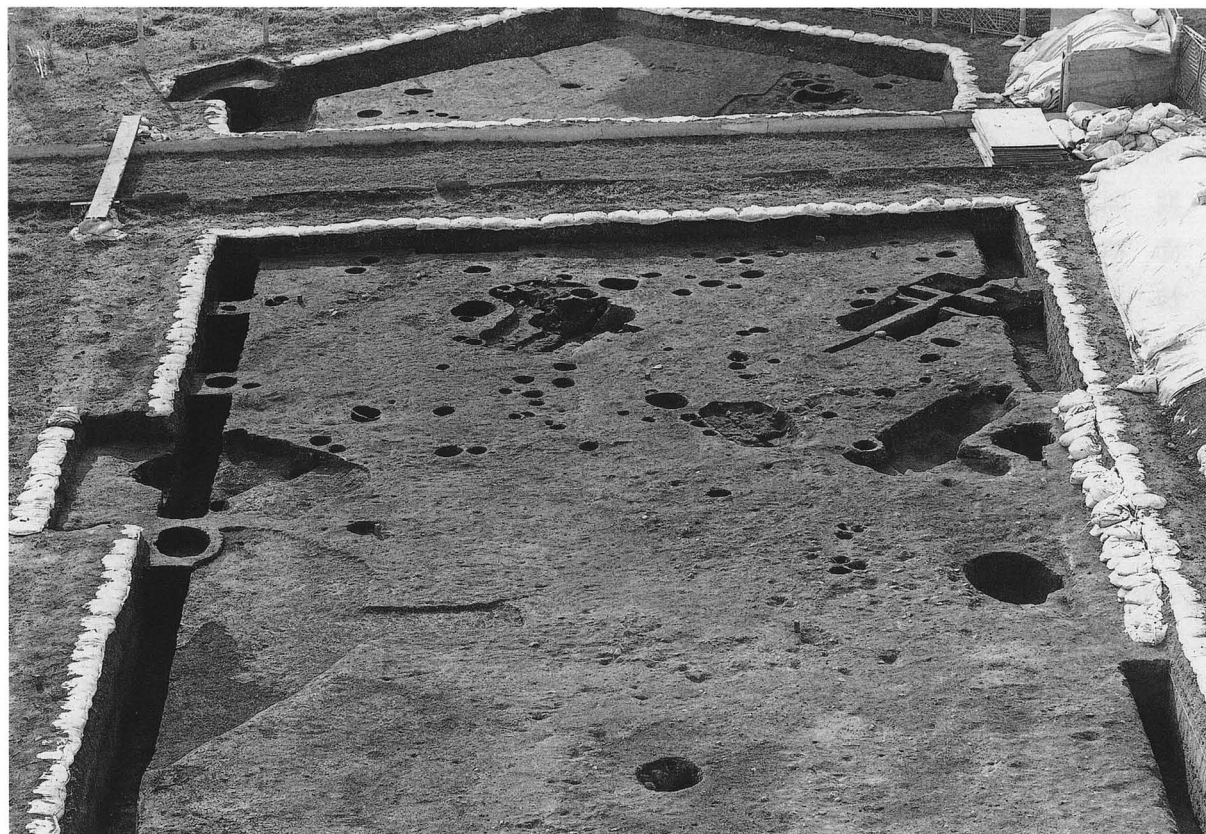


写真2 調査区西半部完掘状況（北東より）

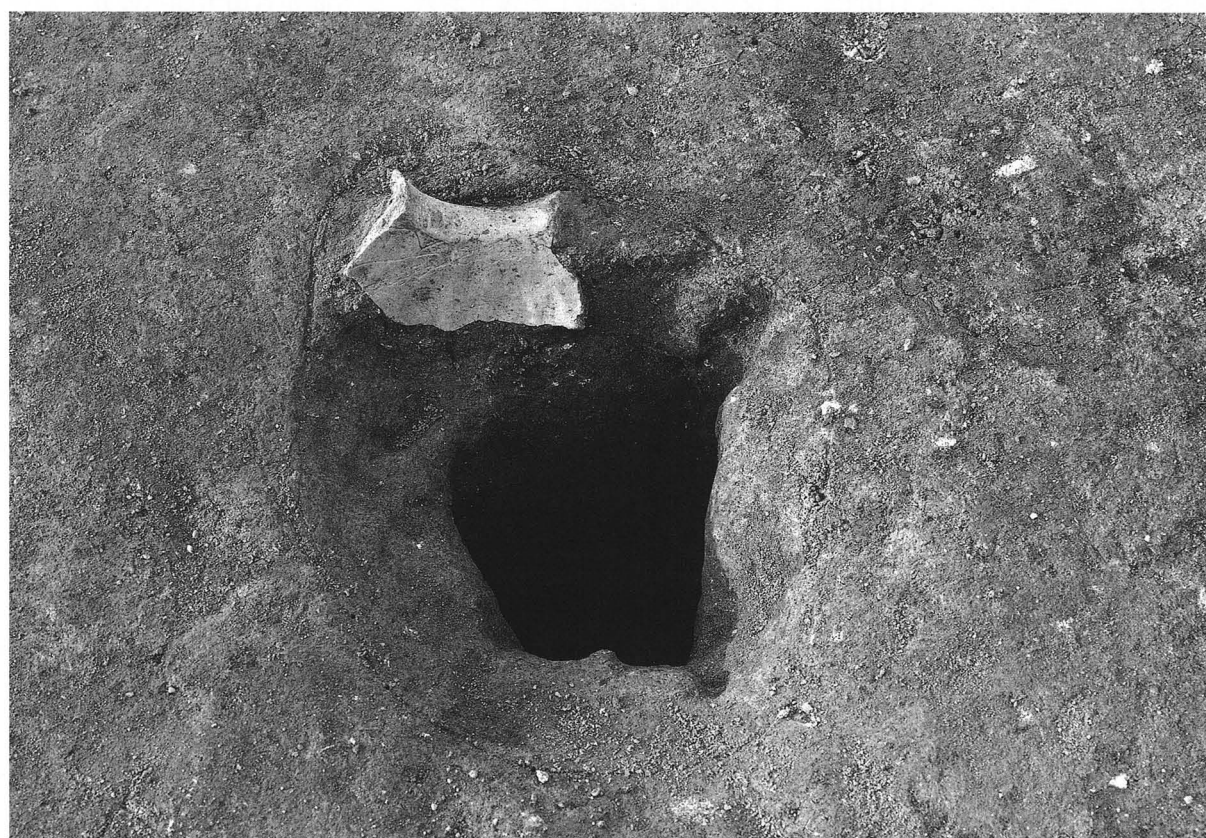


写真3 SP100遺物出土状況（東より）

えだまつ 枝松遺跡 7次調査地

所在地 松山市小坂2丁目96-3番地外
期 間 平成14年11月1日～平成15年3月31日
面 積 2,100㎡のうち830㎡
担 当 相原浩二・武正良浩



図1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道中村～桑原線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。申請地周辺はこれまでに数多くの調査が行われ、弥生時代～古墳時代にかけての集落関連遺構が確認されている。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認されたため本格調査を行う事となった。調査は、土砂置き場の確保と調査地を水路が縦断する事などから、調査地を3区画（1～3区）に分けて行った。

遺構・遺物 検出した主な遺構は掘立柱建物跡（掘立）1棟、土坑（SK）13基、溝（SD）7条、柱穴（SP）約300基、倒木跡（倒木）3基である。検出した遺構の時期は弥生時代、古墳時代、中世である。以下、時代毎に主要な遺構について説明する。

弥生時代の遺構には、SK111、SD103がある。SK111は、1区中央部に位置する。平面形態は、楕円形を呈する。検出規模は長軸51.0cm、短軸28.0cm、深さ9.0cmを測る。出土遺物より、弥生時代中期後半に比定される。SD103は、1区の西側で検出した溝である。北方向から南方向へ流れ、調査区南側で2条に分岐する。東岸沿いには、小溝が掘られる。検出規模は長さ17.00m、幅5.20m～6.25m、深さ0.41m～0.77mを測る。出土遺物は壺、甕、鉢、高坏、杓子型土器、石器では石鏃が出土した。時期は、出土遺物より弥生時代後期終末には埋没したと考えられる。

古墳時代の遺構にはSK104、SK107、SD201、SD202がある。SK104は、1区での検出である。平面形態は、円形を呈する。出土遺物は、土師器の甕3～4個体分が出土した。出土遺物より、古墳時代前期に比定される。SK107は、1区での検出で溝SD103を切る。平面形態は、円形を呈する。出土遺物は、土師器の甕1個体分が出土した。時期は、出土遺物より古墳時代前期に比定される。SD201、SD202は2区での検出である。SD201、SD202とも出土遺物は弥生土器片、須恵器片が出土した。時期は、出土遺物より古墳時代後期には埋没したと考えられる。

中世の遺構には掘立201、SK103、SD204がある。掘立1は東西1間、南北2間の小規模な掘立柱建物跡である。柱間は東西2.10m～2.19m、南北1.40m～1.60mを測る。出土遺物は土師器坏、鍋の口縁部が出土した。時期は出土遺物より、14世紀に比定される。SK103は、1区での検出である。平面形態は、楕円形を呈する。出土遺物は置きカマド片、土師皿が出土した。時期は出土遺物より14世紀に比定される。SD204は、2区での検出である。北側は、途切れる。検出規模は長さ12.45m、幅0.75m～1.95m、深さ0.92m～0.57mを測る。出土遺物は土師器片、常滑焼の甕の口縁部が出土した。時期は、出土遺物より14世紀に比定される。

小 結 今回の調査では弥生時代、古墳時代、中世の遺構・遺物を検出した。1区で検出した溝SD103からは、弥生時代後期後半～後期終末にかけての土器が多量に出土した。本調査地からは住居址の検出には至らなかったが周辺に弥生時代後期後半～後期終末の集落が営まれた事を示すものといえ



図2 調査区位置図

る。古墳時代では、土坑や溝を検出した。前期に比定されるSK104とSK107からは、甕が出土している。個体数に差はあるが、出土器種には共通性が見られた。中世の遺構は、掘立柱建物跡、土坑、溝のほか柱穴が多数検出されている。このことは、調査地周辺に中世集落が営まれていたと考えられる。今後は、調査地周辺における中世集落の構造解明が課題である。(相原)

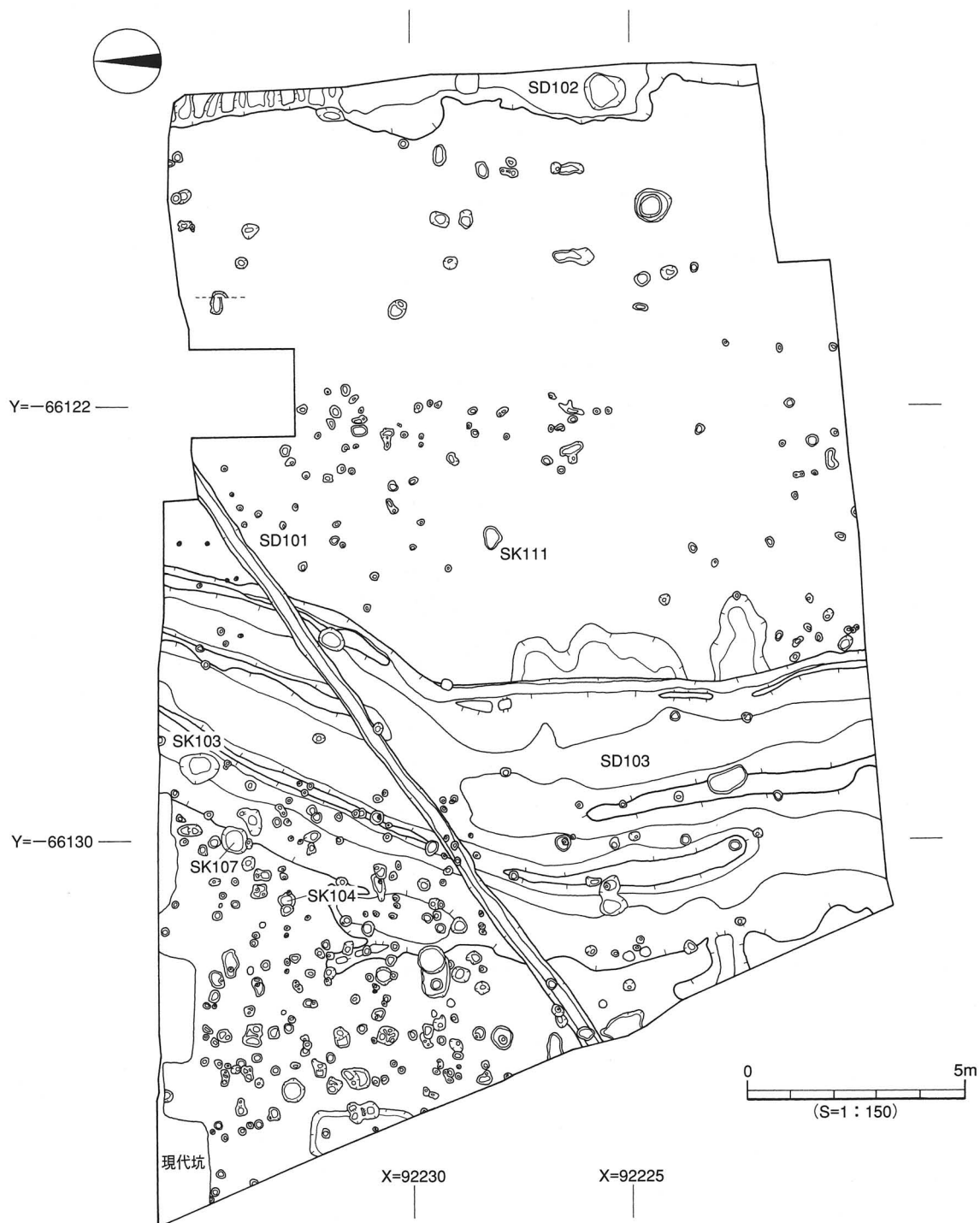


図3 1区遺構配置図

枝松遺跡 7 次調査地

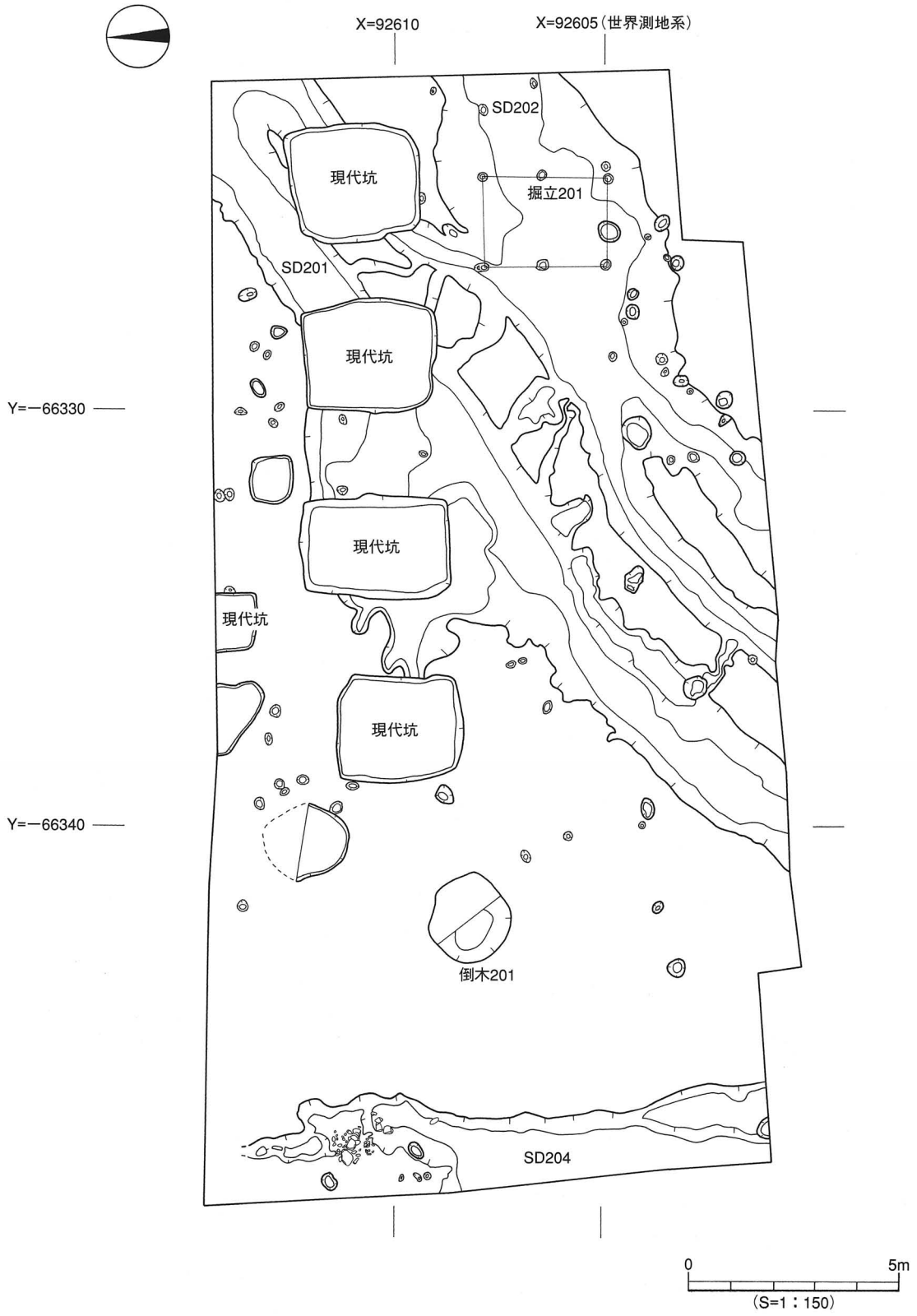


図 4 2 区遺構配置図

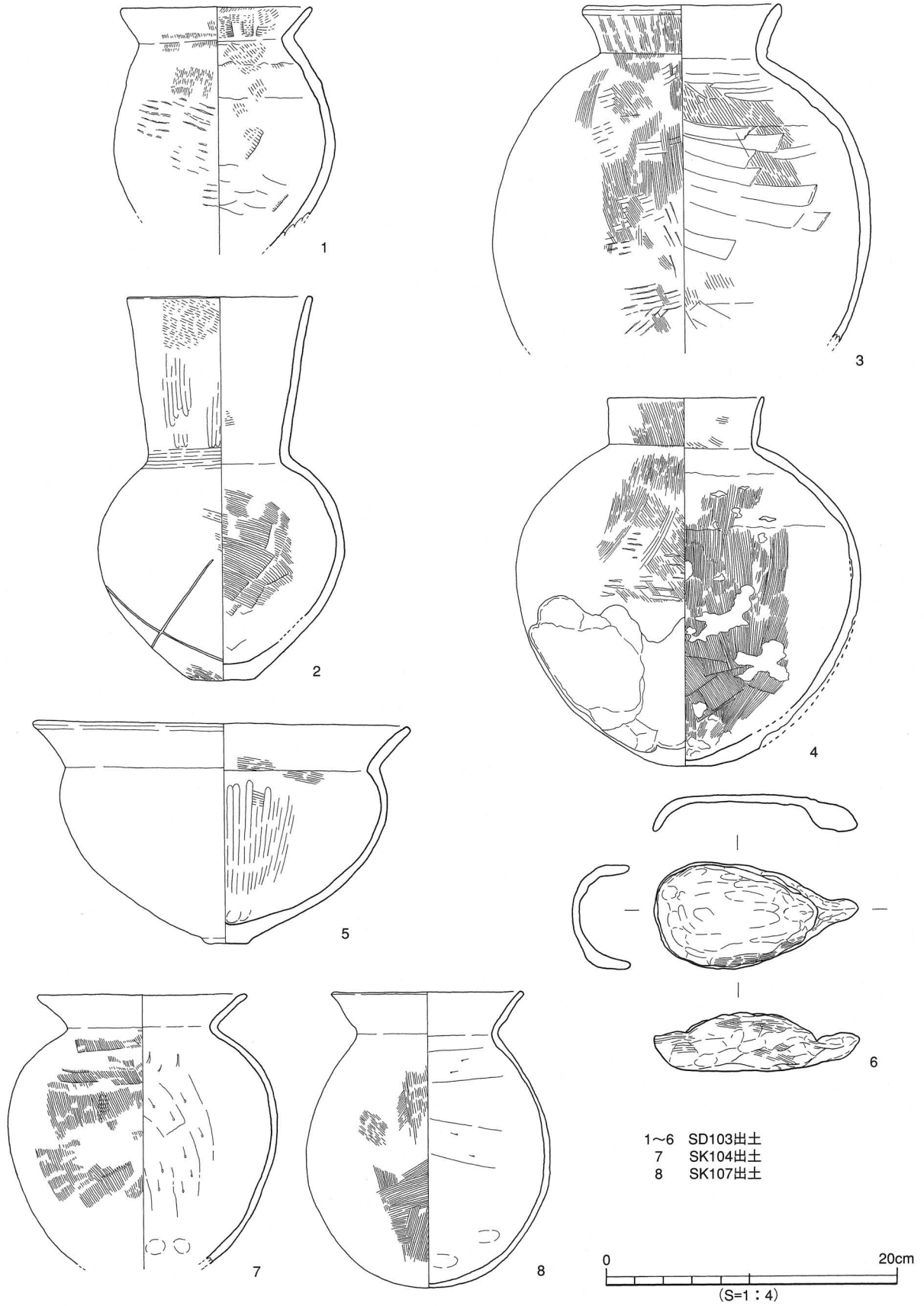


图 5 出土遺物実測図



写真1 2区完掘状況（西より）

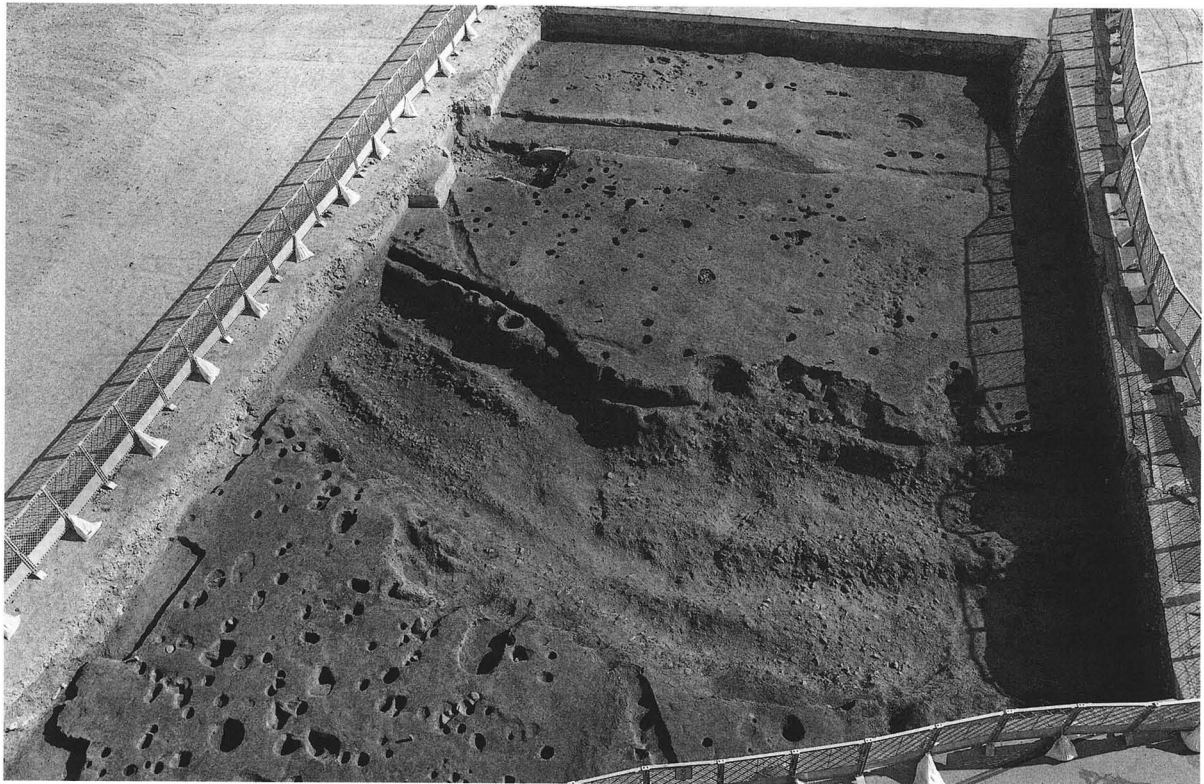


写真2 1区完掘状況（西より）

くわばら 桑原遺跡 4 次調査地（4 区）

所在地 桑原 5 丁目9-2、9-41
期 間 平成14年 4 月16日～同年 9 月13日
面 積 11,700m²のうち300m²
担 当 相原浩二・武正良浩

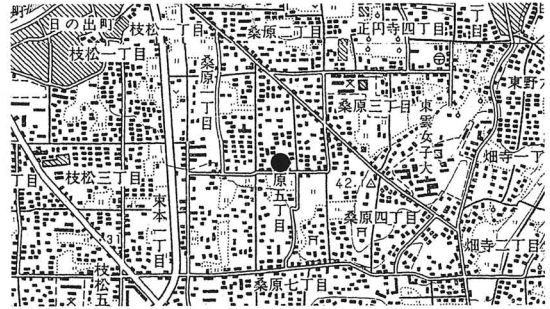


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道中村～桑原線の道路改良工事に伴う埋蔵文化財の事前発掘調査である。調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No82東本遺物包含地』と『No157桑原遺物包含地』内にあり、周知の包蔵地として知られる。周辺には、数多くの遺跡があり、弥生時代から中世にかけての集落関連遺構が多数確認されている。

桑原遺跡 4 次調査地は、これまでに 1～3 区と 5 区の調査が終了している。今回の調査が、最後の調査区となる。なお、4 区の調査については調査の都合上、区を西側（4 西区）と東側（4 東区）に分けて調査を行った。

遺構・遺物 検出した遺構は掘立柱建物跡（掘立）1 棟、柱穴（SP）18基、溝（SD）2 条、自然流路（SR）1 条である。検出した遺構のうち、時期を明確に確定できる出土遺物があった遺構は少ない。以下、主な遺構について記述する。

掘立 1 は、自然流路 SR 1 の上面で検出した。東西 2 間、南北 2 間の検出で全体規模は不明である。柱間は東西 1.40m、南北 1.00m を測る。柱穴規模は直径 18.0cm～24.0cm、深さ 18.0cm～25.0cm を測る。埋土は、暗灰色土である。時期は、出土遺物がなく正確な時期は不明であるが、埋土色から中世以降と考える。

柱穴 SP 11 は、SR 1 上面での検出である。平面形態は、不整形を呈する。検出規模は長軸 27.0cm、短軸 16.0cm、深さ 15.0cm を測る。埋土は、暗灰色土である。出土遺物は土師皿 2 点、鉄製品 1 点が出土した。遺物の出土状況は、土師皿 1 枚を柱穴底に置き、もう 1 枚を蓋をするように口縁を合わせた状態で出土した。時期は、出土遺物より 14 世紀に比定される。

自然流路 SR 1 は、調査区の北東部から南西方向に向かって流れる。調査区の西岸を検出し、東岸は調査区外となるため未検出である。SR 1 内には数条の流路痕跡があり、そのうち最も深い流路痕跡は調査区の中央部を走る。検出規模は長さ 17.6m、幅 20.4m、深さは最深で 1.0m を測る。出土遺物は弥生土器、須恵器、土師器などの土器類や石包丁、石錘、石鏃などの石製品のほか、種子や木製品が出土した。弥生時代の遺物は、調査区の中央部を走る流路部からの出土が多数を占める。時期は、SR 1 埋土上層の出土遺物より古代末頃には埋没したものと考えられる。

小 結 今回の調査では、弥生時代から古代末の遺物が出土する自然流路 1 条と中世以降の遺構・遺物を確認した。自然流路 SR 1 は、本調査地の南約 50m にある桑原遺跡 5 次調査地で検出された 2 条の自然流路 SR 7、SR 8 と位置的考察により同一の流路と考えられる。SR 1 からの出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物が多量に出土している。特に、弥生時代後期後半の遺物が溝底より多数出土しており、本調査区の周辺に弥生時代後期後半の集落が営まれているものと考

えられる。

中世以降の遺構は、これまで1区、2区、3区、5区の調査でも検出しており、今回の調査でも小規模ながら確認できた。SP11は、柱穴祭祀の一例として好資料となるものである。これまでの調査成果により、周辺には中世の集落が展開するものと考えられる。今後は、桑原地区における中世集落の構造解明が課題である。(相原)

文献：吉岡和哉 2003「桑原遺跡 5 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報14』

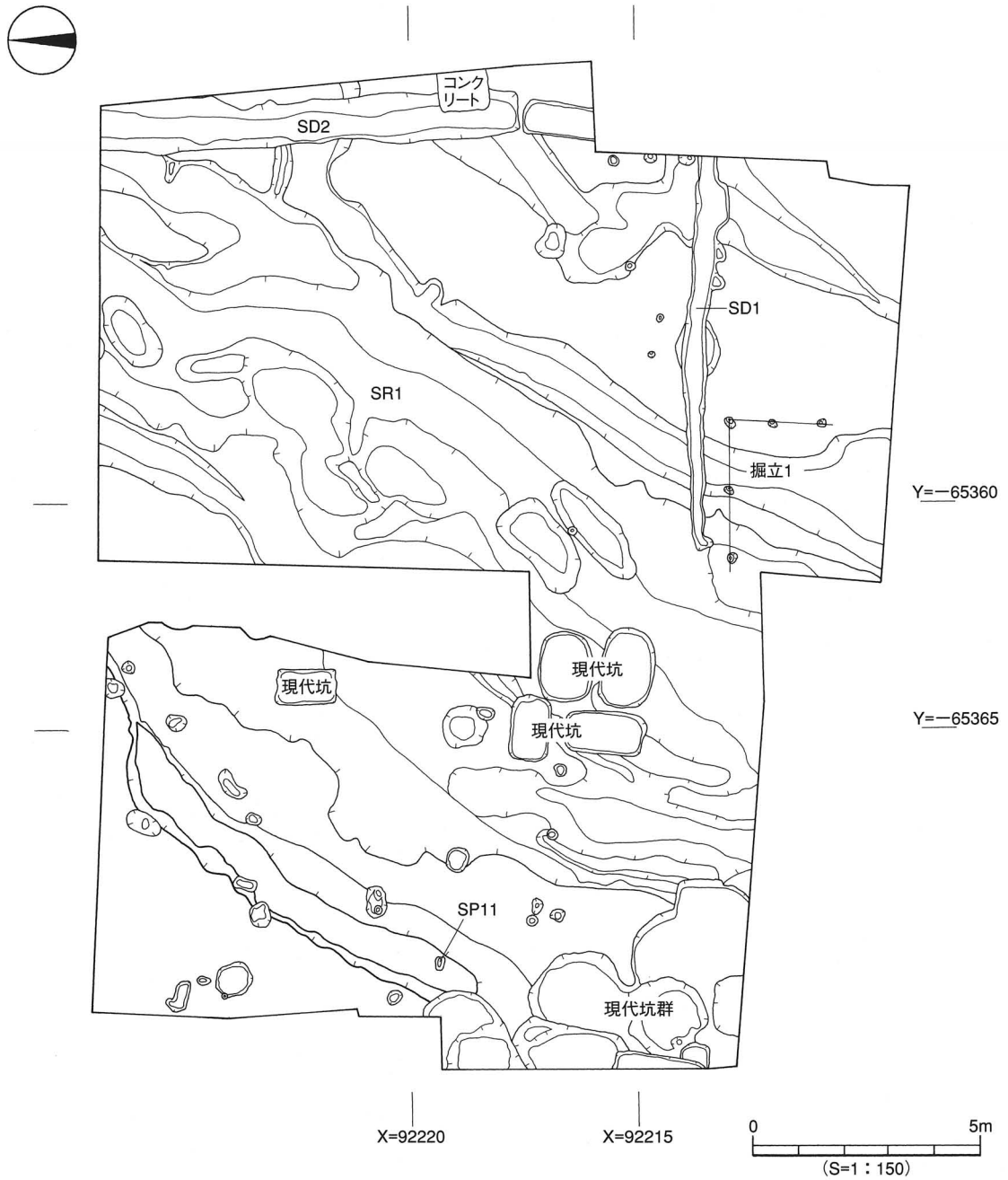


図2 遺構配置図

桑原遺跡 4 次調査地 (4 区)

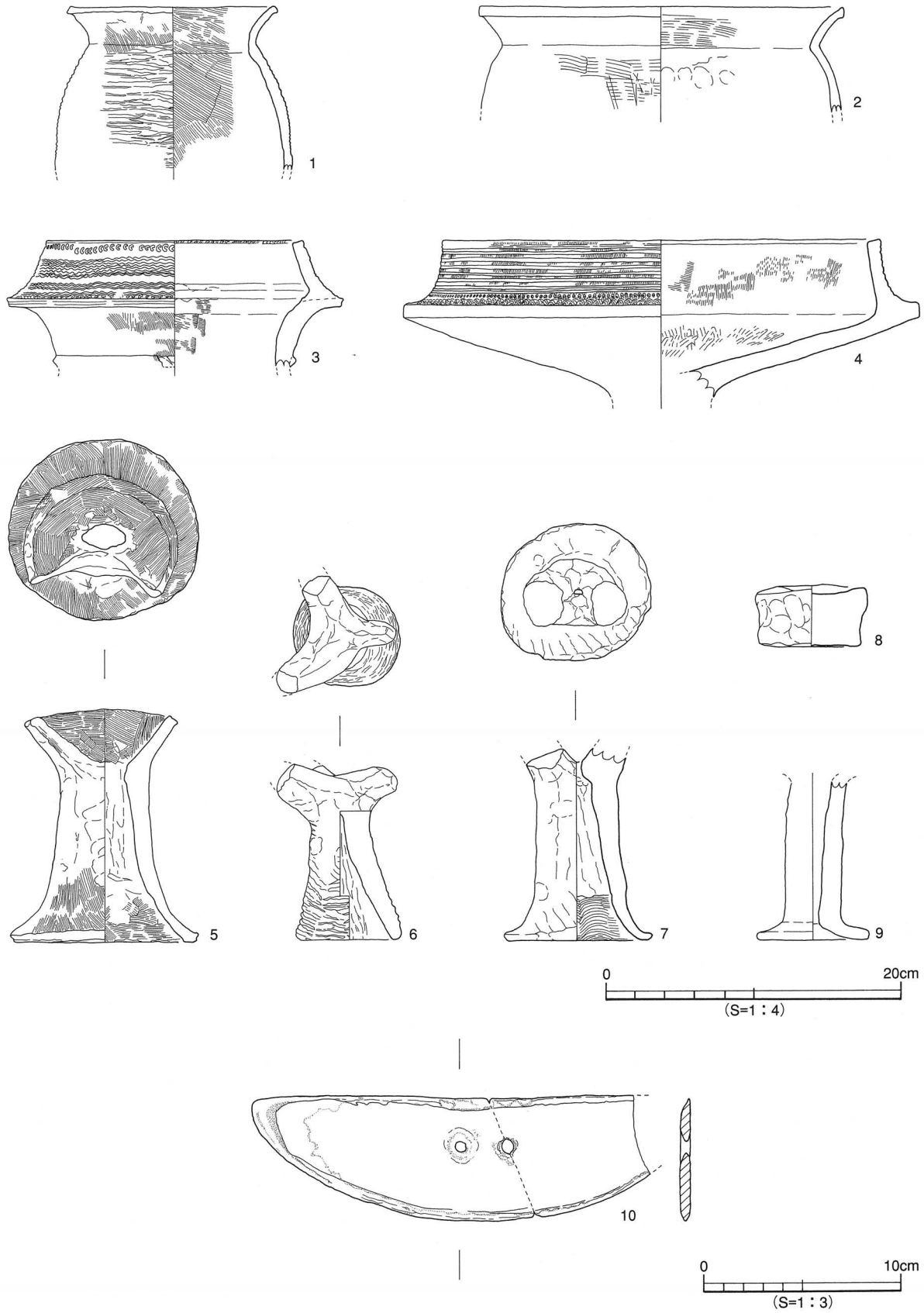


図3 SR1 出土遺物実測図(1)

桑原遺跡 4次調査地 (4区)

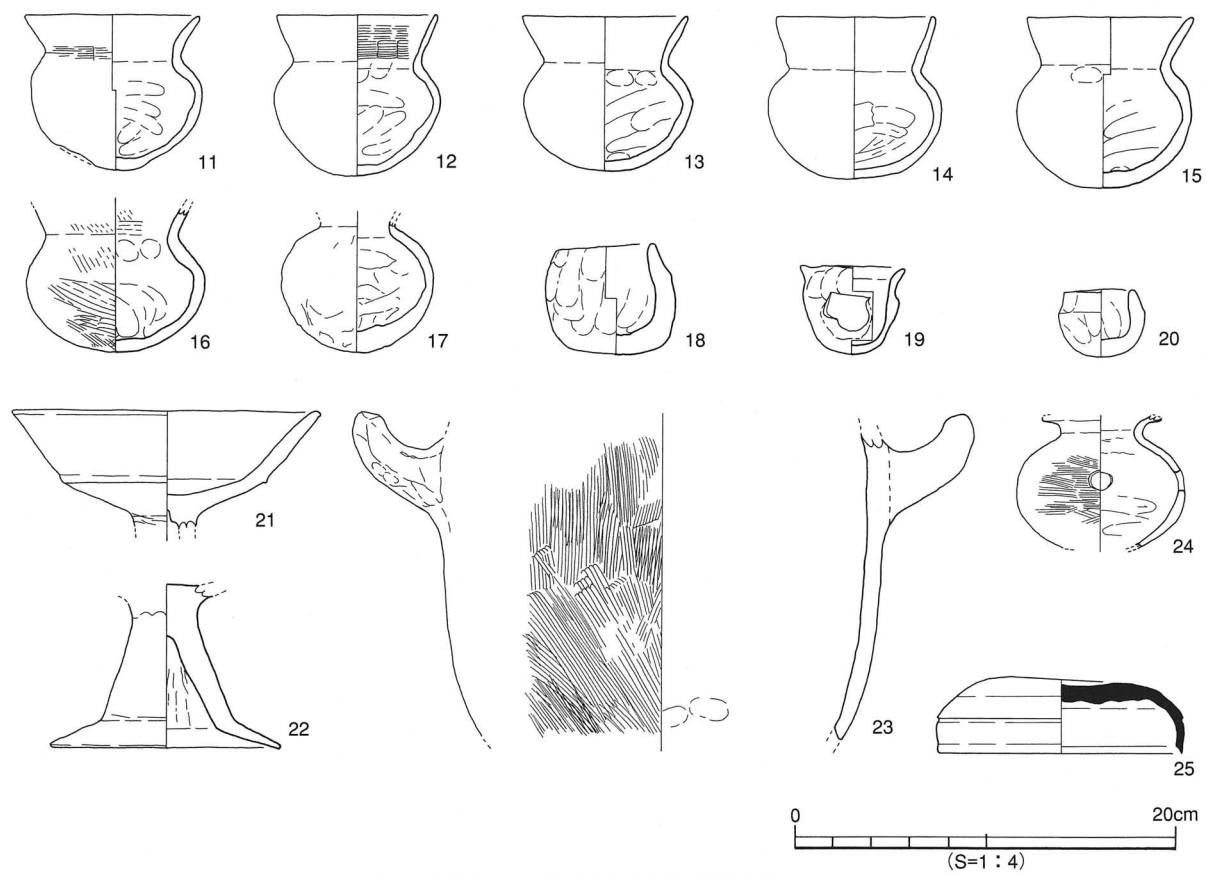


図4 SR1 出土遺物実測図(2)



写真1 4区東側完掘状況(西より)

にししい 西石井遺跡（4区～6区）

所在地 松山市西石井町355番地外
期間 平成14年4月1日～同年6月28日
面積 4,480m²のうち1,520m²
担当 水本完児・梅木謙一



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道「北久米・和泉線」道路改良工事に伴う事前調査である。調査地は松山平野の南部、標高19.2～20.0mに立地する。西石井地区では、弥生時代から中世までの集落関連遺構と遺物が多数確認されている。調査地西には、平成13年度に調査を行った西石井遺跡1区～3区があり、弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居址、溝、土坑、土器棺、古代の性格不明遺構を検出している（水本 2002）。

遺構・遺物 調査地の基本層位は第Ⅰ層表土（造成土・耕作土）、第Ⅱ層褐色土（水田床土）、第Ⅲ層暗褐色土、第Ⅳ層黄色シルト、第Ⅴ層灰白色シルト、第Ⅵ層砂層・礫層である。遺構は第Ⅳ層上面で、竪穴式住居址4棟、溝8条、自然流路1条、土坑10基、井戸1基、性格不明遺構2基、柱穴・小穴86基を検出した。このうち、古墳時代から古代までの遺構には自然流路1条と性格不明遺構1基とがあり、出土遺物には須恵器片と土師器片とがある。それ以外は弥生時代の遺構になる。

S D503は、5区の中央南～6区の北西部で検出し、溝の両端は調査区外へ続く。北東－南西方向の溝で、規模は検出長17.4m、幅0.5～1.9m、深さ4～24cmを測る。遺物は、溝底に完形品の弥生土器が一列に並んで出土した。

S K501は、調査区中央西側に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態は円形を呈し、規模は南北検出長0.8m、東西2.4m、深さ15～37cmを測る。遺物は、鉢形土器が出土した。

小結 5区・6区検出の溝S D503は、平成13年度に調査した2区の溝S D201と同じ方向を向くことから、集落を区画する溝の可能性がある。くわえて、溝の底から出土した完形の弥生土器は、当時の生活や日常道具の様子を具体的に示す資料である。今回の調査によって、4区～6区にも1区～3区と同様に弥生時代終末から古墳時代初頭まで（3世紀）の集落が存在し、集落間や集落内の様子が具体的に明らかになってきた。（水本）

文献：水本完児 2002「西石井遺跡（1区～3区）」『松山市埋蔵文化財調査年報14』

西石井遺跡（4区～6区）



写真1 4区完掘状況（北西より）



写真2 5区・6区完掘状況（西より）



写真3 5区SD3遺物出土状況（南西より）



写真4 5区SK501遺物出土状況（南より）

にししい 西石井遺跡 2 次調査地

所在地 松山市西石井町354番地 1 外
期 間 平成14年 7 月 1 日～平成15年 3 月31日
面 積 3,930m²
担 当 宮内慎一・相原秀仁

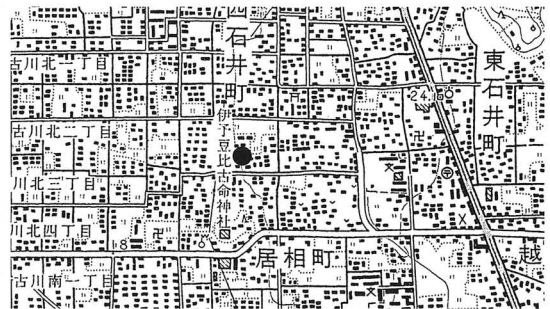


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道『北久米・和泉線』道路改良工事に伴う事前調査である。調査地は、全長250m、道路幅16m、調査対象面積3,930m²である。周辺では、調査地の西側にて西石井遺跡 1 次調査が実施され、弥生時代末から古墳時代初頭の竪穴式住居址や溝などの集落遺構が多数確認されている。さらに、北側には西石井荒神堂遺跡があり、弥生時代末の遺構や遺物が確認されている。これらのことから、弥生時代の集落様相や範囲を確認することを主目的とし、埋蔵文化財センターが主体となり、調査を実施した。調査は、調査地内を 5 つの地区に分区して実施した。調査地西側から東側に向けて 1 区、2 区、3 区、4 区、5 区とし、3 区は生活道路が地区内を横断していたため、さらに 3 つの地区に細分し、3 A 地区、3 B 地区、3 C 地区とした。調査の結果、弥生時代中期中葉から後期末の集落遺構や遺物を確認した。

遺構・遺物 調査地は松山平野南部、石手川の支流である小野川と重信川の支流である内川の 2 つの河川の氾濫に起因する扇状地上に位置する。調査以前は宅地や水田であった。現況の地形は北東から南西に向かって緩傾斜をなし、標高20,000～21,000mを測る。

基本土層は第 I 層表土、第 II 層耕作土、第 III 層黒褐色土、第 IV 層黒灰黄色土、第 V 層明黄褐色土、第 VI 層暗灰黄色土、第 VII 層黄色土、第 VIII 層灰色砂礫である。第 I 層は近現代の造成に伴う客土で、地表下20～80cmまで開発がおこなわれている。調査地東側 4 区を除く地区にみられる。第 II 層は水田耕作に伴う耕土で、調査地全域にみられ、層厚10～20cmを測る。第 III 層は黒褐色土で、調査地中央部 3 区を除く地区で確認した。調査地北東部から南西部に向けて緩傾斜をなし、層厚10～15cmを測る。本層中からは、主に弥生時代後期後半から末に時期比定される土器が出土した。第 IV 層は黒灰黄色土で、調査地中央部 2 区と 3 A・B 地区を除く地区で確認した。層厚 8～15cmを測る。第 V 層は明黄褐色土、調査地東側 3 C 地区と 4 区で確認した。層厚10～15cmを測る。本層上面にて遺構を検出した。本層中からは、主に弥生時代後期に時期比定される土器が出土した。第 VI 層は暗灰黄色土で、調査地西側 1 区を除く地区で確認した。層厚 8～20cmを測る。本層上面にて遺構を検出した。第 VII 層は黄色のシルト質土壌で、調査地全域で確認した。本層上面は、調査における最終の遺構検出面である。本層中からは、弥生時代前期に時期比定される土器が出土した。第 VIII 層は、小野川や内川の氾濫に起因する河川氾濫堆積物で、径 5～10cm 大の円礫と灰色の粗砂で構成される。本層上面は起伏に富み、さらに調査地北東部から南西部に向けて緩傾斜をなす。本層中からの遺物の出土はない。本調査で検出した遺構は、竪穴式住居址15棟、掘立柱建物址 1 棟、溝 5 条、土坑22基、井戸 3 基、柱穴200基である。こ

西石井遺跡 2次調査地

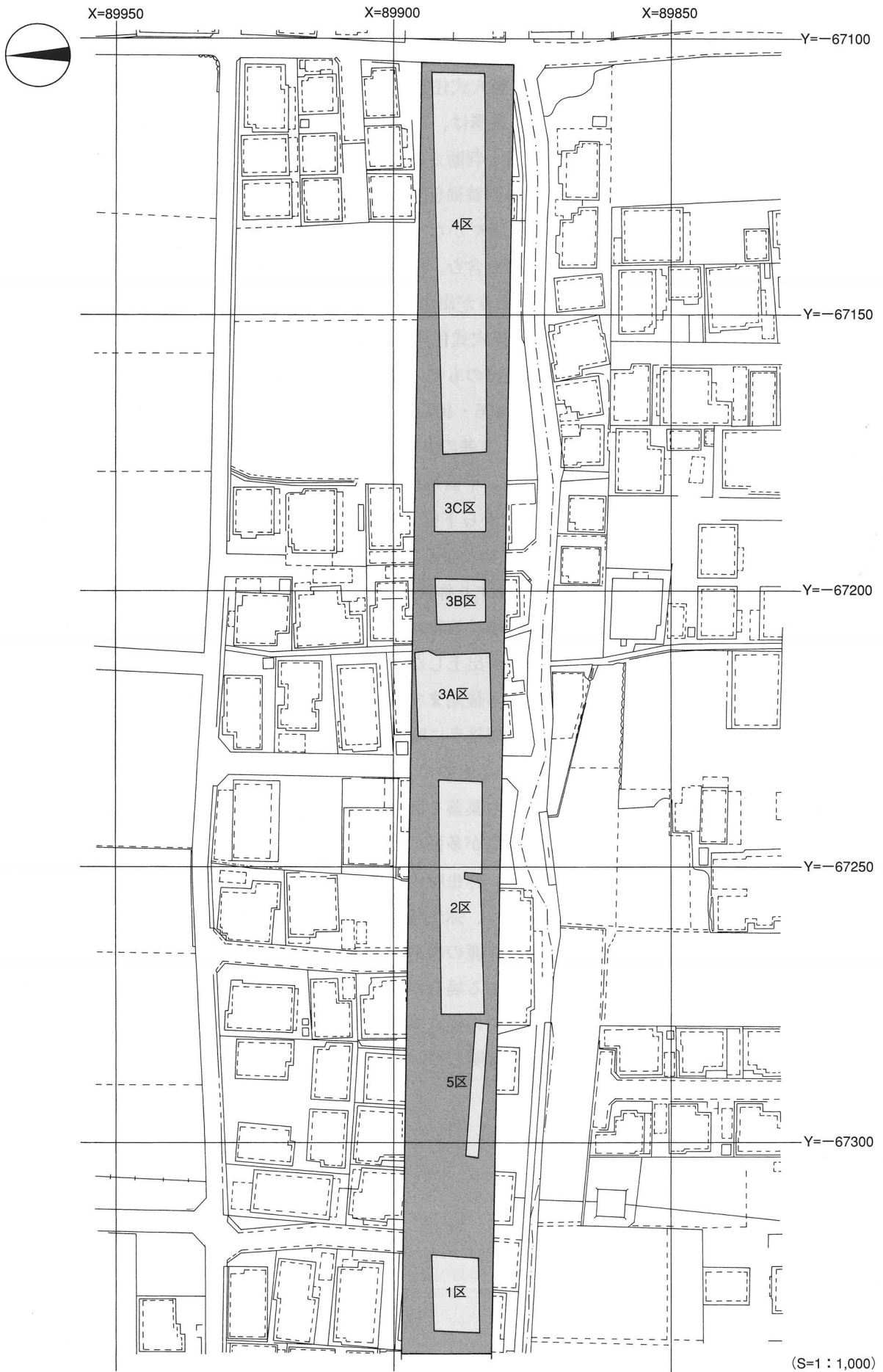


図2 調査地測量図

のうち、主な遺構について説明する。

【弥生時代中期】弥生時代中期の遺構は、竪穴式住居址3棟、溝3条、土坑8基である。すべて第Ⅶ層黄色土上面での検出である。注目される遺構は、3C地区と4区で検出した溝SD304・402である。両溝は形状や埋土、出土遺物から同一の溝と判断される。溝の西側は調査区外に続き、東側は北に折れ曲がり調査区外へ続く。溝上面は第Ⅴ層明黄褐色土が覆う。溝は井戸SE406・407で切られ、検出長50m、幅0.5～2mを測る。断面形態は緩やかな[U]字状を呈し、埋土は黒褐色土を基調とし、溝底と埋土中位付近に径1～2cm大の小礫を含む。溝内からは弥生時代中期中葉から後半の土器と石器が出土した。このうち、石器は200点あまりが出土し、半数以上の未成品を含んでいる。

【弥生時代後期】弥生時代後期の遺構は、竪穴式住居址8棟、土坑6基、井戸3基である。第Ⅴ層及び第Ⅶ層上面での検出であるが、第Ⅶ層検出のものは、本来は第Ⅴ層上面から掘り込まれたものである。注目される遺構は、3基の井戸(SE406・407・411)である。SE406・407は、SD402埋没後に掘削されたことが調査で判明している。3基の井戸はすべて素掘りであり、規模は、長径1.2～3m、短径1.1～3m、深さ1.6～1.8mを測る。平面形態はSE407・411が円形を呈し、SE406が楕円形を呈する。断面形態は井戸の上位と中位から下位とでは異なっている。SE406は上位が逆台形状を呈し、中位はやや袋状となり、下位は筒状となる。SE407は中位付近までは筒状となり、下位は袋状となる。SE411は上位から中位まではすり鉢状となり、下位は筒状となる。埋土は大きく上層、中層、下層の3層に分層され、中層から上層は放物線状に堆積し、中層から上層付近で2次掘削がみとめられる。遺物は、完形品を含む土器片が出土した。

小 結 今回の調査では、弥生時代前期から後期までの遺構や遺物を検出した。弥生時代前期の遺構は未検出であるが、第Ⅶ層黄色土内から前期後半に時期比定される土器片が出土した。

遺構は、弥生時代中期中葉から後期までのものである。中期中葉では、調査地東側で検出した溝SD304・402がある。これらは検出状況から集落を区画するための溝の可能性が高い。溝内からは多量の土器と石器が出土した。石器は、未製品が多量に出土したことから、調査地周辺に石器製作を行う人々の集落が存在している可能性が高い。弥生時代後期の遺構は、竪穴式住居址と土坑、井戸がある。特に、井戸は松山平野での検出例がなく、弥生時代の井戸の研究における貴重な資料となる。遺物では、分銅形土製品(6点)と絵画土器(鹿の線刻)が注目される。全国的にみると、分銅形土製品が5点以上出土する遺跡は、拠点集落である場合が多い。これらのことから、調査地のある石井地区は弥生時代中期から後期にかけて平野内での拠点集落のひとつであった可能性が高い。今後の周辺地域の調査により、石井地区の集落様相を解明していかなければならないであろう。(相原秀仁)



写真1 2B地区完掘状況(南西より)



写真2 3A地区完掘状況(西より)



写真3 SB201炭化物・焼土状況（南より）



写真4 SK205遺物出土状況（南東より）



写真5 SE411断面（南東より）



写真6 SE407遺物出土状況（北西より）

ひらい 平井遺跡 2 次調査地

所在地 松山市平井町甲3317番1外
期間 平成14年12月2日～平成15年3月31日
面積 1,400m²
担当 水本完児・梅木謙一

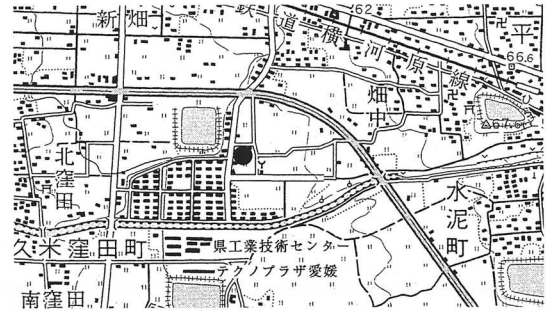


図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道「水泥南高井線」道路改良工事に伴う事前調査である。調査地は松山平野の南東部、標高52.2mに立地する。調査地の北側には平井遺跡があり、縄文時代晩期から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層茶色土、第Ⅳ層茶褐色土、第Ⅴ層灰褐色土、第Ⅵ層黒色土、第Ⅶ層黄色土、第Ⅷ層暗灰色粘土である。遺構は、第Ⅲ層上面で自然流路（SR1）1条、第Ⅴ層上面で溝（SD1）1条、第Ⅵ層上面で溝（SD2）1条と自然流路（SR2）1条、第Ⅶ層上面で柱穴（SP）6基を検出した。出土遺物には、SD1とSD2から弥生時代後期の土器が出土している。

SD1は調査区中央南で検出し、溝の両端は調査区外へ続く。東－西方向の溝で、規模は検出長6.5m、幅0.9～2m、深さ22～40cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は茶色土である。遺物には、弥生土器と石器とが出土している。

小結 今回の調査によって、平井地区には弥生時代後期後半の集落が存在したことを明らかにした。
(水本)



写真1 SD1遺物出土状況（東より）

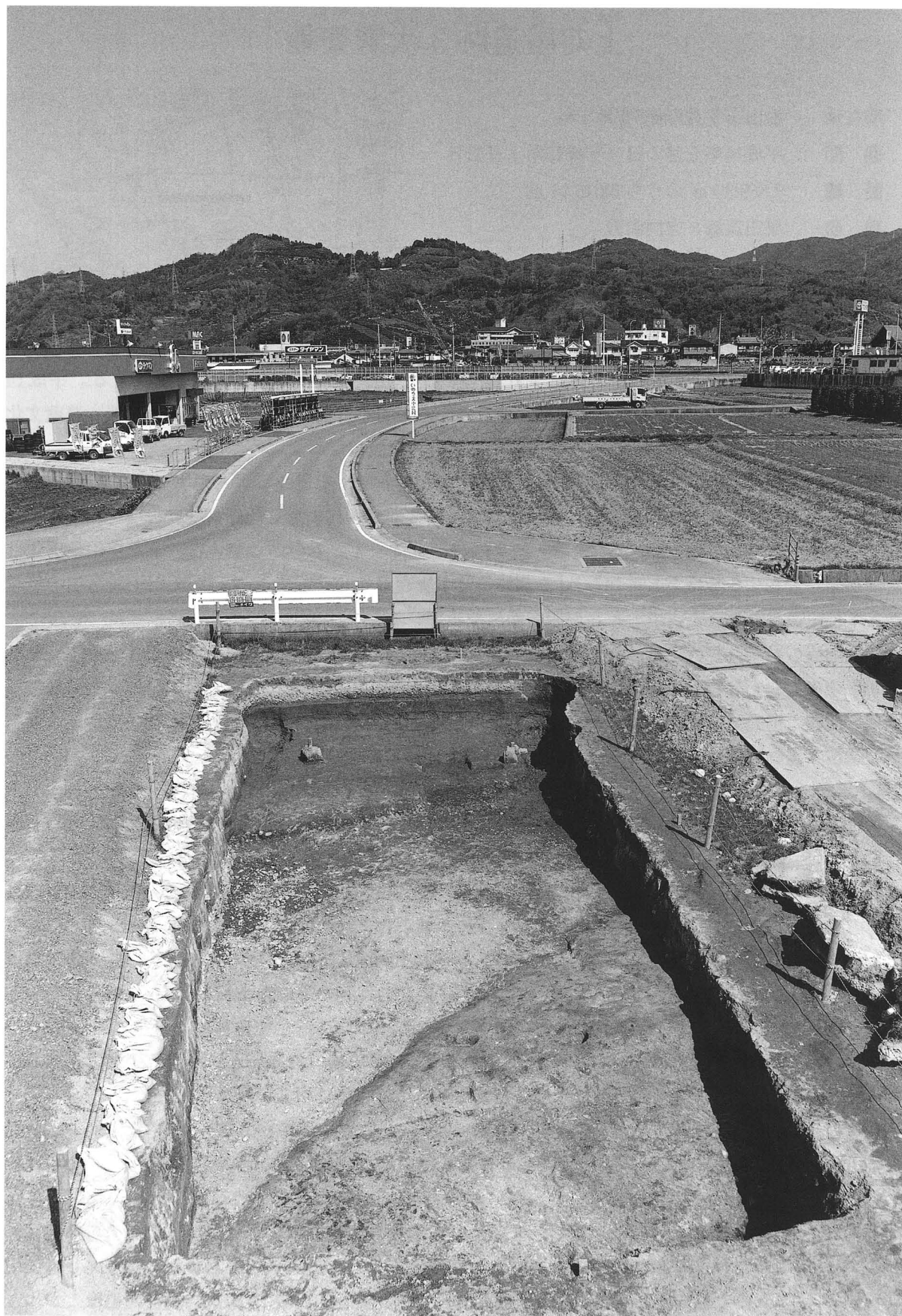


写真2 完掘状況（南より）

かみかりや 上苅屋遺跡 3 次調査地

所在地 松山市平井町865番地 1 外
期 間 平成14年 5 月 1 日～平成15年 1 月31日
面 積 7,689.39 m² のうち 5,015.11 m²
担 当 栗田茂敏・吉岡和哉



図 1 調査地位置図

経 過 遺跡は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No90 権現山古墳群」内に所在する。平成14(2002)年 4 月11日、松山市都市整備部道路建設課より市道小野158号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査の申請が松山市教育委員会文化財課に提出された。

申請地の西側には「古市遺跡」、「下苅屋遺跡 2 次調査地」や「古市遺跡 2 次調査地」、「五楽遺跡 1 区」など多くの遺跡が存在し、発掘調査によって古墳時代後期～古代の掘立柱建物跡、古墳時代後期の竪穴式住居址、弥生時代の土坑、自然流路、縄文時代の土坑などがみつまっている。また申請地周辺は古墳が多く分布する地域として知られ「上苅屋遺跡 1 次調査地」や「五楽遺跡 3 次調査地」では、6 世紀から 7 世紀頃に造られた古墳の存在が明らかになっている。

試掘調査の結果、柱穴、溝、自然流路などの遺構を検出し、遺構の内部あるいは包含層中より弥生土器、須恵器、土師器、土師皿、陶磁器などの出土がみられ、本格調査を実施する運びとなった。

遺構・遺物 道路建設予定地内部に合計11の調査区を設置し調査を実施した。各調査区で検出した主要な遺構と遺物に関する概略を以下に記す。

- 【1 区】 時期不明の倒木痕を 2 基、古代～近現代の柱穴を11基検出した。
- 【2 区】 近現代の積石遺構 1 基、時期不明の倒木痕 4 基、古代～中近世の柱穴を約60基検出した。柱穴の中には中世後期の掘立柱建物跡 1 棟および柱列 2 基が含まれる。
- 【3 区】 古代～中近世の柱穴を約50基、古墳時代～古代および中世後期の溝を各 1 条検出した。柱穴の中には中世後期の掘立柱建物跡 3 棟が含まれる。
- 【4 区】 古墳時代～中近世の柱穴を約30基、古墳時代の土坑および竪穴式住居址を各 1 基、倒木痕を 3 基検出した。柱穴の中には、中世後期の柱列 1 基が含まれる。
- 【5 区】 古墳時代～中近世の柱穴を約60基（うち 7 世紀以降の掘立柱建物跡 2 棟）、16 世紀頃の土坑墓を 2 基、中世後期の溝を 2 条検出した。土坑墓の副葬品として土師器杯、土師器小鉢、漆器（椀）が出土しており、また表土から石製硯および鉄滓が出土している。
- 【6 区】 古代～中近世の柱穴を約200基（うち中世後期の掘立柱建物跡 7 棟）、中世後期の土坑 3 基（うち16 世紀頃の土坑墓 1 基＝S K 1）、近世（17 世紀）の溝状遺構 4 条（S D 1～4）、中世後期の井戸 1 基（S E 1）を検出した。S E 1 は上部の直径約2.1m、基底部の直径約90cmを測る円形の井戸で、下部に曲物あるいは石組みなど壁面補強のための構造はみられない。廃絶に伴って人為的に埋め戻されることが確認されており、埋め戻しに使用された土砂内部より北宋銭（大観通寶）、須恵器、土師器、常滑焼、肥前陶磁などが出土している。また、井戸内部より須恵器、備前焼、底部に回転糸切り痕を有する土師器皿

等とともに数点の木製品などの出土がみられることから、16世紀を中心とした時期に機能していた可能性が高い。柱穴の埋土からの出土遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、土師器杯、土鍋、白磁壺、常滑焼（甕）、白磁合子などがあり、また土坑墓より漆器（椀）、人骨、土師器皿などが、溝（SD4）より磨製石斧、青磁蓮弁文椀C群、土師質土鍋、東播系須恵器こね鉢、常滑焼、肥前陶磁（唐津系）などが出土している。また遺構以外ではあるが、縄文土器、石器（搔器、打製石鏃）、鉄器（釘）などの出土もみられた。（図2）

- 【7区】 古代～中近世の柱穴を約30基（うち中世以降の掘立柱建物跡1棟）、8～9世紀の溝を2条検出した。
- 【8区】 古墳時代後期～中世後期の柱穴を約20基（うち掘立柱建物跡2棟）検出した。
- 【9区】 古代～中世後期の柱穴を約60基（うち8世紀の掘立柱建物跡1棟）、弥生時代中期の自然流路を1条（SR1）、8世紀の溝を2条（SD1、2）検出した。掘立柱建物跡（掘立1）より須恵器、土師器、鉄製刀子などが出土しており、またSD1より内面に暗文を施す土師器皿の出土がみられた。（図3）
- 【10区】 柱穴を数基、弥生時代中期から古墳時代後期に流れていたと考えられる自然流路を2条検出した。
- 【11区】 10区の自然流路に繋がると考えられる弥生時代中期～古墳時代後期の自然流路を1条検出した。埋土中より弥生土器の小片および須恵器坏蓋、鉄鏃の出土がみられた。

小 結 調査の結果、主に弥生時代から近世の遺構や遺物を確認することができた。なかでも特に、古代および中世後期～近世初頭にかけての集落構造を理解する上で貴重な成果が得られたと言える。

9区では、8世紀の掘立柱建物跡とほぼ平行な位置に溝が2本走る様子が看取されるなど、古代の集落に関する多くの情報が得られた。これまで周辺において当期の集落に関する情報はほとんど得られておらず、8世紀代における土地利用の状況解明につながる貴重な資料である。

また、6区を中心とした範囲に中世後期の掘立柱建物跡や溝、土坑墓、井戸などを確認し、さらに近世初頭に位置付けられる溝（SD4）および、それと平行して刻まれた耕作痕跡（SD1～3）を確認できるなど、中世後期から戦国期を経て近世初頭に至るまでの貴重なデータが得られた。

調査地は「高市武者所清義」等の居城とされる平井城や、「丸山左近通国」の居城とされる丸山（円山）城など中世城郭が密集する地域に位置することから、今後は当地の歴史的な背景を踏まえた上で整理作業を推し進め、遺構の時期および性格を判断し集落構造の分析に努めなくてはならない。

（吉岡）



图 2 6 区遺構配置图

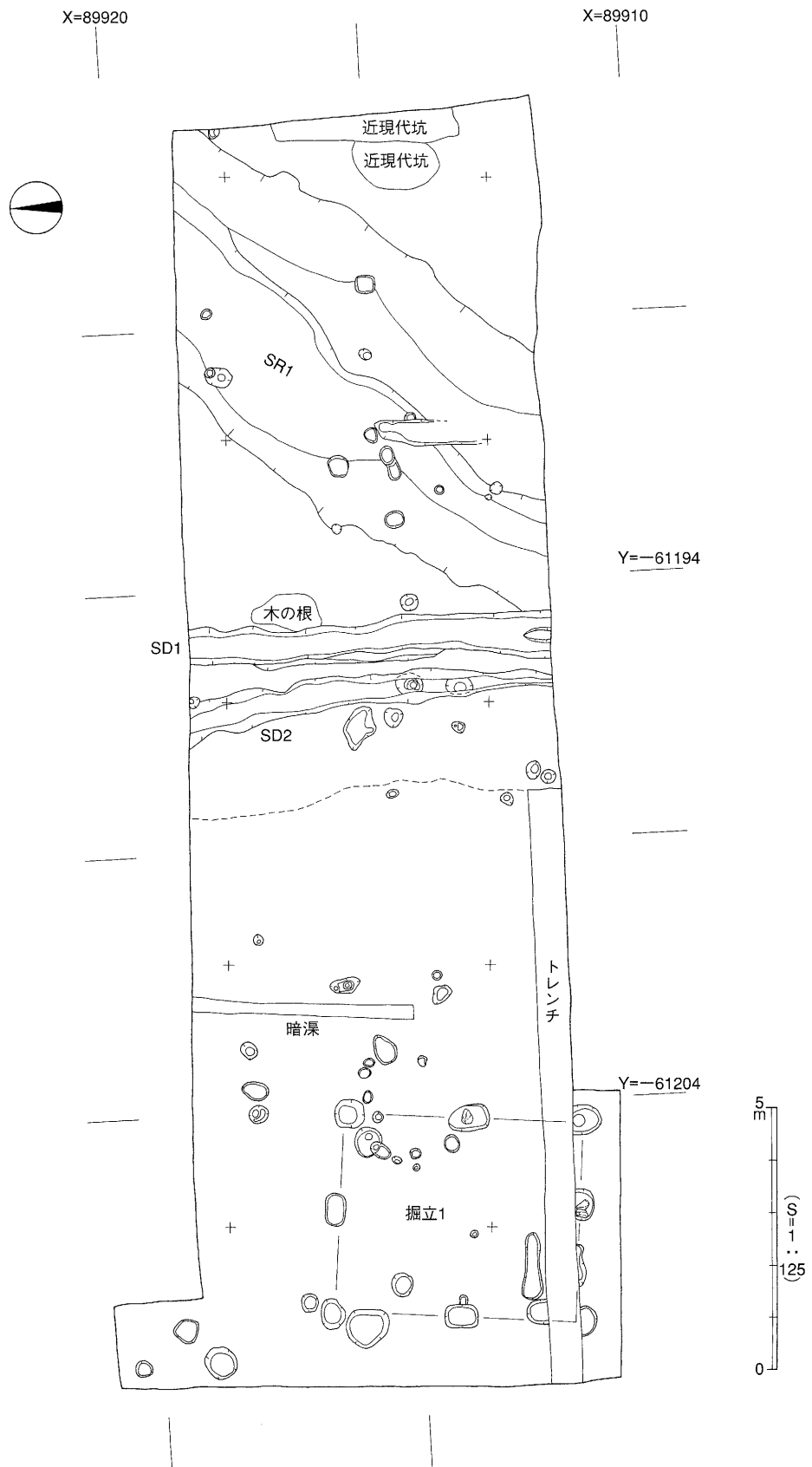


図3 9区遺構配置図



写真1 1～4区完掘状況（西より）



写真2 5区完掘状況（西より）

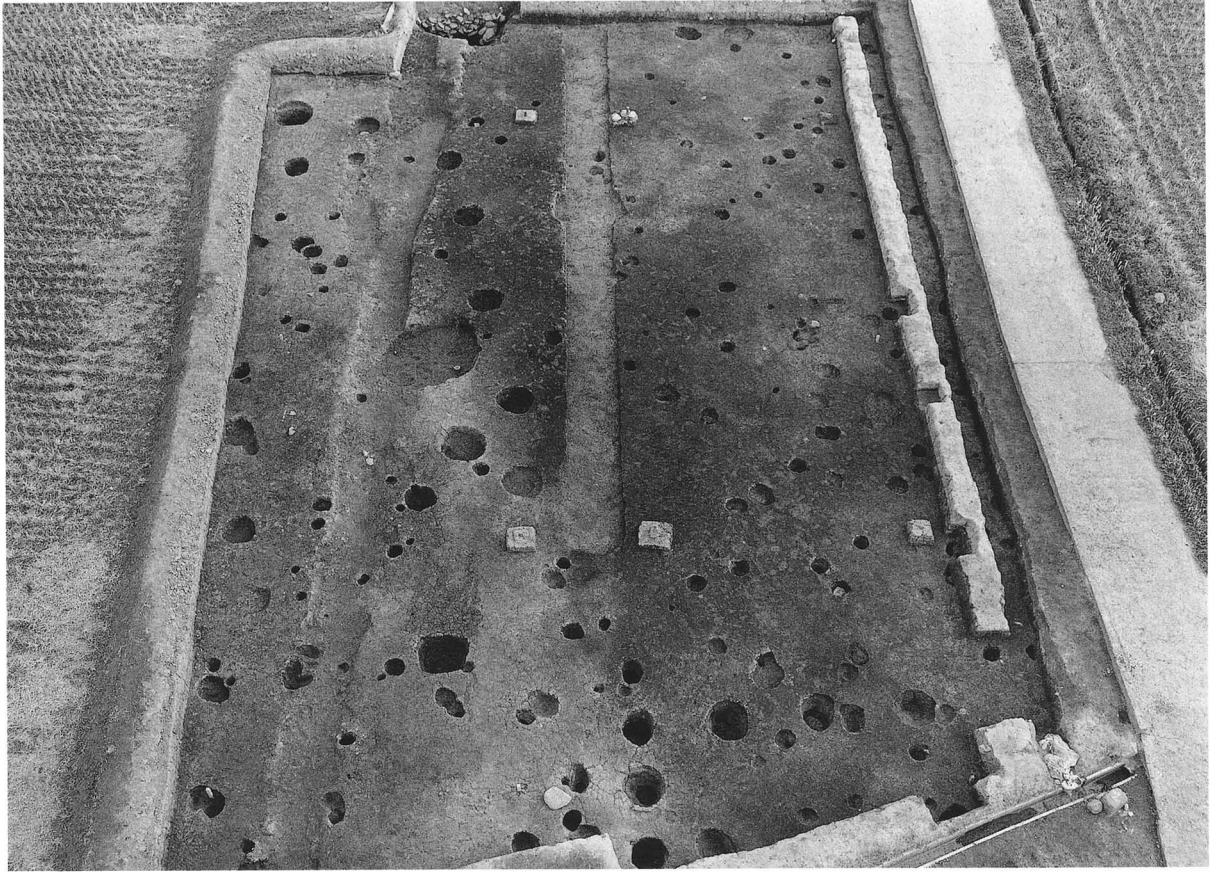


写真3 6区完掘状況(西より)



写真4 9区完掘状況(北西より)

まつやまじょうほんまる
松山城本丸跡 2次調査地

所在地 松山市丸之内 1
期 間 平成14年 9月19日～平成14年11月15日
面 積 約42m²
担 当 田城武志・栗田正芳（文化財課）

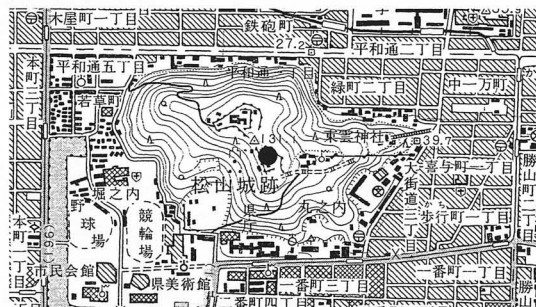


図1 調査地位置図

経 過 史跡松山城跡は、加藤嘉明が慶長7（1602）年1月15日から約二十余年かけて丘陵「勝山」に本丸、南山麓に二之丸、その西に堀をめぐらせた三之丸を築いた城郭で、全国でも有数の連立式平山城である。

平成13（2001）年3月24日に発生した芸予地震と6月の長雨によって、松山城本丸広場の石垣近くに地割れや陥没が起こり石垣に変位を及ぼしかねない状態となった。そのため、地割れ等の地下への被害状況を把握するためトレンチ調査を平成13年度に実施した。今年度は、本丸広場の排水施設を整備するため西面石垣にある排水口（馬具櫓と太鼓櫓の中間）に伴う排水施設の確認を主目的に、3本のトレンチを設定し一部では拡張して調査を実施した。

遺構・遺物 排水口に付随していた東西方向の石組排水溝（SD1）を1条検出した。石組の北側は二段積みで一段目4石と二段目2石分、南側は一段目5石分を検出した。石組は東西検出長約1.25m、溝幅約25cmを測る。二段に積まれていたことから暗渠構造であったと推測される。検出された石組部分の東側には近現代の円形土坑があり、その土坑によって溝両側に据えられていた石などが抜き取れて、さらに溝を廃棄する段階に多量の礫を詰めていることが解った。また、東側2本のトレンチで確認された溝痕跡から考えて、SD1は北東方向に折れ曲がっていたと考えられる。

3本のトレンチから出土した遺物には、17世紀代の備前焼大甕片、18世紀後半の肥前系・瀬戸美濃系陶磁器片、軒平瓦片、鉄釘などがある。

小 結 松山城本丸の古絵図には、広場の排水施設は一切描かれていない。ただし、幕末の古絵図の中に、今回の調査で確認されたSD1の東方に「用水口」を描いている古絵図（伊予史談会蔵）がある。今後は、この「用水口」の確認並びにSD1の東側部における排水施設の確認など、広場内における江戸時代の排水施設を明らかにする必要がある。また、東面石垣にも排水口が存在しているため、その施設を確認し、広場全体の排水計画を検討していかなければならない。（文化財課 栗田正芳）

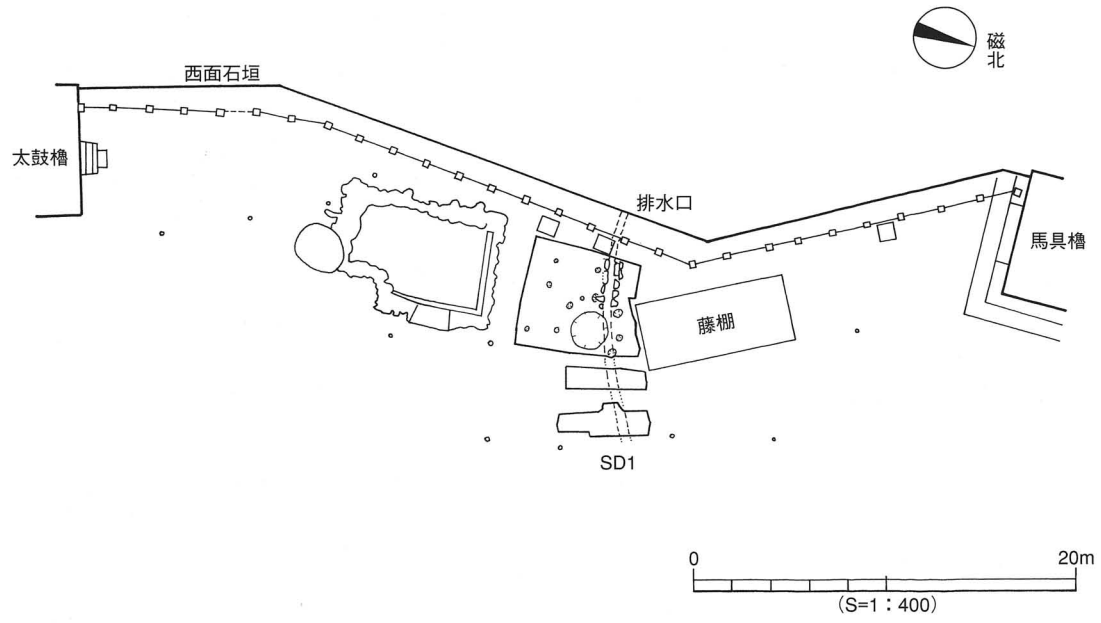


図2 遺構配置図



写真1 調査地全景 (東より)

まつやまじょうに の まる
松山城二之丸跡 4 次調査地

所在地 松山市丸之内 5
期 間 平成14年 4 月18日～平成15年 3 月31日
(一部継続調査中)
面 積 約500m²
担 当 栗田正芳・篠田久恵 (文化財課)

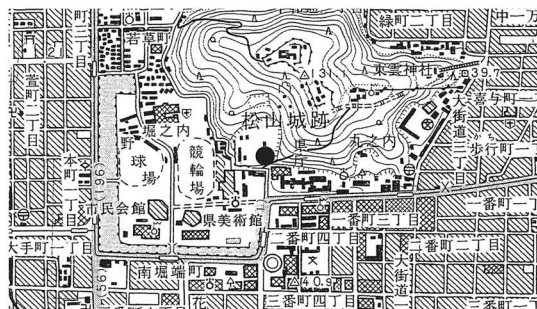


図 1 調査地位置図

経 過 松山城は、松山藩初代城主加藤嘉明によって慶長7 (1602) 年から築城工事が始まった。二之丸は二代目城主蒲生忠知の治世 (寛永4 (1627) ～同11 (1634) 年) に完成したと言われている。この二之丸跡は昭和59 (1984) 年から3 か年かけて発掘調査が行われ、平成4 (1992) 年に史跡庭園として開園し現在にいたっている。

平成13 (2001) 年3月24日に発生した芸予地震と同年6月の長雨によって、松山城内 (本丸・二之丸) のいたる所で被害が発生した。二之丸跡では、石垣に孕みやズレが起こり、また石垣上面に地割れ、建造物に歪みなどが生じた。被災した中で特に槻門石垣・巽櫓跡石垣・南石垣は、石垣が崩落する危険性が高く早急に解体が必要となった。平成14年度は巽櫓跡石垣と南石垣を解体・積み上げ工事を行うために事前調査を4次調査として実施する。

遺構・遺物 巽櫓跡と南石垣の確認調査、また、南石垣解体中に発見された横穴式石室「城の内3号墳」について説明する。

①巽櫓跡…巽櫓跡は南東にある丘陵裾部に位置している。南面石垣 (本丸との登り石垣) と北面石垣との比高差は約0.3～3mを測り、北面石垣上にある矩折部の石積み部分にのみ平坦面がみられる。確認調査の結果、南面石垣に沿う控え柱列 (柱穴4基) 1条、盛土内で南北方向の土留め用石列1条、北面石垣東端でも土留め用石列1条が検出される。出土遺物は、石垣の天端石周辺並びに盛土内から18～19世紀にかけての瓦片 (塀・平・丸・滴水など) がある。

控え柱列の柱穴は、楕円形を呈する平面プランで長軸約0.9～1.3m、短軸約0.4～1m、深さ約0.5～0.7mを測る。柱痕跡は直径約0.18mで石垣から斜め下方向に深くなり、約0.5～0.8mの深さを測る。おそらく6寸柱が埋められていたと思われる。柱痕跡間は、約2.2～2.4mを測る。北面と西面石垣に沿う柱穴は検出されていない。

また、解体後、北面石垣の中に墨刻「品」されている石1石が発見される。

西面石垣の根石調査では、南石垣に沿う柱穴2基と北側で東西方向の石列1条が検出され、石列の被覆土中から18世紀後半～19世紀の瓦片 (塀・平・丸など) と鉄釘が出土している。

②南石垣…南石垣では解体工事掘削範囲を対象として確認調査を実施した。結果、2・3次調査において確認されている東西方向の石組水路跡1条が検出され、その西側で2時期にわたる建て替えが行われた建物「番所」跡とそれに付随する雨落ち溝1条、「門」跡の礎石列1条が検出される。古い段階の「番所」跡は礎石建物で、廃絶後、瓦片を多量に含む土で整地した上に腰石を西・北側に巡らせた礎石列の建物に建て替えられている。古い段階の「番所」跡検出面より下層には、鞆の羽口・鉄滓・炭を多量に含む整地土層があり、これら遺物のほかに陶磁器片 (肥前系呉器手碗) の出土もみら

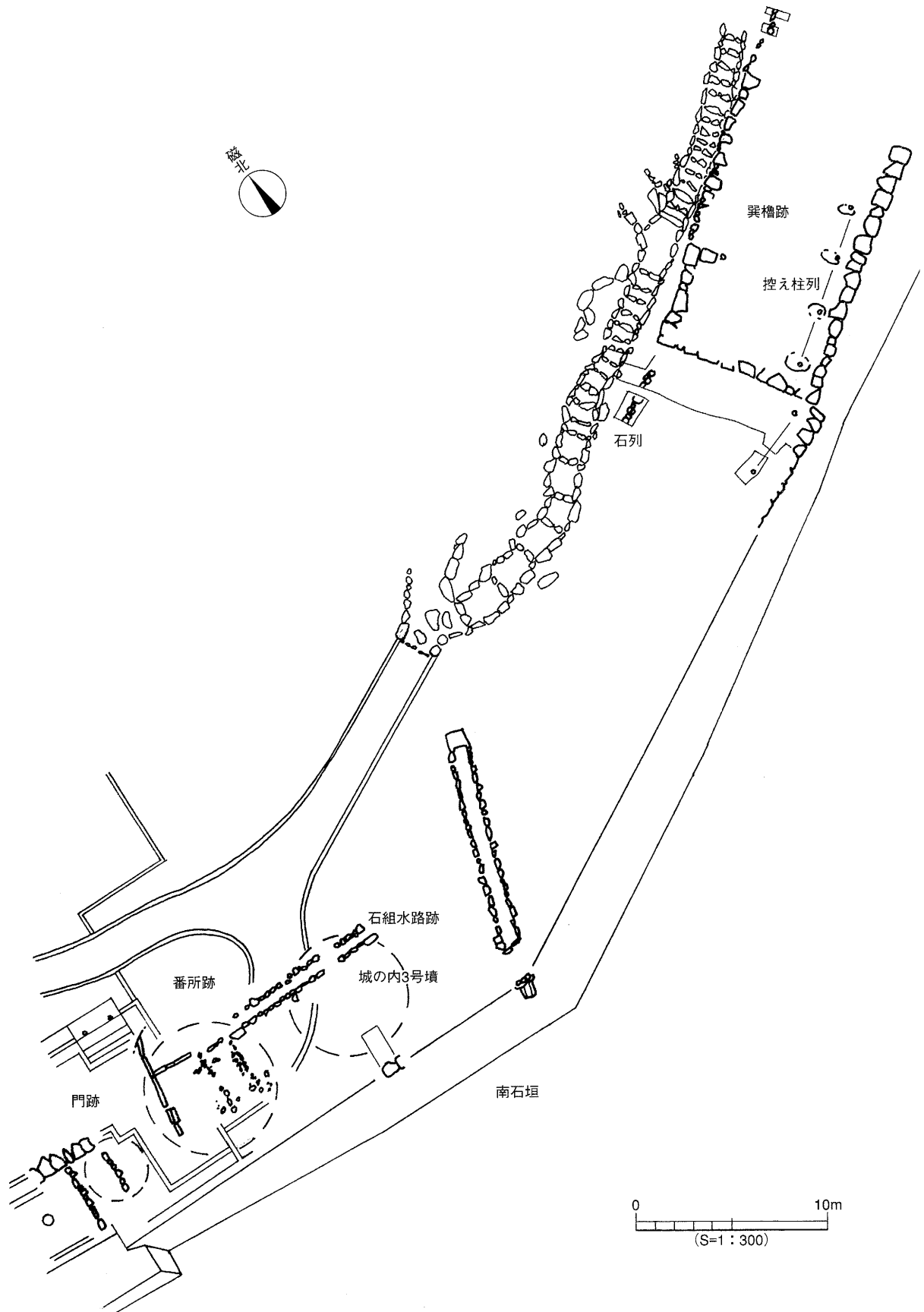


図2 遺跡配置図

れる。

③城の内3号墳…城の内3号墳は、丘陵斜面に造られた横穴式石室の古墳で玄室部分と天井石1石が良好に遺存している。羨道部や前庭部は、江戸時代における石垣工事によって削平を受け現存していない。玄室部の調査対象は、検出された天井石から玄門部までの範囲とし天井石より奥壁側については現状保存される。

玄室部の東側で周溝の一部を確認し直径約10～12mを測る円墳と推定される。玄室の規模は、玄門側で幅1.6m、奥壁側で幅約2.1m、長さは2.4m以上（推定）、深さは約1.5m以上を測る。玄門部は、南側に位置し両側に立石が並ぶ両袖式で段構造をもっている。

玄室からの出土遺物は、須恵器（坏蓋・短頸壺・長頸壺・甕・平瓶・鼎型壺）、土師器碗、鉄製品（鞘尻金具・釵子・鉄鏃片）、金銅製品（耳環・飾り金具）などがあり、墳丘からは須恵器（坏身片・高坏片）の出土がみられる。玄室内部は、版築状の土層堆積をなし15世紀後半の土師器小皿・杯が出土している。

墳丘を被覆する江戸時代の初期盛土から青磁碗片・備前焼壺片・渡来銭などが出土し、この初期盛土を削平する盛土層から軒平瓦片が出土している。

小 結 今回、調査を行った巽櫓跡、南石垣、城の内3号墳についてそれぞれ簡単にまとめてみる。

①巽櫓跡…巽櫓跡は、控え柱の検出と現地形から考えて櫓が建てられていた可能性は極めて低く、幕末絵図では巽櫓が今回の調査地よりも更に東へ登った場所に描かれ、現在も櫓台としてふさわしい石積みが存在している。このことから調査地は、いわば「物見台」的な櫓台の可能性はある。

また、巽櫓跡の南側石垣（登り石垣）にあった控え柱の伴う堀（土堀？）の廃絶時期については、明確な記録が残っていない。明治初期の『地理圖誌』の中で三之丸藩庁、本丸、登り石垣の土堀などが描かれている。三之丸藩庁は、明治2（1869）～3（1870）年までの約1年余りしか機能していないため三之丸藩庁以後に堀が廃絶したと考えられる。

②南石垣…検出された「番所」跡の建物規模は、明治時代以降に礎石などが抜き取られているため明らかにすることは出来ないが、整地土層（輪の羽口・鉄滓などと共伴する肥前系呉器手碗（生産年代1650～1690年））の上に礎石建物が建てられ、その後に礎石列の建物に建て替えられているという建物の変遷を明らかにすることができた。礎石列の「番所」跡の時期に「門」跡も共存し、明治時代初期に廃絶していることが判明した。

検出された各遺構の石材は、番付けをして取り上げて石垣が積み上げられる際に現位置に埋め戻される。

③城の内3号墳…玄室内から出土した遺物から、6世紀後半に築造された古墳で幾度かの追葬が行われていることが解った。また、玄室は一度崩壊しており、中世後半に玄室内部を版築状に土を突き固めて埋めている。これは、意図的な「封じ込める」行為の表れと思われる。

城の内3号墳は、今回の石垣積み上げの際、現状のまま盛土をして石垣内部に保存される。織豊期や近世城郭を築城する際、古墳などは解体・破壊される例が殆どである。しかし、城の内3号墳のように石垣内部に残されていることは、たまたま中世に「封じ込め」られていたからなのかも知れないが、全国的に珍しい事例であり、築城に携わった人々の古代人に対する畏敬の念が感じられる。

以上、今回の石垣解体工事に伴う調査によって、古墳の築造から二之丸の造営・変遷の一部を明らかにすることができた。しかし、いまだ不明な点があるため、古絵図資料・出土遺物等を整理し明確にする必要がある。（文化財課 栗田正芳）



写真1 番所跡（東より）



写真2 城の内3号墳（南より）

まつやまじょうさんのまる
松山城三之丸跡 (県営ラグビー場跡地)

所在地 愛媛県松山市堀之内
期間 平成14年9月17日～平成15年3月27日
面積 約1,400m²
担当 田城武志、西村直人、
田内真由美 (文化財課)



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市の「城山公園（堀之内地区）整備計画」に伴う確認調査である。当計画では、今後の発掘調査成果をもとに一部史跡整備を行っていく方針であり、そのため、平成13年度より国庫補助を受け、堀之内中枢施設の遺構群の広がり及び遺存状況を把握することを目的とした調査を実施している。平成13年度の事前試掘調査では、敷地の大部分が藩邸「三之丸邸」とは別の区域であること、及び「三之丸邸」の主要部は国立がんセンターの地下にあることが判明した。これを受けて、平成14年度では各種古絵図の検討と合わせ、北西部を中心にⅠ～Ⅴ区の調査区を設けて調査を実施した。

なお、この調査は松山市教育委員会文化財課が都市整備部公園緑地課の依頼を受けて行っている。

遺構・遺物 調査地は標高20～21mに位置し、東から西に傾斜している。基本層位は8層に大別される。Ⅰ層：ラグビー場造成及び整地層、Ⅱ層：近現代造成層、Ⅲ層：灰黄褐色砂質土／近代遺物包含層、Ⅳ層：明黄褐色土／近代造成層、Ⅴ層：黄褐色礫／近世造成層、Ⅵ層：にぶい黄褐色砂質土（炭を多く含む）／近世造成及び整地層、Ⅶ層：灰黄褐色粘質土（円礫を多く含む）／近世造成層、Ⅷ層：基盤層、である。遺構はⅤ層、Ⅵ層、Ⅷ層の各上面で検出された。遺構は、前年度の調査で検出された井戸3基のうち2基、石垣3列を含め、石組みの溝2条、暗渠2条、その他石垣及び柱穴や土坑など数基の江戸時代の遺構を確認した。以下、調査区ごとに主な遺構、遺物の説明を行う。

【Ⅰ区】 井戸1：近代にコンクリートによって塞がれ、一カ所に穴が開けられている。残存規模は直径が約7.5m、内径が約2.7m、深さは約6.9mを測る。井戸の内側の石垣には「○」「△」「☒」などの刻印が確認された。石垣1：最大高1.2m、検出長3.6mを測り、5～6段が残っている。石材は様々で、積み方も乱雑で面も揃っていないことから、建物に伴う石垣ではなく山留めと考えられる。前面の造成土からは17世紀中頃の陶磁器などが出土している。石組溝1：溝間の一部に栗石が見られ、部分的改修を受けた可能性がある。改修時の造成と見られる東側の灰層及び混灰土層からは陶磁器・瓦などが出土している。暗渠1：石組溝1の西側を造成すると同時に構築されている。表面的には栗石が乱雑に積まれているが、下部の石は並列しており、瓦管によって石組溝1に連結している。（Ⅱ区の暗渠2と繋がる可能性が高い。）SD2：幅約1.5m、深さ約1.0mを測る。廃絶後、石組溝1・2が造られている。17世紀中頃の肥前系陶磁器が出土している。SK1：平面楕円形で、底部には角材の横木が敷かれていた。横木は中央に「十」形、両側に「コ」形の彫り込みがあり、東側は中央に向かって斜めに角材が連結したまま残存していた。

【Ⅱ区】 石垣2：幅約2.0mの溝中の北壁側のみに築かれている。築石は三段が残存しており、最大高は1.8mを測り、栗石が表面に幅約1m程露出している。さらに調査区外へ続くよう

である。石材は全て花崗岩の割石を使用している。刻印は確認できなかった。石組溝2：石垣2埋没後に造られている。幅約0.5m、深さ約0.5m、検出長30mを測り、最高2段を残す。溝の傾斜は北から南へ下っており、溝中からは瓦が出土している。石組溝3：石組溝2とほぼ並行して検出された。東西で石組の高低差があり、西の方が0.3m程低い。石組溝2と同じく北から南に向かって傾斜しており、砂が堆積している。廃絶後の被覆土からは18世紀末の陶磁器が出土した。

【Ⅲ区】 前年度の調査により検出された溝の性格把握のため再検出した。時期は近代のものであった。調査区西側は遺構保護のため表面の除去に止めた。

【Ⅳ区】 井戸3：既に井戸の上部は削平されているが、長径8.1m、短径7.2mを測る。井戸の内径は直径2.2m、深さは3.5m以上残存しているようである。遺物は17世紀の肥前系陶磁器のほか寛永通宝や綺羅粉のついた瓦、ガラス片など別時期のものも混在しており、廃絶時期は幕末以降と考えられる。

【Ⅴ区】 石垣3：後世の削平を受けているが、残存築石は1～3段、最大高は約1.9mを測る。栗石の残存高は3m以上を測ることから、元々は5段以上積まれていたと想定される。岩盤を削り込んで造られている。築石は花崗岩の約0.5×0.8mのものを平均して使用しており、間詰石は割石を充填している。刻印は「上」「卍」が確認された。被覆土である近代以降の造成土中からは17世紀の肥前系陶磁器が出土した。

小 結 本調査では近世（江戸時代）～近代（明治時代以降）の遺構を確認することができた。特に石垣2及び石垣3の検出は松山城の縄張りを考えるにあたって重要である。遺物より17世紀中頃から終わり頃の遺構が主なものであるが、斜面部の造成や整地による遺物混入を考えた場合、年代は下る可能性があり、石組溝1の改修と転用を考えると、やはり2～3時期の遺構の存在が考えられる。また、遺物は全体的に肥前系の陶磁器が多く、古唐津及び波佐見青磁なども見られることから、西側の「三之丸邸」、あるいは東側の台地上にあった何らかの生活遺構に関係するものであることは間違いない。井戸1と井戸3は構造が近似しており、築造時期は同時期か殆ど時期差は無いと考えられる。なお、近代以降の遺構も大規模なものが検出されており、当区域の変遷を辿るものとして注目される。

【古絵図について】

17世紀後半のものと考えられている古絵図『水野秘蔵松山城下図』『松山城修復図』によると、当地付近は、「三之丸邸」が運営される以前より「西之丸」と呼ばれ、柵や門が施設されていたようである。また、その後も「西ノ御丸」、「西御丸」、「西之御丸」と記載された古絵図が存在し、最も詳細に描かれるのは、幕末のものと考えられている古絵図『亀郭城秘図』である。それには諸施設が描かれており、そのうちの井戸2基、石垣1基は、それぞれ井戸1、3、石垣3に比定される。しかし、これら古絵図については十分な資料批判がされておらず、安易に援用することは危険であり、さらに今回参考にしたもの以外にも未発見のものが存在する可能性がある。また、既知のものについても保管状態は決して良好なものとはいえず、早急な保護が求められる。今後、古絵図を援用するにあたっての十分な調査・研究が必要である。（文化財課 西村直人）

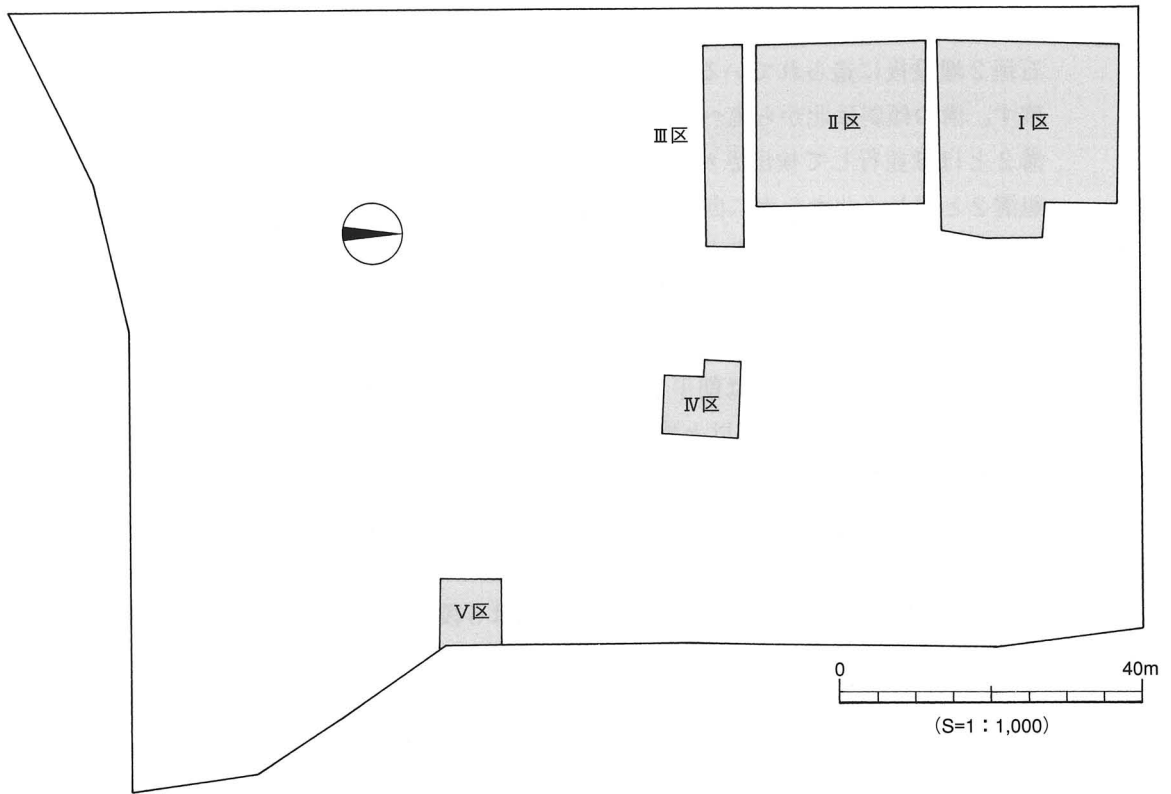


図2 調査区位置図

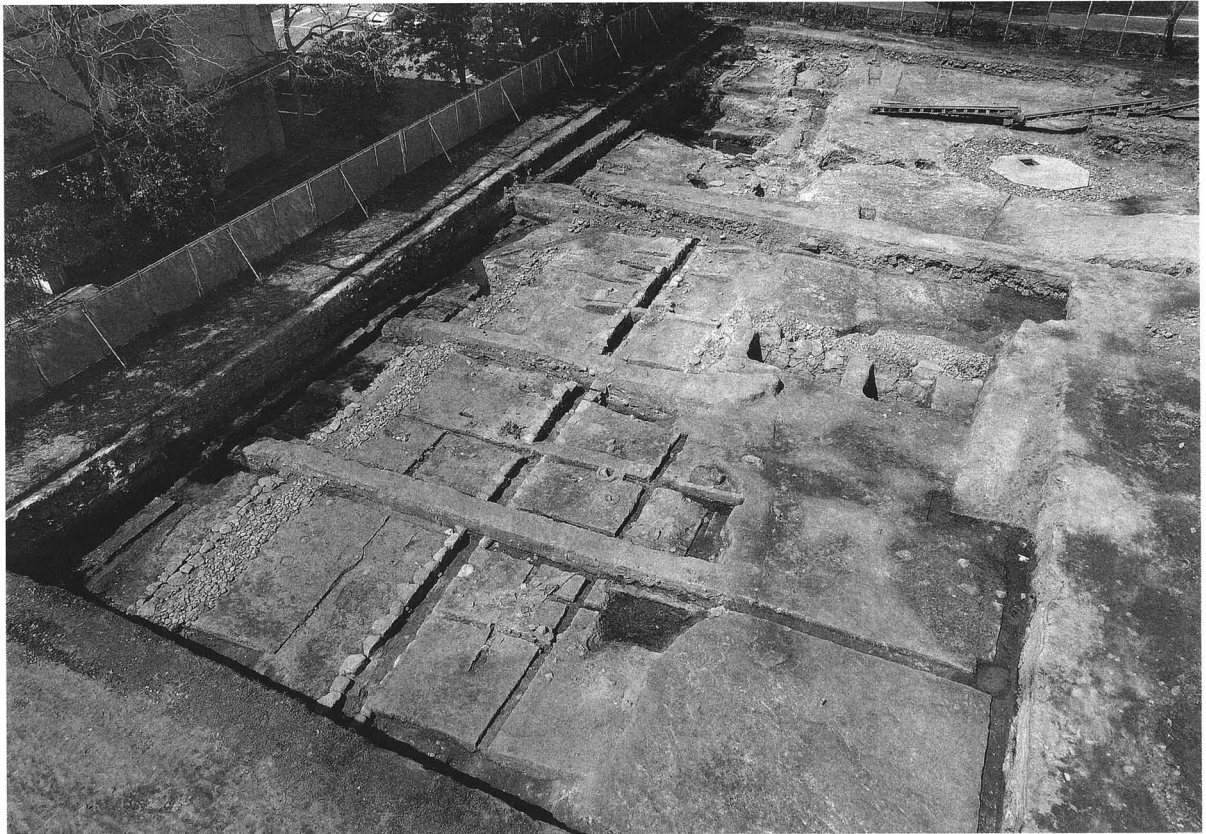


写真1 I・II区全景（南より）



図3 I・II区遺構配置図

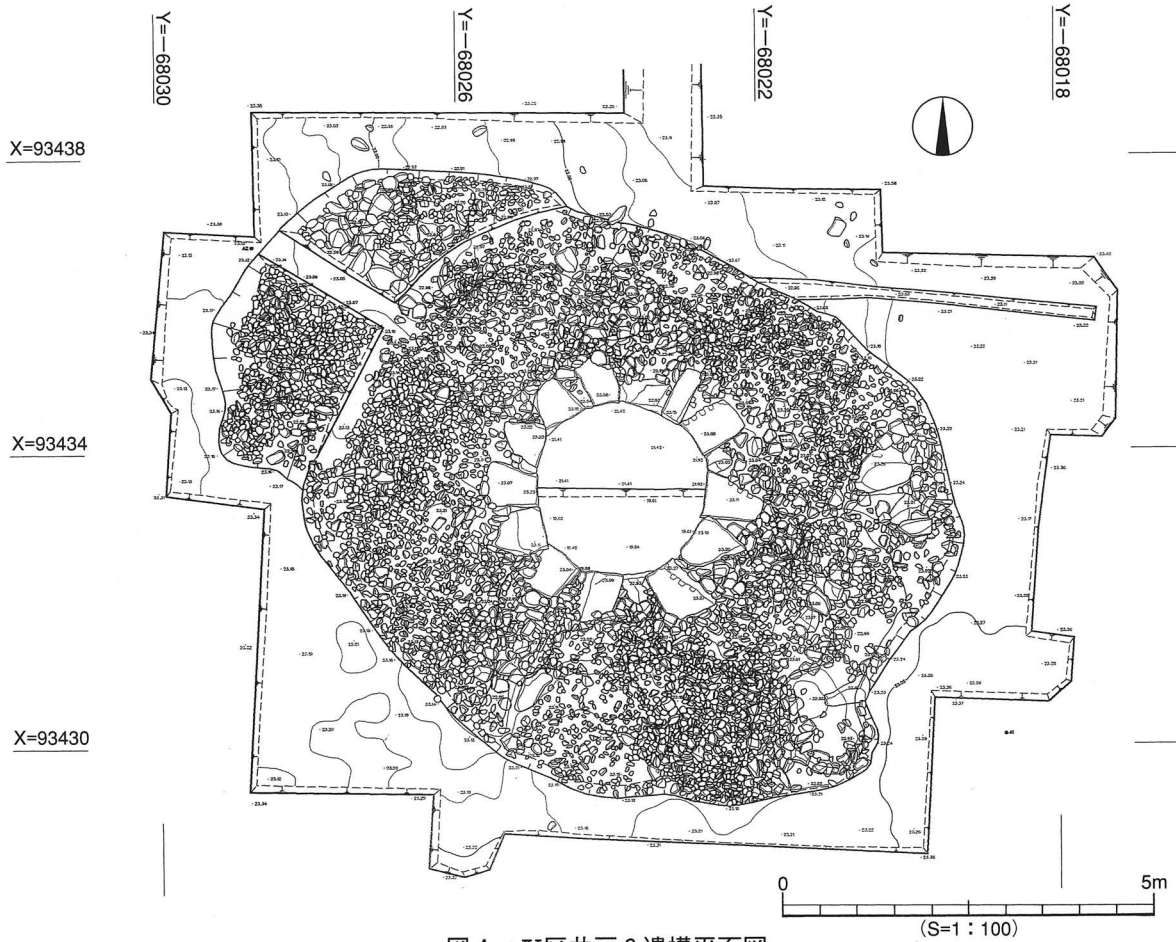


図4 IV区井戸3遺構平面図

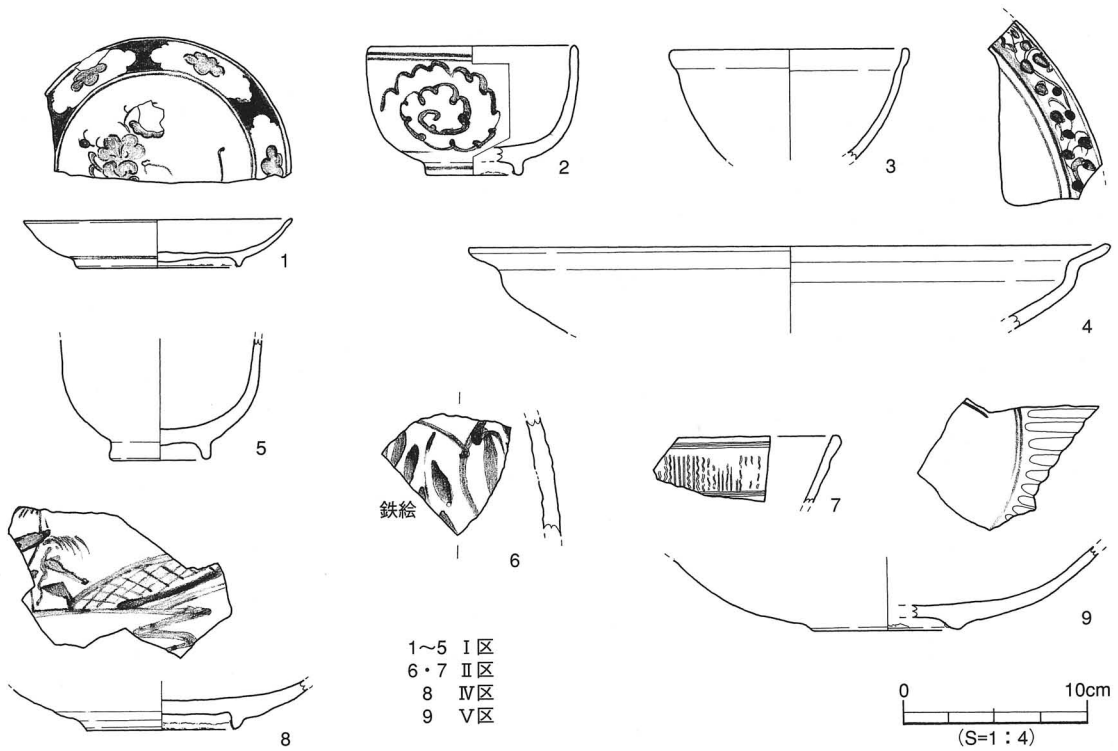


図5 出土遺物実測図



写真2 IV区井戸3全景（南西より）



写真3 V区 石垣3

久米地区^{くめちくこうきょうこうじ}公共工事に伴う確認調査 (中単1610汚水雨水管工事に伴う埋蔵文化財調査)

所在地 松山市南久米町外1か町
期間 平成14年2月25日～同年6月20日
面積 695.6m²
担当 高尾和長・加島次郎

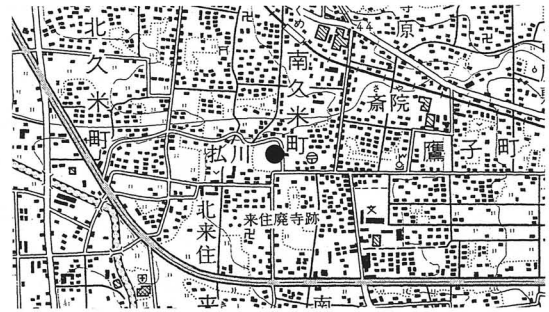


図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No126高畑遺物包含地、No127来住廃寺」内における、汚水雨水管設置工事に先だって実施した確認調査である。周辺では久米官衙遺跡群として周知されている久米高畑遺跡や、国指定史跡の来住廃寺がある。松山市下水道建設課との事前の打ち合わせにおいて、管設置に伴う掘削深度が地表下1.5m以上深くないことを確認していたので、調査における掘削最大深度は1.5m以内にとどめ、計53本のトレンチ(T1～53)を設定し調査を進めた。

遺構・遺物 基本層位は第I層造成土①(舗装・碎石・真砂土など、層厚0.2～1.3m)、第II層造成土②(攪乱土、層厚0.2～1.3m)、第III層造成土③(埋め戻し土、層厚0.1～1.0m)、第IV層耕作土(灰色土、層厚0.2～0.3m)、第V層遺物包含層(黒色土、層厚0.1～0.5m)、第VI層にぶい黄色土である。遺構は第VI層上面で検出した。検出遺構は自然流路1条、土坑13基、溝3条、柱穴15基、性格不明遺構6基であり、これらの遺構は調査対象地の南西部に多く分布する傾向が認められた。

自然流路SRはT4～T13で検出したが、形態や規模等を確定することはできなかった。ただし、流路は南久米公園北端の台地の落ちに沿って東西方向に流れることが想定される。遺物はT7のSR埋土から弥生土器と土師器が出土した。弥生土器には中期後葉に帰属する壺があり、器面に磨滅はみられない。土坑SK1401はT14で検出し、平面形態は円形を呈し、南北長1.4m、東西長1m以上、深さ0.2mを測り、埋土は炭化物粒を多量に含む黒色土である。遺物は弥生前期末の甕と壺が出土した。SK3901～3906はT39で検出した。いずれも調査区外に遺構が続くため、平面形態や規模は確定できない。また、遺構の遺存は悪く深さ2～10cmを測るにとどまる。時期を特定できる遺物の出土がないものの、埋土の色調が黒色系であることから、弥生時代～古墳時代の可能性がある。溝SD4001はT40で検出した。遺構は東西方向に続くものとみられ、幅は3.5m、深さ0.2～0.3mを測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は二層に分層され、上層が褐灰色土、下層が黒色土である。遺物は上層から須恵器の坏身、下層から弥生土器の壺等が出土した。遺構の時期は古墳時代後期末である。

小結 本調査では弥生時代前期末～古代の遺構と遺物を確認することができた。遺構検出面の第VI層上面を測量した結果、旧地形の様相と埋蔵文化財の広がりについて新たな知見を得ることができた。南久米公園の北側においては旧地形が落ち込むものとみられ、小高い丘状を呈する公園一帯には弥生時代中期後葉の集落関連遺構が存在するものとみられる。また、南久米公園の南西側、すなわち県道久米・垣生線の南西部にかけては標高39.4m程度の微高地が広がり、弥生時代～古墳時代の生活関連遺構が比較的多く存在することがわかった。これらの成果は既往の本格調査を整理する上で参考となるものであり、確認調査の際の基礎データとして活用していく必要がある。(加島)



写真1 T7完掘状況（西より）

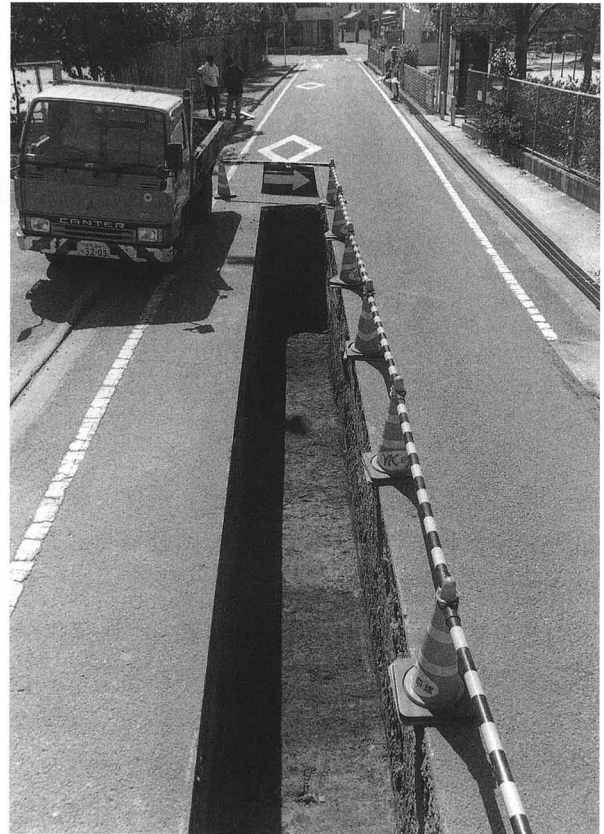


写真2 T14遺構検出状況（北より）



写真3 T40遺構検出状況（南より）

く め たかばたけ 久米高畑遺跡54次調査地

所在地 松山市来住町887-1の一部、889-3
期 間 平成14年4月15日～同年10月31日
面 積 約1,020m²
担 当 橋本雄一



図1 調査地位置図

経 過 久米官衙遺跡群の中央部、正倉院東濠の東約50mに位置する水田において、集合住宅の建築に先だって調査を行った。調査は国庫補助によって実施された。調査地は、平成8年に行われた26次調査地のすぐ東隣りに位置していることから、26次同様、弥生時代の円形、方形土坑が多数分布するものと予想されていたが、官衙に関しても情報が得られるものと期待された。

遺構・遺物 弥生時代前期末から中期初頭を中心とする時期の土坑多数のほか、弥生時代の掘立柱建物9～11棟、円形の竪穴住居2棟の柱穴、古墳時代後期の方形竪穴住居3棟、古墳時代後期から8世紀頃の掘立柱建物7棟、官衙の区画溝3条などを検出した。地形が低い南西部と北東部に比べて、中央から南東にかけての一带は水田に伴う削平が著しく、礫層が露出した状態であった。遺構の遺存状況は悪く、大型の建物である掘立005の柱穴でさえ、そのほとんどがシミに近い状況であった。

検出された54基の土坑のうち、S K052は7世紀後半以降、S K004・005、014・015、046・047などは、8世紀以降のものである。このほか、弥生時代前期末から中期初頭頃の円形土坑と考えられるもの10基程度（S K006～008など）、同時期の方形土坑12基前後（S K010・040・021・023など）が確認されている。いずれの土坑からも遺物は少量しか出土していない。

弥生時代の掘立柱建物は、6本柱の掘立003を除いて、すべて1間×1間の4本柱である。これら9棟の建物は、いずれも長軸線の方位がN-102°～108°-E前後で、大型の掘立003を中心とした配置を読み取ることができる。掘立003は桁行2間（7.20m）×梁行1間（2.80m）の東西棟で、柱穴は不整形を呈する。長方形土坑であるS K010と重複しているが、土坑そのものが浅く、直上の耕作土による土壌化の影響が大きいため、先後関係は明確でない。柱の抜き取りが明確なSP2とSP4では、柱穴本体の埋土よりも抜き取り跡の埋土の方が、色調が黒い状況が確認されている。建物が建っていた間に、付近の地表面の植生が大きく変化したことを示す可能性がある。

官衙関連の遺構としては、4棟の掘立柱建物のほか、溝3条、土坑6基を検出した。建物はいずれも東西棟で、掘立002・009・005の3棟については、東に開口する逆コ字形に掘られた区画溝：S D002によって囲われた敷地内に位置する。掘立002は、桁行5間（11.09m）×梁行2間（5.09m）、掘立009は桁行5間（13.70m）×梁行2間もしくは3間（4.86m）、掘立005は桁行6間（12.29m）×梁行3間（5.32m）。掘立004は梁行3間（5.03m）で、方位も他の3棟と共通であることから、関連の建物である可能性が高いが、S D002との関係が不明確な状況にある。掘立009と002は直接の重複関係にないため前後関係は不明である。掘立002の柱穴から、8世紀代の須恵器の坏蓋片1点が出土したことから、これらの建物はS D002と同様、8世紀以降の時期に所属するものと考えられる。

S D002の北溝と南溝は、本来、調査地東部へ延びて、これらの建物群を東西に細長い長方形に囲



図2 遺構配置図

う区画溝であったと考えられるが、水田開発に伴う削平のため、標高が高い東半部が失われたものと推測される。南北方向の本体部分で幅約2m、深さ約0.2mを測る。8世紀前半頃の須恵器の高台付き坏や蓋、平瓦の破片などが出土している。南北方向の溝本体と北溝は正方位に対応するが、南溝はN-95°-Eで、7世紀代の遺跡群の地割にほぼ対応している。この他、ほぼ真北を基準として掘られているS D001・003についても、官衙の区画溝であると考えられるが、年代の特定に至る遺物が出土していないことなどから、S D002を含む近隣の施設との関係も定かではない。

なお、掘立001・008・010の3棟については、前述の官衙施設出現以前の古墳時代後期に所属する可能性を想定している。また、2条平行の関係にあるS D004と005についても同様である。

この他、S D002の検出面から、旧石器時代の横長剥片素材のナイフ形石器1点が出土している。
小 結 弥生時代の掘立柱建物群に関連して、前期末から中期初頭頃の長方形土坑との関係が問題となる。多くの長方形土坑の方位が、建物の長軸と共通あるいは直交する点は、両者の間に強い関連性が存在することを示唆している。しかし、双方の分布域が一部重なる点は、少なくともその一部に時間差が存在することも示している。本調査では、両者の先後関係はかならずしも明確なものではなかったが、将来的に、高床式の倉と貯蔵のための穴蔵が、時間的、空間的に近接して営まれている集落景観を復元可能かもしれない。今後は、微地形と遺構分布の関係についても検討を行っていきたい。

官衙関連では、これまで確認事例が少なかった8世紀の施設が新たに検出された点が大きな成果であった。これに関しては、近年の調査成果とあわせて、まとめの項目で詳述する（p78）。（橋本）

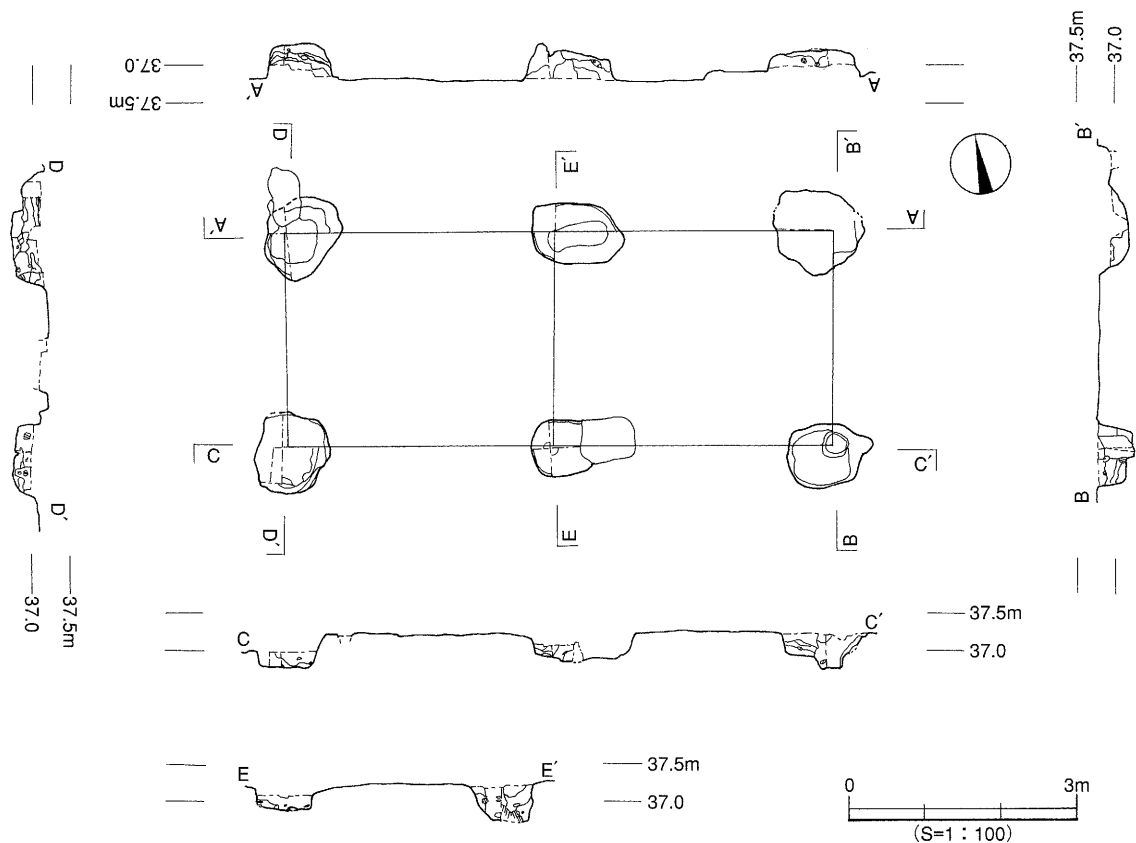


図3 掘立003平断面図



写真1 調査地西部全景（北より）



写真2 掘立003調査状況（北より）

くめたかばたけ 久米高畑遺跡55次調査地

所在地 松山市南久米町715番地4・5
期間 平成14年7月29日～同年11月11日
面積 213.28m²
担当 小玉亜紀子

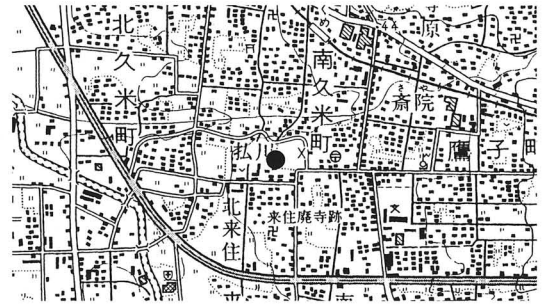


図1 調査地位置図

経過 遺跡は、松山平野の東部、堀越川と小野川の間にある来住台地上に位置している。台地上には、弥生時代から中世にかけて多くの遺構や遺物が確認されている。特に、7世紀代の官衙遺跡と弥生時代前期末～中期初頭の集落遺跡は台地全体に展開している。

調査地の西部付近では、久米高畑遺跡23、25、28・29、H12-152で弥生時代前期末～中期初頭の幅約4mの大溝が3条検出している。東隣の配水管に伴う調査（H12-104）からも同時期・規模の大溝が検出されている。このため、調査の主目的は大溝のつながりを確定することであった。また、調査地の南隣の久米高畑遺跡44次では、大型掘立柱建物と平行する柵が確認されている。今回はその柵の延長部分の有無確認も合わせて調査を行った。

場所は松山市が指定する包蔵地「127 来住廃寺遺跡包含地」内で、国から補助を受けて実施した。**遺構・遺物** 調査地は標高37mに立地し、調査以前は畑と庭であった。基本層位は、基盤層を含めて4層に大別される。遺構は第IV層上面（基盤層直上）で確認した。検出した遺構は溝15条、土坑3基、柵1条、柱穴47基である。

この内、SD1は検出長22m、幅4.0～4.2m、深さ1.2mの東西に走る大溝である。断面形は逆台形で、土層は7層に分かれる。埋土は粘性が強く、流水を示す砂質は無い。遺物は全て破片で出土した。各層の遺物時期は、1層目には古墳時代の土師器片や須恵器片が入り、2層以下は全て弥生時代前期末～中期初頭の遺物が入る。

小結 今回の調査で検出した弥生時代前期末～中期初頭の大溝は、周辺で確認されている3条のうち、一番内側の溝と考えられる。久米高畑遺跡44次の柵につながる遺構は検出されなかった。

大溝は、同じ来住台地南部の来住廃寺20次や来住V遺跡でも同時期・規模のものが2条検出されており、本調査地周辺大溝と南部の大溝は1つにつながって巡るか、2つに分かれて巡る可能性も考えられる。

松山平野で大溝の検出例は、北斎院町の斎院烏山遺跡、祝谷町の祝谷遺跡群畑中地区、岩崎町の岩崎遺跡、久米地区の久米高畑遺跡・来住遺跡と4例となる。

来住台地上の同時期の遺構には、竪穴式住居跡や土坑跡が多く確認されている。これらの遺構は、大溝の内外に分布している。今後の課題は、周辺の既調査結果から台地上の弥生時代の集落の様子を確認していくことである。（小玉）

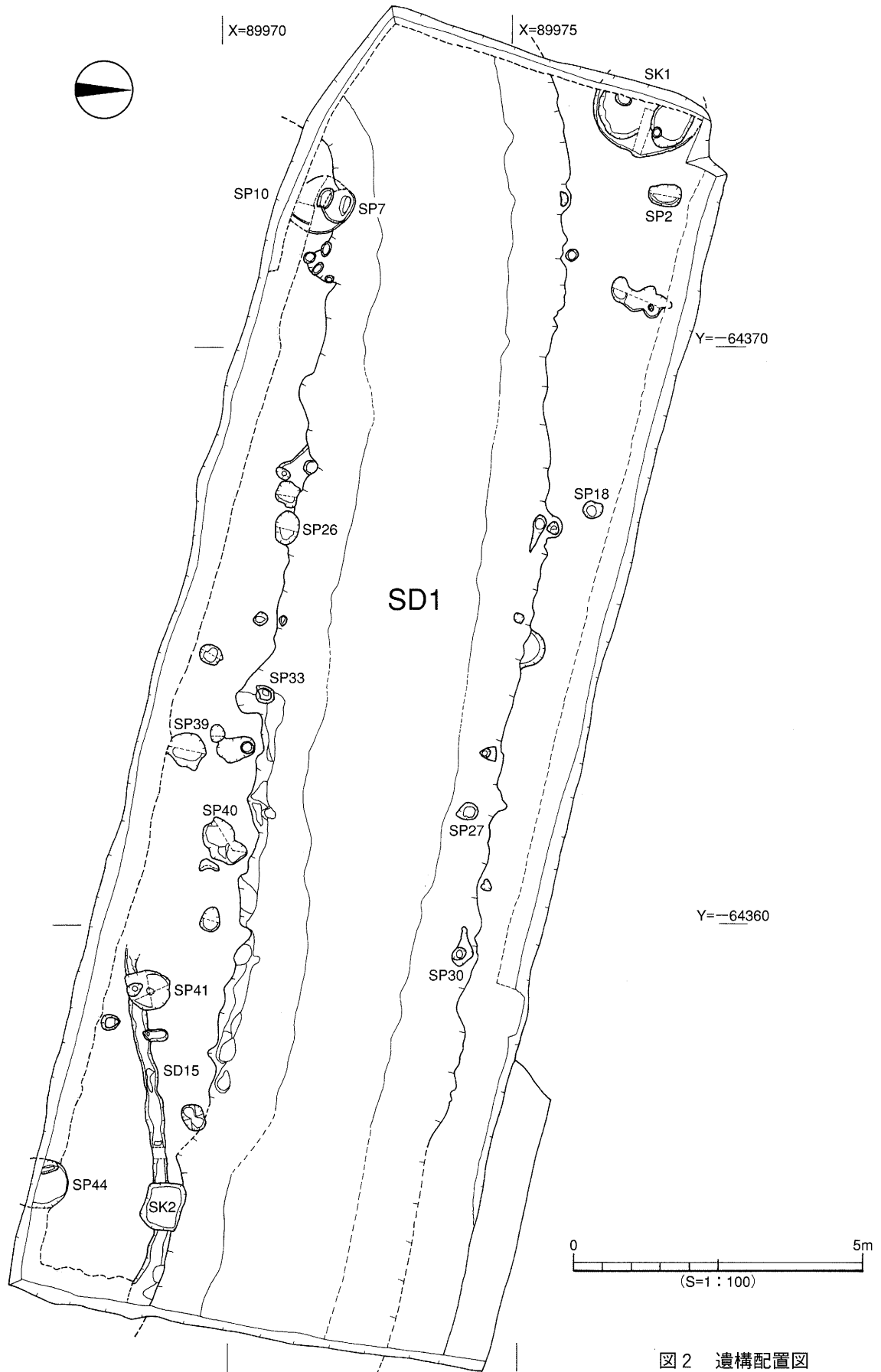


図2 遺構配置図

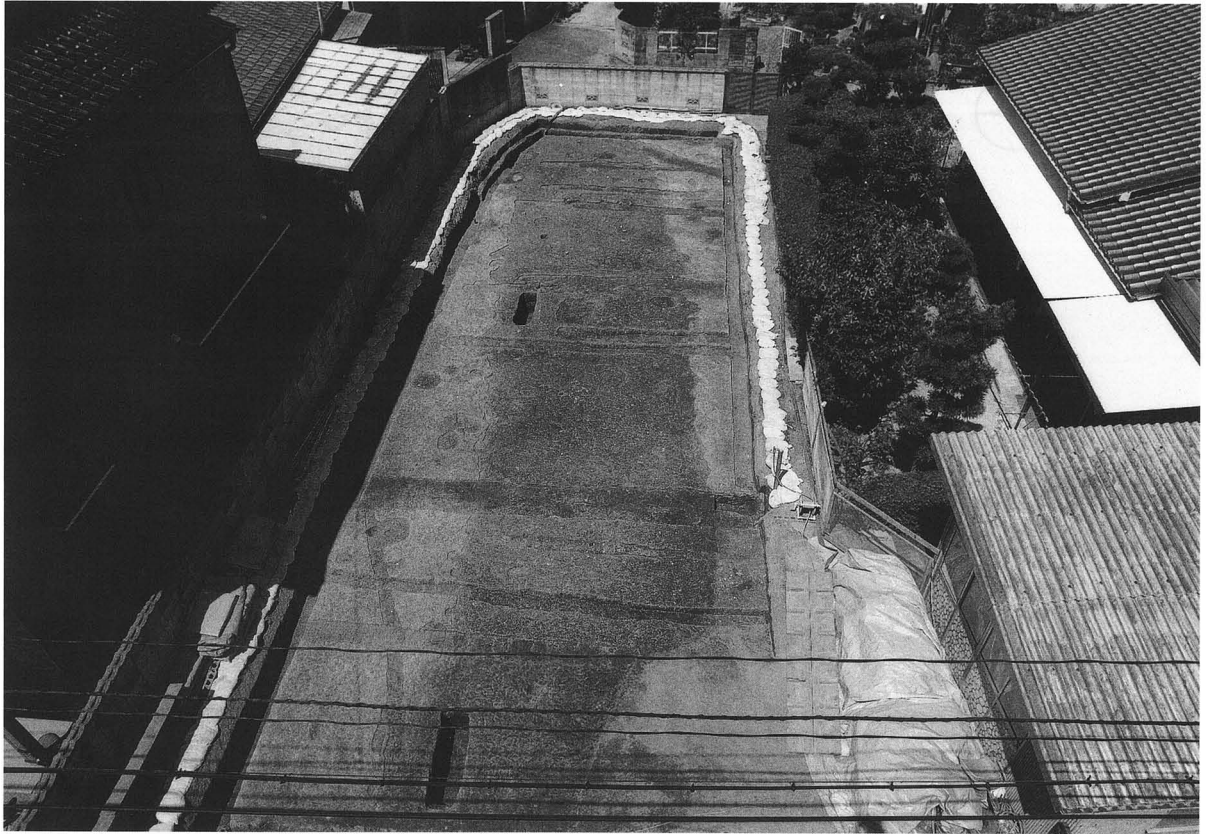


写真1 遺構検出状況（東より）



写真2 遺構完掘状況（東より）



写真3 SD1土層縦ベルト（南東より）



写真4 SD1土層横ベルト（東より）

く め たかばたけ
久米高畑遺跡56次調査地

所在地 松山市来住町924番地
期 間 平成14年11月18日～平成15年1月13日
面 積 561m²
担 当 小玉亜紀子



図1 調査地位置図

経 過 遺跡は、松山平野の東部、堀越川と小野川の間にある来住台地上に位置している。台地上には、弥生時代から中世にかけて多くの遺構や遺物が確認されており、特に7世紀代の官衙遺跡と、弥生時代前期末～中期初頭の集落遺跡は台地全体に展開している。

調査地の周辺では、北部に久米高畑遺跡3・9・14・18・36次、南部では53次、東部では来住廃寺遺跡15・18次が調査され、弥生時代～古代にかけての遺物や遺構が数多く確認されている。

今回の調査は、来住台地南西部の官衙関連遺構の展開を確認することを目的に調査を行った。場所は、松山市が指定する包蔵地「127 来住廃寺遺跡包含地」内で、国から補助を受けて実施した。

遺構・遺物 調査地は標高37mに立地し、調査以前は水田であった。基本層位は、基盤層を含めて5層に分かれる。第Ⅰ・Ⅱ層は耕作土、第Ⅲ・Ⅳ層は灰褐色の粘質土が入る。第Ⅴ層は基盤層で、明黄褐色に同色の砂岩が入る。砂岩の直径は1～10・15～20cm大であった。

遺構は、基盤層である第Ⅴ層上面で確認した。調査地の南部は重機による削平を受け、遺構は殆ど消失していた。また、比較的削平を受けていない北側では、近現代の遺構も数多く確認された。これら近現代の遺構を除いた遺構は土坑2基、竪穴式住居跡の主柱穴4基、柱穴7基である。土坑2基(SK1・SK2)は、調査地南側に位置する。SK1は、平面形態が楕円形、断面形が逆台形、法量は、長辺1.1m、短辺0.68m、深さ0.52mを測る。遺物は弥生土器の小破片が出土した。

SK2は、SK1の西0.4m先に位置し、平面形態が楕円形、断面形が筒状、法量は、長辺1.1m、短辺0.85m、深さ0.5mを測る。SK1と同様に、小破片が出土した。遺物より、どちらも弥生時代と推定される。埋土からは、基盤層で検出された砂岩が多量に出土した。

SP10・11・12・13は調査地の西側に位置する。埋土は黒褐色の粘質土である。半円形に位置する事から、竪穴式住居址跡と考える。出土遺物は無く、時期は不明である。

小 結 調査地は来住台地の南西部にあたる。調査地全体は削平が激しく、南側では弥生時代の土坑が2基確認された。

北側は比較的遺構が残存していたが、検出した遺構は近現代のものが大半であった。土坑は周囲に漆喰を施している肥溜めで、7基確認された。

北側の黒褐色粘質土のSPは全て、深さが5cm程度のものばかりであり、当時はもっと地表面が高かったと考える。(小玉)

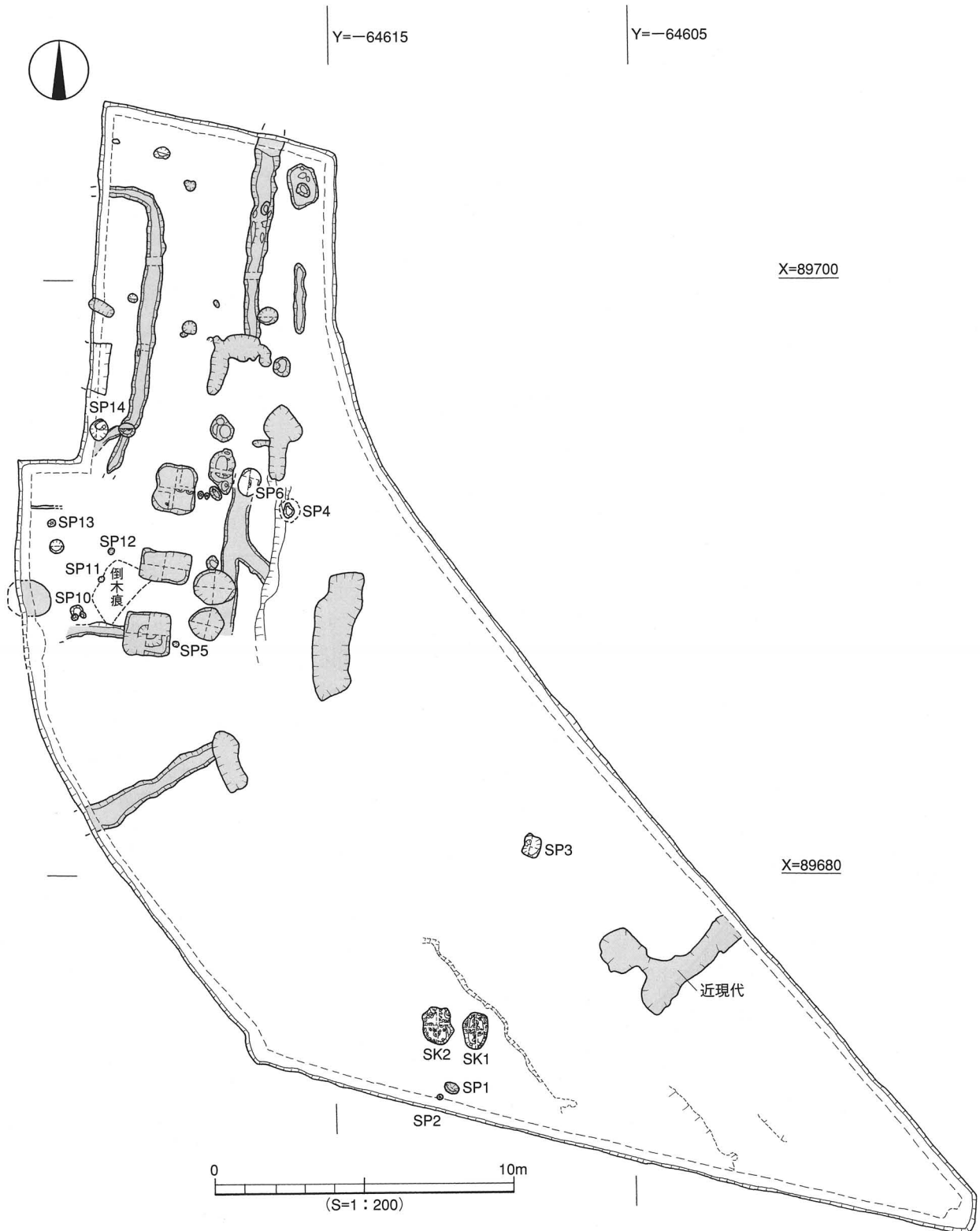


図2 遺構配置図

久米高畑遺跡56次調査地

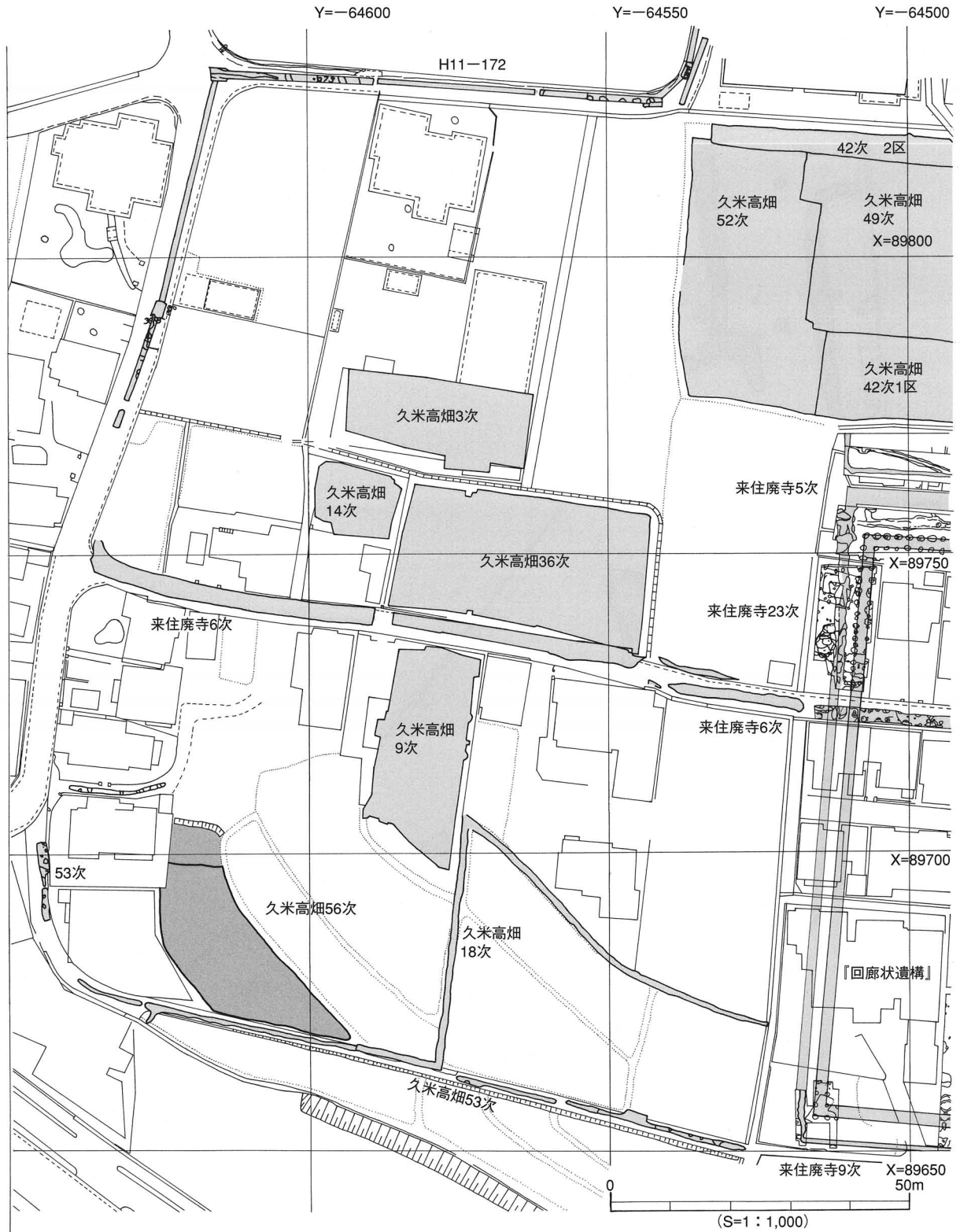


图3 周边調査地



写真1 遺構完掘状況（南より）



写真2 SK1・SK2完掘状況（北東より）

きしはいじ 来住廃寺28次調査地

所在地 松山市来住町850番地の一部
期 間 平成15年 1月27日～同年 3月28日
面 積 156m²
担 当 小玉亜紀子

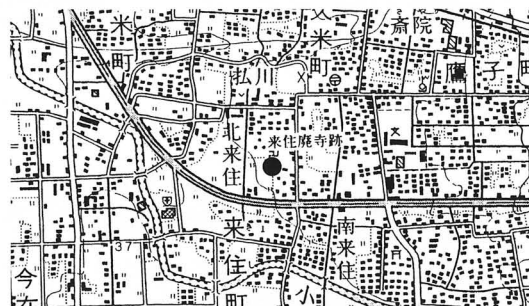


図1 調査地位置図

経 過 本調査地は松山平野東部に位置し、堀越川と小野川間にある台地上に立地している。台地上には、弥生時代から中世にかけて多くの遺構や遺物が確認されており、特に弥生時代前期末～中期中頭の集落遺跡と7世紀代の官衙遺跡は全体に展開している。周辺の既調査は、東部で来住廃寺14・27次、西部で塔基壇の来住廃寺1・26次、北部で来住廃寺2・3・9・13次が調査され、主な遺構では、官衙関連遺構である回廊状遺構や来住廃寺の一部が確認されている。

今回の調査地は、来住廃寺金堂の推定場所にあたり、来住廃寺の伽藍配置を確認する目的で調査を行った(図2参照)。場所は松山市が指定する包蔵地「127 来住廃寺遺跡包含地」内で、国から補助を受けて実施した。

遺構・遺物 来住廃寺金堂の推定場所である調査地は、平成10年までこの地にあった長隆寺の居住域であり、南部は浄化槽によって大きく削平されていた。北側はあまり削平を受けておらず、遺構が確認された。調査地の遺構は柵1条、土坑7基、溝4条、小穴27基、性格不明遺構3基である。以下、主な遺構の説明を行う。

S X 1：調査地の南側に位置する。法量は長軸11.8m、検出した短軸6.2m、深さ0.1mである。埋土は黒色の粘質土で、直径1～5cm大の基盤層の土がまだらに入る。北側では、焼土の塊が検出されている。遺物は土師器片や須恵器片が出土する。時期は古墳時代～古代と考える。性格は不明であるが、隅丸方形の竪穴式住居跡が重複している可能性もある。

S A 1：調査地の南側に位置する。柱穴は7基検出した。南側は削平されており、もっと続いた可能性がある。法量は直径約0.7m、深さ0.15～0.3mになる。南からS P ①～S P ⑦となり、全てS X 1のなかに位置する。S P ①・③は抜き取り跡が確認され、S P ②・④～⑦は柱の痕跡が確認された。このS A 1の東隣には、来住廃寺14次が位置するが、S A 1に対応する柱穴は確認されていない。

調査地内西側にも対応する柱穴は無く、柵と考えた。時期は出土遺物から古墳時代～古代と考える。

小 結 調査の主目的である来住廃寺金堂は、この位置では確認出来なかった。これは推定場所である調査地内で礎石建物跡も、掘立柱建物跡も無かった為である。今回の調査地は小範囲の為に各遺構の性格を判明することが難しい。他の時期では、弥生時代前期末から中期中頭の円形土坑が3基、長方形土坑が1基検出された。(小玉)

参考文献：『松山市文化財調査報告書Ⅲ 長隆寺跡調査報告書』松山市教育委員会 1974年

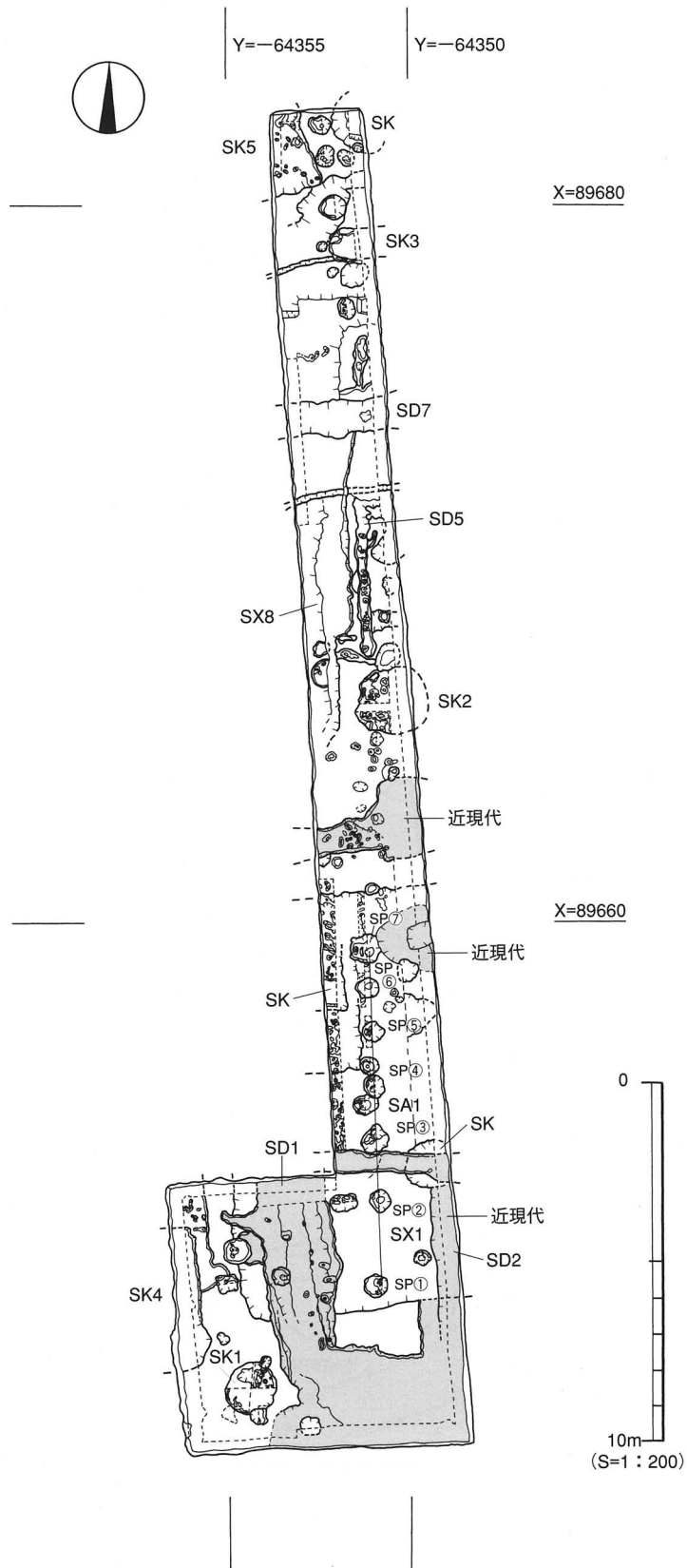
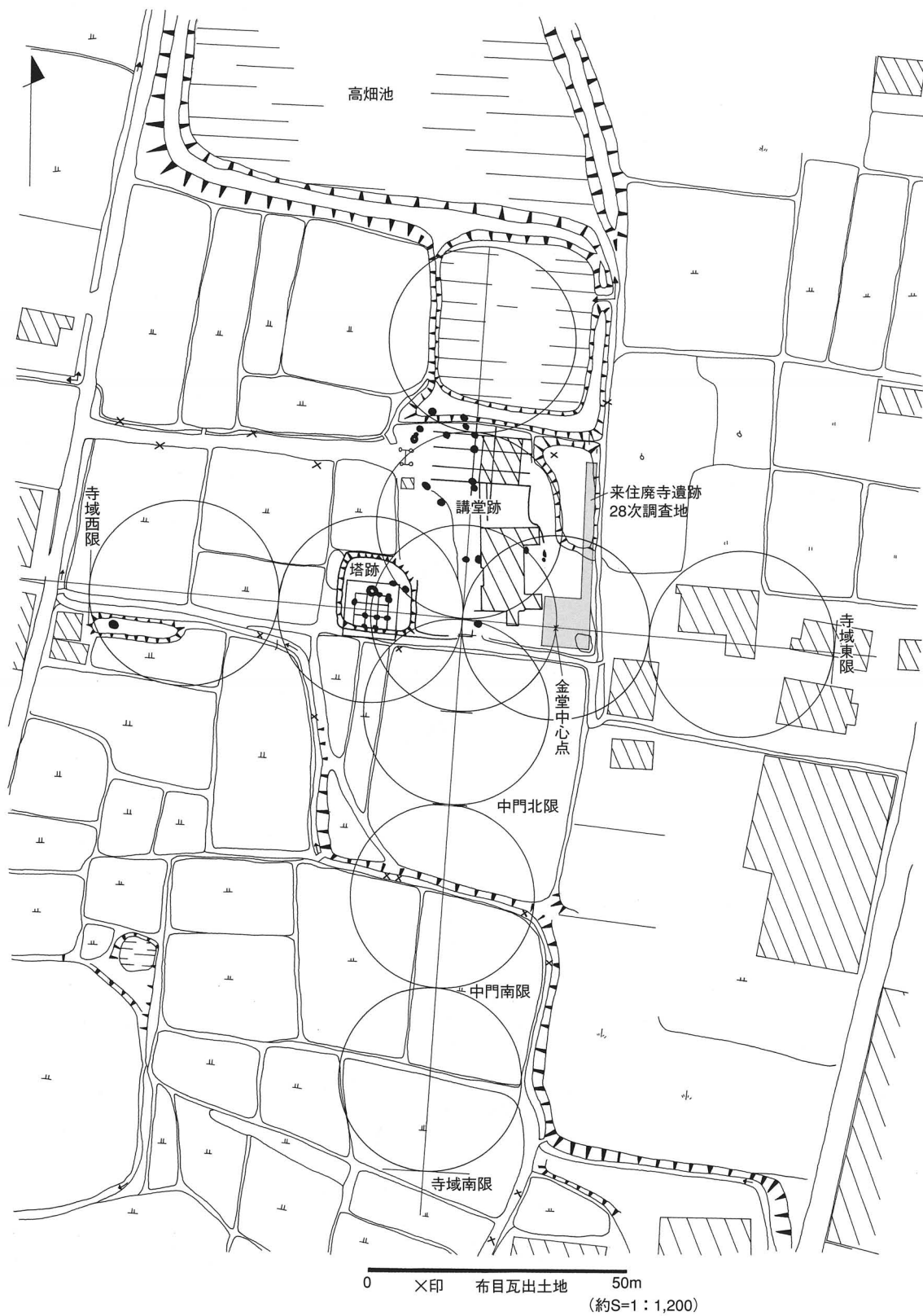


図2 遺構配置図



『松山市文化財調査報告書Ⅲ長隆寺跡調査報告書』
松山市教育委員会1974年を1部加筆

図3 伽藍想定図

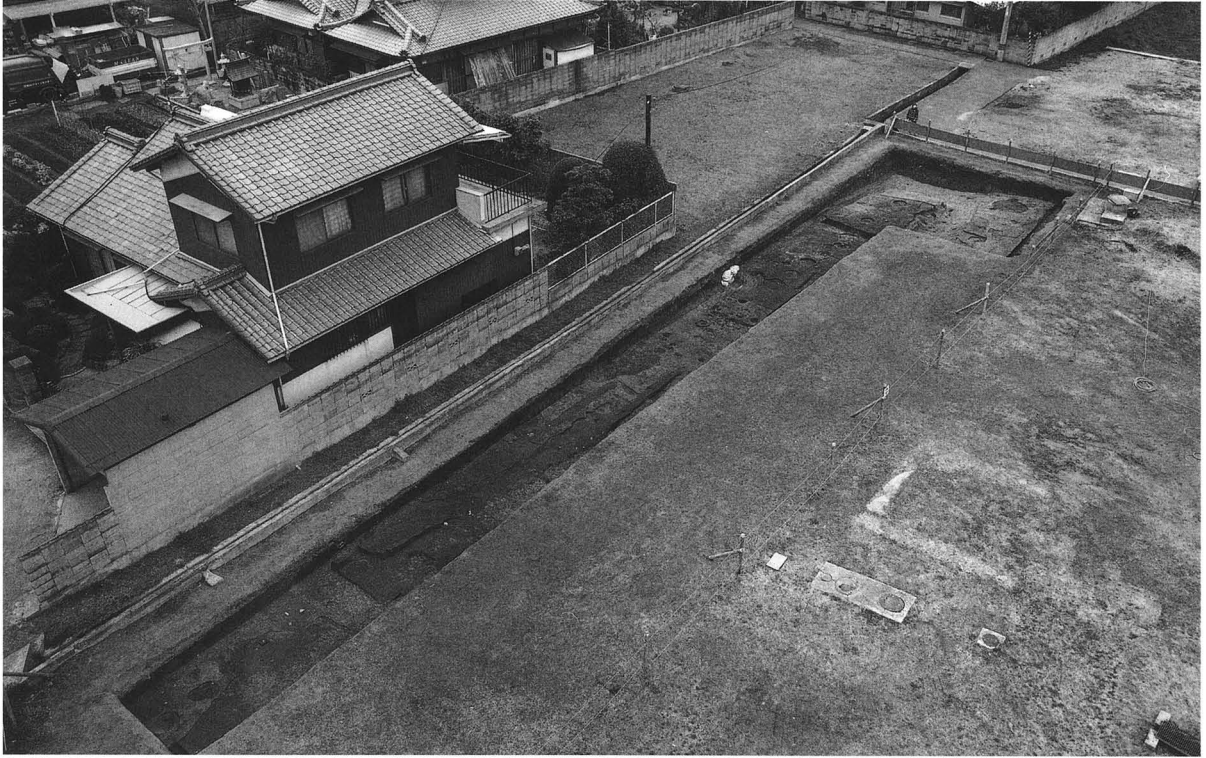


写真1 遺構検出状況（北西より）



写真2 SA1検出状況（北より）

くめかんが 久米官衙遺跡群

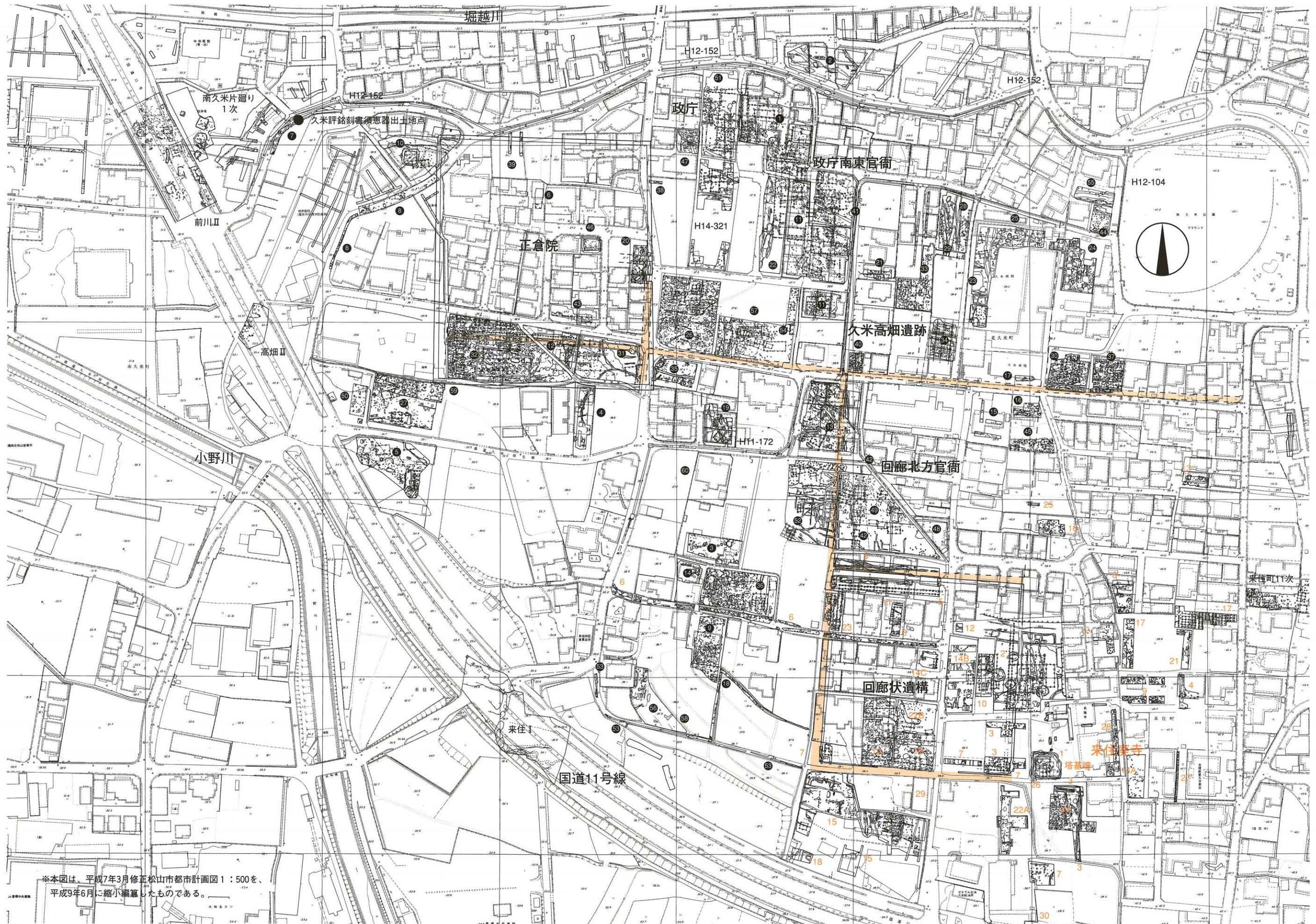
～54次調査の成果～

今年度の調査において、これまで確認事例が少なかった8世紀の施設が新たに検出された点は大きな成果であった（久米高畑54次）。この成果は、当遺跡群全体の変遷過程を考える上で非常に重要な要素であるので、確認しておきたい。

新たに見つかった区画施設である久米高畑54次S D002の本体部分と北側の溝については、正倉院の東濠とほぼ同様の正方位に近いあり方を示す一方で、南側の溝の南辺は、7世紀中葉に成立する地割と一致している。これは、この区画施設の南面に存在した道路がまだ機能していたと考えられる8世紀でも前半の施設であることを示すものと理解している。この道路は、8世紀後半に正倉院付近の街路のほとんどを廃した際に、南に拡張された新しい正倉院を迂回する位置に付け替えられたと考えられている（久米高畑52次・年報14）。したがって、今回確認された施設は、濠で囲われる正倉院が出現する直前までの間に、7世紀代に成立した地割に対応して設定されたものと推測している。

問題は、この区画の中に位置する比較的規模と形状が似通った東西棟計3棟に関して、どのような評価を与えるのか、という点である。その配置状況から、建物相互の間には若干の時間差が存在すると考えられるが、いずれも東西棟であることから、道路側から見た際の視覚的効果を狙った配置であると理解される。また、特に掘立002・009の2棟については、当遺跡群において、より上位の建物と判断される梁行2間の構造であることから、比較的格式の高い建物であると考えられる。これに近い構造の建物から構成される施設としては、正倉院の南部（年報12）のほか、政庁に隣接する政庁南東官衙（年報11）をあげることができる。前者の建物は、収納のための長屋、後者は雑舎域に展開する建物よりも高位の、政庁の補完施設であると想定されている。今次の調査で確認されたこの新しい施設についても、この二通りの解釈を適用することは可能であると考えられるが、このほかにも、東西道路沿いに位置することを重要視すると、宿泊や交通に関する施設である可能性も否定できない。いずれにしても、政庁の南方に位置し、正倉院にも近いことから、官衙群の中でも比較的重要度の高い施設であったのは間違い無かろう。この施設の廃絶直後に正倉院の拡張が行われ、長屋2棟を含む延べ8棟（建て替え含む）の側柱建物が増設される事実を重要視するならば、手狭になった7世紀代の正倉院を補うために、収納施設として増設された可能性もあるのではないかと考える。

官衙施設でありながら、所属時期ならびに他の施設との関連が不明なS D001と003については、方位から次の3つの施設との関係が考えられる。まず、今回新たに見つかった区画施設との関連から、S D002とあわせて道路幅を示す溝である可能性。ついで、8世紀中頃に正倉院の濠が掘られてから後の土地の区割りである可能性。さらに、時期を遡って、7世紀前半の政庁（年報14）の南面における土地の区画施設である可能性などが考えられる。方向が正方位に対応することから、7世紀中頃を中心とする時期の地割に直接関連する可能性は少ないものとする。この溝の北への延長線上には、政庁の東脇殿が位置する状況から判断して、7世紀前半あるいは8世紀の、いずれかの政庁南正面の空間を確保する目的で掘られた溝である可能性を想定しておきたい。この溝のすぐ西、正倉院の東濠までのおよそ40mの間には、官衙の建物がまったく存在しないことから（年報9）、政庁の南正面を、建物を配置しない空間として区切るための溝であったのかもしれない。（橋本）



※本図は、平成7年3月修正松山市都市計画図1:500を、平成9年6月に縮小編纂したものである。

図1 久米官衙遺跡群全体図 (S = 1:2,000)

松山市埋藏文化財調査関係資料

II 平成14年度 松山市埋藏文化財調査関係資料

表一 埋藏文化財調査関係資料 平成14年度 (単位: 冊)

調査年度	調査種別	調査地域	調査回数	調査内容	調査結果	調査報告書	調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	1	埋藏文化財調査	1	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	2	埋藏文化財調査	2	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	3	埋藏文化財調査	3	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	4	埋藏文化財調査	4	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	5	埋藏文化財調査	5	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	6	埋藏文化財調査	6	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	7	埋藏文化財調査	7	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	8	埋藏文化財調査	8	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	9	埋藏文化財調査	9	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	10	埋藏文化財調査	10	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	11	埋藏文化財調査	11	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	12	埋藏文化財調査	12	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	13	埋藏文化財調査	13	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	14	埋藏文化財調査	14	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	15	埋藏文化財調査	15	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	16	埋藏文化財調査	16	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	17	埋藏文化財調査	17	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	18	埋藏文化財調査	18	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	19	埋藏文化財調査	19	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料
平成14年度	埋藏文化財調査	松山市	20	埋藏文化財調査	20	埋藏文化財調査報告書	埋藏文化財調査関係資料

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例言

1. 本編は、松山市教育委員会文化財課・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
2. 今回は平成14年度（申請番号1号～428号、平成14年4月1日～平成15年3月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成13年度以前の資料については、『松山市文化財調査年報Ⅰ～Ⅹ（昭和60～平成9年度）・同年報11～14（平成10～13年度）』を参照されたい。
3. 資料作成（一覧表及び付録図）は、田城武志、栗田正芳、西村直人、山邊進也、政本和人、山口由浩、黒田竜弥が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については、平成14年度に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用した。
6. 一覧の略記について
 - ①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、（ ）は調査地内平均値。
 - ③調査目的：公＝施主公共団体、私：施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.1

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
1	南白水2丁目5-4	177		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
2	道後一万787-3	229	32.93	私	試掘			
3	北齋院町419-1	463		私				
4	北井門町283-1、284-1の一部	1,800	(23.00)	私	試掘			
5	太山寺町1457-1	95		私				
6	北梅本町乙92、乙93	555	108.50	私	試掘			
7	南久米町420-12	165		私	既済			H12-381にて試掘済
8	南久米町420-19	165		私	既済			H13-198にて試掘済
9	水泥町358、359	951	48.30	私	試掘			
10	桑原5丁目668-3	40		公	既済			H12-365にて試掘済
11	北梅本町乙179-1	524	115.84	私				
12	朝日ヶ丘町1丁目	1		公	既済			H2-37にて試掘済
13	北齋院町249-6	141		私	既済			H11-248にて試掘済
14	平井町865-1外	7,689		公	試掘	溝・柱穴	弥生・須恵・土師	本格調査要
15	今在家町62-7	101		私	既済			S63-16にて試掘済
16	南白水1丁目6-3	213		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
17	平井町甲1461-12	185		私	既済			H12-244にて試掘済
18	山越3丁目754-1、754-11	234		私	既済			H10-164にて試掘済
19	福音寺721-10、721-14	105	23.20	私	試掘			
20	南白水2丁目5-3	183		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
21	南白水1丁目5-5	204		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
22	森松町850、851、852-1	264	33.90	公	試掘			

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.2

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
23	南久米町756-8	208		私	既済			H12-65にて試掘済
24	森松町141-1の一部	645	34.90	私	試掘			
25	朝日ヶ丘町2丁目1098-9	173		私	既済			H13-325にて試掘済
26	北久米町925-1他	8,104		私	既済			H11-68,H11-208にて試掘済
27	衣山5丁目1480-11,1517-23	140		私	既済			H12-281にて試掘済
28	恵原町甲1131	7		私	立会			
29	新浜町1114-5	259	3.52	私	試掘			
30	北久米町931-1,932-1	1,806	(29.25)	私	試掘			
31	南久米町406-8	307	37.00	私	試掘			
32	久万ノ台213-9,217	920	(31.56)	私	試掘			
33	桑原1丁目797-7	188		私	既済			H13-195にて試掘済
34	桑原1丁目794-8,794-9	196		私	既済			H13-195にて試掘済
35	平井町2086-2	276	59.03	私	試掘			
36	山越1丁目甲263-21	137		私	既済			H13-197にて試掘済
37	東本1丁目100,101-1,101-5	2,219		私	既済			H6-42にて試掘済
38	山西町865-1,866-1,867-1の一部	955	3.10	私	試掘			
39	南白水2丁目3-10	181		私	既済			H5-26にて試掘済
40	南白水2丁目3-11	189		私	既済			H5-26にて試掘済
41	桑原2丁目890-1	331	38.19	私	試掘			
42	山越2丁目3-6-7	197	18.00	私	試掘			
43	天山町1丁目240,239-4	590	20.90	私	試掘			
44	船ヶ谷町170-7	128	12.90	私	試掘			
45	桑原5丁目867-1,867-2	491	36.30	私	試掘			
46	南江戸6丁目1333-14	97	14.13	私	試掘			
47	樽味4丁目269	627	41.28	私	試掘	包含層		本格調査要
48	安城寺町204-4	238		私	既済			H13-270にて試掘済
49	山西町865-1,866-1,867-1の内	938		私				
50	樽味4丁目246,250-1	954	39.20	私	試掘	包含層・溝・柱穴	須恵・土師	本格調査要
51	来住町783-2	179	36.30	私	試掘			
52	南梅本町乙191-3,191-7	617	92.50	私	試掘			
53	北斎院町491-1,491-5,491-9	333	8.54	私	試掘			
54	枝松3丁目299-1,300-4	147	33.10	公	試掘			
55	小坂2丁目217-1外8筆	241	28.80	公	試掘			
56	東野5丁目911-1,911-7,911-95,917-3	359	(54.63)	公	試掘			
57	小坂4丁目393-3	14	24.65	公	立会			
58	東垣生町887-1	327	(4.15)	公	試掘			
59	小坂4丁目393-3	800		私	既済			H13-312にて試掘済
60	東石井町520-6	156	22.30	私	試掘			
61	南久米町696	146	40.06	私	試掘			
62	南江戸5丁目1465-1	468		私				申請取り下げ
63	祝谷2丁目248-1,247-9	631	36.50	私	試掘			
64	祝谷2丁目248-1,247-9	655	35.90	私	試掘			
65	祝谷2丁目147-2	324	36.50	私	試掘			
66	北斎院町459	547	7.60	私	試掘			申請取り下げ
67	別府町116	247	11.60	私	試掘			
68	北久米町708-1先外	16	(30.00)	公	試掘			

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.3

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
69	衣山5丁目1480-12	140		私	既済			H12-281にて試掘済
70	北井門町394-2~291地先	199	(23.02)	公	試掘			
71	平井町甲1461-13	268		私	既済			H12-244にて試掘済
72	南久米町774-1	1,090		私	既済			本格調査済(久米高畑51次)
73	北梅本町甲3280-18	218	76.76	私	試掘			
74	古三津3丁目322-20	126		私	既済			H10-217にて試掘済
75	古三津3丁目322-21	126		私	既済			H10-217にて試掘済
76	東石井町59-5	189	26.70	私	試掘			
77	水堀町571	892	56.99	私				
78	東石井町533-1	255	22.50	私	試掘			
79	山越1丁目294-7,294-8	312		私	既済			H5-147にて試掘済
80	久万ノ台1154	566	18.10	私	試掘			
81	東石井町419-1,419-2	762	21.80	私	試掘			
82	山越1丁目甲263-25	132		私	既済			H13-197にて試掘済
83	祝谷2丁目344-11,344-12	110		私	既済			H10-105,205にて試掘済
84	安城寺町595-1の一部	398	8.40	私	試掘			
85	朝生田町2丁目307-1,307-5	329	19.90	私	試掘			
86	平井町甲1344-3	137		私	既済			H12-38にて試掘済
87	平井町甲1345-3	121		私	既済			H12-38にて試掘済
88	小坂5丁目363-1,364-1	951	22.83	私	試掘			
89	山越2丁目9-11	125	17.94	私	試掘			
90	水堀町1060-1	494	63.97	私	試掘			
91	桑原1丁目794-6	215		私	既済			H13-195にて試掘済
92	道後緑台229-1,229-2	417	37.40	私	試掘			申請取り下げ
93	山越3丁目743-1	665		私	既済			H8-463にて試掘済
94	北斎院町1238-8,1238-9	235		私				本格調査済(斎院島山遺跡)
95	欠番							
96	東本1丁目97-3	83	32.54	私	試掘	竪穴式住居址	弥生	本格調査要
97	道後北代1295-7	94	32.30	私	試掘			
98	清水町2丁目19-6,19-13	357	22.50	私	試掘			
99	北斎院町613-3	118	13.20	私	試掘			
100	森松町194-3	106	34.50	私	試掘			
101	恵原町天王乙	3	102.20	公	試掘			
102	北斎院町1162-4	257	6.38	私	試掘			
103	北斎院町1163-5	345	6.38	私	試掘			
104	山西町451,452-1	67	9.10	私	試掘			
105	南白水2丁目3-7	172		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
106	南白水2丁目4-3	194		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
107	南白水2丁目5-7	192		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
108	道後樋又1165-4,1165-5	294	26.90	私	試掘			
109	朝生田町2丁目301-3	118	20.26	私	試掘			
110	堀江町甲2068	303	48.00	公	試掘			
111	権現町659-8	101	33.59	私	試掘			
112	西石井6丁目161-6	124		私	既済			H13-17にて試掘済
113	祝谷4丁目848-5	351	40.92	私	試掘			
114	北斎院町249-3	141		私	既済			H11-248にて試掘済

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.4

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
115	天山町1丁目264-1	568	21.00	私	試掘			
116	北斎院町490-11	124		私	既済			H12-375にて試掘済
117	樽味4丁目207-3	317	39.15	私	試掘	包含層・土坑		本格調査要
118	中村1丁目315-9	90	28.10	私	試掘			
119	桑原3丁目925-1	757	38.30	私	試掘			
120	南白水2丁目7-1	168		私	既済			H5-26にて試掘済
121	清水町2丁目17-12、17-13、17-18	202	23.80	私	試掘			
122	北斎院町1160-4	399	7.20	私	試掘	包含層	弥生	本格調査要
123	福音寺町723-3、723-11	105	22.90	私	試掘			
124	南白水1丁目1-13	196		私	既済			H5-26にて試掘済
125	北久米町551-1、552	2,087	(31.20)	私	試掘			
126	小坂2丁目206-1、207-1	1,457	30.30	私	試掘			
127	南白水2丁目3-11	189		私	既済			意見書対応
128	太山寺町甲506	2,200	(2.86)	公	試掘			
129	今在家町1丁目237-10	115		私	既済			H12-8にて試掘済
130	今在家町2丁目62-11	119	31.80	私	試掘			
131	愛光町379-4	162	15.07	私	試掘			
132	東石井町乙41-13	193	25.50	私	試掘			
133	樽味4丁目197-2	505	41.40	私	試掘			
134	祝谷2丁目151-3	217	34.90	私	試掘			
135	南江戸5丁目1551、1535-1	657	(17.90)	私	試掘			
136	久米窪田町1131先~1129先	18		公	既済			H12-154にて試掘済
137	青葉台3-8	184		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
138	萱町6丁目30-1、164-1	1,846	19.90	公	立会			
139	枝松6丁目48-12	505		私	既済			H11-372にて試掘済
140	みどりヶ丘300-174	106	7.75	私	試掘			申請取り下げ
141	みどりヶ丘300-175	143	7.75	私	試掘			申請取り下げ
142	辻町50-4	109	14.40	私	試掘			
143	山越1丁目288-10、288-11	943	18.90	私	試掘			
144	衣山5丁目1517-17	142		私	既済			H12-281にて踏査済
145	東石井町419-1、419-2	761		私	既済			H14-81にて試掘済
146	鷹子町67-3	206	43.45	私	試掘			
147	北斎院町459	547		私	既済			H14-66にて試掘済
148	今在家1丁目237-6	108		私	既済			H12-8にて試掘済
149	今在家1丁目237-11	116		私	既済			H12-8にて試掘済
150	別府町394-3、394-4、400-1、401-1	4,093	(4.50)	私	試掘			
151	中村3丁目23	793	27.50	私	試掘			
152	桑原6丁目709-2	218	35.70	私	試掘			
153	鷹子町656-5	237	46.70	私	試掘			
154	古三津3丁目1035-3	166		私	既済			H6-67にて試掘済
155	北斎院町249-5	141		私	既済			H11-248にて試掘済
156	南白水2丁目3-9	178		私	既済			H5-26にて試掘済
157	南斎院町1342-2	216	8.00	私	試掘			
158	平井町甲3157-94	238	47.83	私	試掘			
159	南江戸5丁目1535-1、1551	657		私	既済			H14-135にて試掘済
160	小坂5丁目374	810	23.90	私	試掘			

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.5

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
161	安城寺町204-1	238		私	既済			H13-270にて試掘済
162	祝谷5丁目806-1	216	60.20	私	試掘			
163	東野1丁目甲66-7外	2,100	(45.33)	公	試掘			
164	枝松1丁目433-2外	4,900	(38.15)	公	試掘	土坑・柱穴	弥生・須恵・土師	本格調査要
165	北久米町815	3	28.20	私	試掘			
166	平井町甲3157-101	237	47.70	私	試掘			
167	平井町甲188外	9,000	89.84	公	試掘	包含層・柱穴	弥生・須恵	本格調査要
168	道後緑台210-3	336	34.40	私	試掘			
169	南白水2丁目2-6	211		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
170	山越1丁目293-4、294-9	280	19.20	私	試掘			
171	小坂2丁目96-3外	2,099	30.60	公	試掘	土坑・柱穴	弥生・土師	本格調査要
172	青葉台13-15	165		私	既済			H2-14にて試掘済
173	東石井町乙67-19-20、乙41-38	217	25.33	私	試掘			
174	北梅本町甲1309、甲1310	1,741	123.86	公	試掘			
175	山越1丁目甲280-1、280-5	165	18.60	私	試掘			
176	福音寺町570-1、570-2、575-1	812		私	既済			H1-97にて試掘済
177	道後緑台229-10	143		私	既済			H14-92にて試掘済
178	南久米町721-4	174	39.10	私	試掘			
179	谷町甲684-2	372	24.70	私	試掘			
180	東石井町507-3	736	22.40	私	試掘			
181	太山寺町甲512-4	206	3.34	私	試掘			
182	道後北代1284-6、1284-7	408	31.80	私	試掘			
183	山越1丁目296-7	114	18.60	私	試掘			
184	南白水2丁目7-3	174		私	既済			意見書対応
185	権現町甲435-1、435-3	502	25.20	私	試掘			
186	越智町294-4、294-7、295-2	417	23.90	私	試掘			
187	西石井5丁目240-12	126		私	既済			H1-18にて試掘済
188	衣山2丁目578-2	630	21.20	私	試掘	包含層・溝	須恵・土師	本格調査要
189	古三津3丁目322-11、323-12	127		私	既済			H10-217にて試掘済
190	朝美2丁目8-27	485	16.20	私	試掘			
191	桜ヶ丘540-9	121	5.70	私	試掘			
192	谷町甲377-1、377-2、245-5	405	16.28	私	試掘			
193	下伊台町1172-1、1173-3	239	145.53	私	試掘			
194	青葉台5-9	193		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
195	太山寺町甲416-4、甲418-2	130	4.76	私	試掘			
196	道後北代1297-2	63	32.50	私	試掘			
197	南梅本町114-1外	4,930		公	試掘			
198	今在家1丁目224-5	194	31.50	私	試掘			
199	水泥町1138-2	241	60.08	私	試掘			
200	平井町甲2169-10、2169-47	701	59.00	私	試掘			
201	朝生田町2丁目307-1	197		私	既済			H14-85にて試掘済
202	小坂5丁目341-10	222		私	既済			本格調査済(西天山遺跡2次調査)
203	福音寺町568-1、569-1	514	24.80	私	試掘			
204	森松町147-1	776	34.70	私	試掘			
205	今在家2丁目62-15	119	31.90	私	試掘			
206	枝松6丁目87-1	531	27.60	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.6

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
207	平井町甲2169-37	335	62.20	私	試掘			
208	東石井町乙41-109	93		私	既済			H14-132にて試掘済
209	青葉台2-1	195		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
210	青葉台2-2	239		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
211	久米窪田町661-1地先	1,358	(43.95)	公	試掘			
212	船ヶ谷町329-1地先	76	(7.96)	公	試掘			
213	辻町58,57-2	354	14.20	私	試掘			申請取り下げ
214	小坂2丁目206-1,207-1	1,444		私	既済			H14-214にて試掘済
215	南久米町446-6	244	36.30	私	試掘			申請取り下げ
216	今在家3丁目29-1	401	31.60	私	試掘			
217	天山1丁目244	436	21.30	私	試掘			
218	平井町甲3157-41	239		私				
219	鷹子町717-2,717-7	201	44.82	私	試掘			
220	北久米町875-1	239		私	既済			H12-16にて試掘済
221	福音寺町398-1,399-1,401-1,402-1	3,247	(28.30)	私	試掘			
222	来住町490	473	40.40	私	試掘			
223	西石井町233外1箇所	9	(20.55)	公	試掘			
224	南久米町353-4~232-8先	162	(38.95)	公	試掘			
225	南久米町381-14	192		私	既済			H6-164にて試掘済
226	中村2丁目295-1,295-2,296	544	27.20	私	試掘			
227	平井町甲1530	343	67.55	私	試掘			
228	姫原2丁目甲261-1外3筆	2,661	(18.55)	私	試掘			
229	道後今市1066-10	286		私	既済			H13-46にて試掘済
230	別府町乙32-2	202	57.00	私	試掘			
231	北井門町310-2	174	23.50	私	試掘			
232	今在家2丁目291-1	471	30.90	私	試掘			
233	桑原1丁目789-11	150		私	既済			H5-231にて試掘済
234	祝谷2丁目160-3	117	35.60	私	試掘			
235	祝谷2丁目157-6	121	35.90	私	試掘			
236	東方町甲1289-6	192	55.94	私	試掘			
237	小坂4丁目421-7	165		私	既済			H13-247にて試掘済
238	道後今市1039-3,1039-5	209		私				
239	権現町甲659-3	169	32.54	私	試掘			
240	南斎院町乙20-8	254	49.70	私	試掘			
241	桑原4丁目392-6	251	38.20	私	試掘			申請取下げ
242	山西町840-1外4筆	1,283	(2.75)	私	試掘			
243	久米窪田町483-4	999	44.70	私	試掘			
244	北斎院町382-5	73	10.31	私	試掘			
245	来住町241-1	51	41.30	私	試掘			
246	久米窪田町879-5,879の一部	440	46.20	私	試掘			
247	北久米町684-2外2筆	198		私	既済			H13-81にて試掘済
248	北井門町288先~310先	236		公				
249	青葉台14-1	172		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
250	朝日ヶ丘2丁目1459-16	93	29.40	私	試掘			
251	道後今市5-26~5-38,10-12~10-14地先	385	(31.90)	公	試掘			
252	水尻町1168-2	391	61.10	私	試掘			

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.7

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
253	南江戸5丁目1559-1	458		私	既済			H8-25にて試掘済
254	星岡町589-1地先	18	24.70	公	立会			
255	北梅本町甲571外	598	(79.42)	公	試掘			
256	南土居町253地先	1,200	(35.05)	公	試掘			
257	来住町689	933	(37.73)	公	試掘			
258	北斎院町459-3	132		私	既済			H14-66にて試掘済
259	平井町甲549外	2,250	(82.78)	公	試掘			
260	山越3丁目937-2	117	21.10	私	試掘			
261	南江戸2丁目644-3	382	14.20	私	試掘			
262	祝谷2丁目282-1	363	45.50	私	試掘			
263	道後今市1063-1	168	32.10	私	試掘			
264	北久米町925-1他15筆	8,104		私	既済			H11-68、208にて試掘済
265	水尾町1150	226		私				
266	道後今市1066-10	286		私	既済			H13-46にて試掘済
267	古三津3丁目323-6、322-12	135		私	既済			H10-217にて試掘済
268	山越1丁目甲280-1、280-5	149		私	既済			H14-175にて試掘済
269	北梅本町甲3240-7	225		私	既済			H4-58にて試掘済
270	来住町887-1、889-3	999		私	既済			本格調査済(久米高畑遺跡54次)
271	北斎院町1028-1	2,366	7.60	私	試掘			
272	鷹子町140-7	170		私	既済			H10-324にて試掘済
273	水尾町1229-3	476		私	既済			H12-245にて試掘済
274	窪野町4-9地先	3	110.30	公	試掘			
275	天山1丁目244-2	154		私	既済			H14-217にて試掘済
276	下伊台町1438-2外5筆	1,876	(147.86)	私	試掘			
277	山越2丁目654-12	158	18.20	私	試掘			
278	南久米町697-4	271	40.20	私	試掘			
279	正円寺3丁目54-10	191	49.00	私	試掘			
280	北久米町5-1、5-2、5-3、5-4		(45.55)	私	試掘			
281	東方町甲759-1、759-4、763-1、763-2	1,479	60.30	私	試掘			
282	南久米町349-11~325-2	32	(38.50)	公	試掘			
283	小坂2丁目461-1	121	28.50	私	試掘			
284	北久米町436、437	1,182	(34.15)	私	試掘			
285	北斎院町989、991-1	1,816	8.01	私	試掘			
286	清水町3丁目39-1の一部	257	24.70	私	試掘			
287	山越2丁目47-1	189		私	既済			H6-223にて試掘済
288	山越2丁目3-9	162	18.00	私	試掘			
289	祝谷2丁目13-17	123	54.20	私	試掘			
290	枝松6丁目87-4	291		私	既済			H14-206にて試掘済
291	愛光町375-2	117		公	既済			H12-62にて試掘済
292	祝谷2丁目252-6外17筆	7,002		私	既済			H13-185、H14-262にて試掘済
293	古三津3丁目740-4外7筆	4,291		私	踏査			
294	東野5丁目898-4、-81、-82、-94	304	(54.20)	公	試掘			
295	北斎院町乙44-1、338	310	13.90	私	試掘			
296	山西町453-15	183		私	既済			H12-379にて試掘済
297	姫原2丁目甲262-1外12筆	6,239	(19.00)	私	試掘			
298	南久米町乙24-136、乙24-137	2,295	(61.12)	私	試掘			

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.8

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
299	東石井町381-1,384-1	992	21.50	私	試掘			
300	愛光町377-3,378-5,378-9	315	14.70	私	試掘			
301	立花6丁目341-44	92	20.50	私	試掘			
302	北久米町675-1,676-1	334	32.48	私	試掘			
303	鷹子町173-8	313	48.67	私	試掘			
304	福音寺町712-1外5筆	951	25.10	私	試掘			
305	福角町	43		公				意見書対応
306	小坂4丁目393-9	115		私	既済			H13-312にて試掘済
307	木屋町2丁目7-23~-41地先	420	21.70	公	試掘			
308	清水町2丁目15-5~-8,22-1~-8地先	43	24.50	公	試掘			
309	高砂町2丁目1-1~-10,2-1~-12地先	113	22.40	公	試掘			
310	南梅本町乙80-2	128	96.47	私	試掘			
311	福音寺町397	1,441	26.90	私	試掘			
312	朝美1丁目1385-2	117	22.71	私	試掘			
313	山越3丁目811-2	198	21.70	私	試掘			
314	来住町538-4,540,541-1,南久米町687	2,314		私	一部立会	溝・柱穴	須恵	本格調査済(来住町遺跡9-11・13次)
315	恵原町甲1131	8	58.55	公	立会			
316	岩崎町1丁目	1,600		公				
317	今在家3丁目409-1	231		私	既済			H11-329にて試掘済
318	南久米町446-6	244		私	既済			H14-215にて試掘済
319	桑原3丁目925-3	400		私	既済			H14-119にて試掘済
320	古三津3丁目878-36	160		私	既済			H8-120にて試掘済
321	南久米町769	981	36.90	私	試掘	包含層・溝・柱穴	須恵・土師	本格調査要
322	来住町	365		公	既済			H12-154にて試掘済
323	平井町甲72-16	248		私	既済			H5-45にて試掘済
324	平井町甲1122-2	168		私	既済			H13-16にて試掘済
325	辻町46-1,46-2	1,502		私	既済			H10-106にて試掘済
326	南江戸4丁目1-1	69		私				
327	姫原2丁目甲265-74	198	21.10	私	試掘			
328	若草町66-2	499		私				
329	枝松3丁目306-4,306-5	151	33.40	私	試掘			
330	南江戸4丁目1-1	23	(11.50)	公	試掘			
331	南白水2丁目2-5	187		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
332	南久米町577~602	405		公				
333	祝谷2丁目110-1	661	33.25	私	試掘			
334	南白水1丁目1-3	210		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
335	松末2丁目42-3	165		私				
336	道後鶯谷町419-1外10筆	4,529	(52.65)	私	試掘			
337	北土居町581地先~地先	61		公	既済			H11-88, H11-303にて試掘済
338	北梅本町乙745-9	499	150.92	私	試掘			
339	北斎院町459-5	132		私	既済			H14-66にて試掘済
340	今在家1丁目2-19地先	1		公				
341	来住町856-18	161		私	既済			本格調査済(来住廃寺14次調査)
342	桑原2丁目3-11	203	36.10	私	試掘			
343	平井町甲3157-179	244	48.42	私	試掘			
344	祝谷5丁目774-3	117	50.50	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.9

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
345	青葉台3-9	165		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
346	来住町858-6	158		私	既済			本格調査済(来住庵寺5次調査)
347	山西町796-1、796-3	998	4.05	私	試掘			
348	山西町539-12	164		私	既済			H12-173にて試掘済
349	道後樋又1213-3	440	28.70	私	試掘			
350	南白水1丁目1-2	210		私	既済			本格調査済(瀬戸風峠遺跡)
351	青葉台11-13	204		私	既済			本格調査済(野津子山遺跡)
352	枝松5丁目102外3筆	1,658		私	既済			本格調査済(釜ノ口遺跡3次調査)
353	枝松3丁目306-3、306-6	145	33.33	私	試掘			
354	南江戸5丁目733-3	287	13.60	私	試掘			
355	朝日ヶ丘2丁目1456-1、1456-2外2筆	1,099	(33.00)	私	試掘			
356	辻町62、63、64、233	735	(13.70)	私	試掘			
357	東石井町401-1	481	21.80	私	試掘			
358	水堀町1124	369	58.98	私	試掘			
359	今在家3丁目25-2外	7,964		私	既済			H12-50、H13-113、-221にて試掘済
360	山西町796-1、796-3の各一部	254	4.05	私	試掘			
361	北井門町外1か町	48		公				
362	南久米町665-1	152	41.26	私	試掘			
363	鉄砲町10-5、10-6、10-10	459	27.00	私	試掘			
364	谷町甲272-6	248	17.80	私	試掘			
365	衣山5丁目43外6筆	6,012		私	既済			本格調査済(御産所権現山遺跡)
366	朝生田町3丁目403-1	139	19.50	私	試掘			
367	道後緑台1323-1の一部外10筆	1,851		私	既済			H13-94にて試掘済
368	平井町甲1254-1、甲1264-1、-4、-5	2,679	70.40	私	試掘			
369	北斎院町312-1、312-2	212	12.30	私	試掘			
370	下伊台町1447-1外5筆の一部	28	144.70	私	試掘			
371	西石井6丁目200-11外	3,200	21.30	公	試掘	溝・土坑・柱穴	弥生・土師	本格調査要
372	今在家町2丁目281-1	491	30.60	私	試掘			
373	山越3丁目2820-13	100	39.60	私	試掘			
374	鉄砲町10-2	99	27.20	私	試掘			
375	下伊台町1446-1	818	146.24	私	試掘			
376	平井町甲2074-2	361	59.60	私	試掘			
377	平井町1234-8	109	71.50	私	試掘			
378	別府町乙26-2外3筆、山西町1626-2外2筆	7,177	6.20	私	試掘			
379	愛光町432、433-1、434-1	2,807	15.10	私	試掘			
380	東石井町乙41-13	101		私	既済			H14-132にて試掘済
381	山越2丁目56-1	1,152	17.50	私	試掘			
382	樽味4丁目212-5	422	38.30	私	試掘			
383	平井町甲1296-1	292	77.83	私	試掘			
384	今在家2丁目62-10	345		私				
385	道後今市6-23	247		私				
386	北梅本町1700地先	13,564		公	踏査			
387	平井町乙594-2地先	3,746		公	踏査			
388	平井町乙771-1	10,279		公	踏査			
389	平井町乙190地先	4,660		公	踏査			
390	中村3丁目17-11	129	26.03	私	試掘			

表1 平成14年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.10

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
391	鷹子町740	1,363	44.70	公	試掘			
392	別府町400-1、401-1の一部	104		私	既済			H14-150にて試掘済
393	別府町400-1、401-1の一部	101		私	既済			H14-150にて試掘済
394	古三津3丁目322-19、322-13、323-9	262		私	既済			H10-217にて試掘済
395	平井町甲72-9	132		私	既済			H5-45にて試掘済
396	山西町539-9	180		私	既済			H12-173にて試掘済
397	山西町539-8	149		私	既済			H12-173にて試掘済
398	愛光町371-12	137	14.60	私	試掘			
399	一番町3丁目20	1,925		公				
400	来住町523-8	359	40.10	私	試掘			
401	道後喜多町1331-4、1331-5	143	33.60	私	試掘			
402	衣山5丁目1517-16	174		私	既済			H12-281にて試掘済
403	道後北代9-1	165	31.40	私	試掘			
404	水尻町333-25	171		私				
405	森松町147-3、147-5	333		私	既済			H14-204にて試掘済
406	南高井町1718地先	約1	35.59	公	試掘			
407	福音寺町701-8	126		私				
408	道後緑台1324-1	709		私	既済			S63-141にて試掘済
409	平井町甲3157-194	243		私				
410	道後緑台224-3、225-1、-5、-6	542	35.87	私	試掘			
411	樽味4丁目197-2	345		私	既済			H14-133にて試掘済
412	祝谷2丁目249-11、249-12	69	37.89	私	試掘			
413	樽味4丁目197-2	345		私	既済			H14-133にて試掘済
414	樽味4丁目197-5	159		私	既済			H14-133にて試掘済
415	別府町285-4	86		私				
416	平井町甲2169-82、2169-10	223		私	既済			H14-200にて試掘済
417	平井町甲1225-1、甲1226-1	772		私	既済			H6-4、H6-5にて試掘済
418	古三津3丁目330-1外4筆	5,192		私				
419	久万ノ台乙1749-1外	11,141		公				
420	東石井町乙20外	20,698		公				
421	今在家町313-1外	2,040		公				
422	星岡町365外	2,429		公				
423	太山寺町甲524-1外	443		公				
424	権現町甲755-1外7筆	6,493		私				
425	安城寺町835-3	488	6.06	私	試掘			
426	桑原2丁目963-1	341		私				
427	山越2丁目24-6、24-7	147		私				
428	来住町1138-2、1139-1、1140-1、1141-1	2,741		私	既済			H9-275にて試掘済
	来住町856	4	38.60	私	立会			本格調査済(来住庵寺14次調査)

表2 平成14年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代	主な遺構・遺物等	対象面積(m ²)	屋外調査期間	No.
376-1-C	「松山市道中村桑原線関連遺跡」 桑原遺跡4次調査(4区)	桑原5丁目9-2、9-41	緊急	弥生	溝・九州系石瓦丁	700	H14.4.16~H14.9.13	376-1-C
395-1-B	「松山市道北久米和泉線関連遺跡」 西石井遺跡1次調査(4~6区)	西石井町355番地外	緊急	弥生	溝	1,520	H14.4.16~H14.6.28	395-1-B
395-2-A	「松山市道北久米和泉線関連遺跡」 西石井遺跡2次調査(1~4区)	西石井町364-1外	緊急	弥生	井戸・弥生土器	3,750	H14.7.1~H15.3.31	395-2-A
395-2-B	「松山市道北久米和泉線関連遺跡」 西石井遺跡2次調査(5区)		緊急	弥生	溝・住居址	3,930	H14.7.1~H15.3.31	395-2-B
399	久米高畑遺跡54次調査	来住町887-1の一部889-3	国補	古代	官衙遺構	1,020.31	H14.4.15~H14.10.31	399
400	樽味高木遺跡5次調査	南久米町715-4、-5	国補	弥生	住居址	361	H14.4.19~H14.7.21	400
401	「松山市道小野158号線関連遺跡」							401
401-1	上苺屋遺跡3次調査	平井町865番地1外	緊急	中世	掘立柱建物	7,689.39	H14.5.1~H15.1.31	401-1
402	樽味高木遺跡6次調査	樽味4丁目246、251-1	緊急	弥生	住居址・フイゴ	953.67	H14.8.1~H14.11.29	402
403	久米高畑遺跡55次調査	南久米町715番地4、5	国補	弥生	環濠	213.28	H14.7.29~H14.11.11	403
404	「松山市道樽味溝辺線関連遺跡」							404
404-1-A	枝松遺跡6次調査	枝松1丁目427番地1	緊急	中世	掘立柱建物	1,436.46	H14.11.1~H15.3.31	404-1-A
404-1-B	樽味四反地遺跡7次調査	樽味4丁目220番外	緊急	弥生	住居址・算盤玉形紡錘車	781.31	H14.11.1~H15.3.31	404-1-B
405-1	「松山市道中村桑原線関連遺跡」 枝松遺跡7次調査	小坂2丁目96-3番地外	緊急	弥生	溝・サジ形土器	2,100	H14.11.1~H15.3.31	405-1
406	久米高畑遺跡56次調査	来住町924番地	国補	弥生	土坑	561	H14.11.18~H15.1.13	406
407	姫原遺跡2次調査	姫原1丁目219の一部	国補	古墳	住居址	500	H14.11.18~H15.3.31	407
408	「松山市道水泥南高井線関連遺跡」							408
408-1-A	平井遺跡2次調査	平井町甲3317番地1外	緊急	弥生	溝	1,400	H14.12.2~H15.3.31	408-1-A
409	来住庵寺28次調査	来住町850の一部	国補	古代	土坑	154	H15.1.27~H15.3.31	409
410	松山城二之丸跡4次調査	丸ノ内7	国補	江戸	礎石建物跡・古墳		H14.4.18~H15.3.31	410
411	松山城本丸跡2次調査	丸ノ内1	国補	江戸	石組排水溝		H14.9.19~H14.11.15	411
412	松山城三之丸跡	堀之内(県営ラグビー場跡)	国補	江戸	石組溝・井戸		H14.9.17~H15.3.31	412



図1 平成14年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図

栗駒の歴史 出土遺物整理 1

III 平成14年度 保存処理及び出土遺物整理

栗駒の歴史 出土遺物整理 1

(本誌)

1. 平成14年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査はもちろん、過去約20年の調査資料の整理を行っている。今年度は昨年度に引き続き、出土遺物が、膨大になってきたために収蔵品の再整理を重点的に行った。

1. 遺物

青銅製品：保存処理および復元・科学分析を外部委託しているが、本年度は該当資料がない。

鉄製品：収蔵品目録の製作作業を重点的に行う。保存処理は当センターで行うが、特殊な資料やX線撮影は外部委託している。今年度の重要資料の外部委託は鉄刀2点、鉄剣1点、鉄製馬具1点を(財)元興寺文化財研究所に依頼する。

植物遺体：木製品や種実は品種同定を外部委託し、そのうえで当センターで保存処理をしている。

今年度の種実同定と樹種同定は(株)古環境研究所に委託する。また、今年度は展示・保管用に支持台1点を(財)元興寺文化財研究所に委託した。

動物遺体：洗浄や保護の作業を行う。品種同定は、来年度以降に行いたい。

土器：収蔵庫整理では、報告書の刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行う。特に、展示会や類例調査等で使用頻度の高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保管した。今年度は、分銅形土製品（P103～108）・讃岐系土器・陶磁器の整理を進め、台帳を作成後に、一括保管した。

石器：土器と同様の作業を進め、特に、選別作業を重視した。

2. 写真

ネガ：35mm判と6×7判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所に収納する。4×5判は写真担当者が整理する。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをテン箱に収納し、収蔵庫に保管する。

3. 実測図・日誌・報告書原図

遺構測量図・遺物実測図・日誌・報告書原図は収蔵庫に保管する。

(梅木)

2. 保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理（PEG含浸処理）、金属製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。
(山本)

1. 木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理はPEG（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。このPEG含浸法は、木製品中の水分をPEGに置き換える方法で、20%の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100%濃度のPEG溶液をしみこませることになる。この処理は1～1.5年位を要する。平成14年度は木製品の保管数が少なく、保存処理は行っていない。

2. 金属製品の保存処理（写真1～14）

前処理（脱水・脱塩・安定化処理）を行っていた金属製品は、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・RPシステム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表1 平成14年度 金属製品保存処理遺跡名一覧

No.	遺 跡 名	点 数	作 業 工 程	刊 行 物
33	東野お茶屋台遺跡2次調査	2	処理済・処理室保管	
41	津田中構内遺跡	16	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第80集
49	東野お茶屋台遺跡3次調査	1	処理済・処理室保管	
122	伊台惣部遺跡	2	処理済・処理室保管	
128	筋違E遺跡	5	処理中	松山市文化財調査報告書第52集
155	桑原西稲葉	2	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第26集
166	福音小学校構内遺跡	48	実測終了	松山市文化財調査報告書第50集
171	道後今市遺跡6次調査	7	処理中	松山市文化財調査報告書第30集
201	祝谷本村遺跡	5	処理中	松山市文化財調査報告書第30集
221	星岡登立遺跡2次調査	1	処理済・処理室保管	
239	樽味四反地遺跡2次調査	3	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第46集
240	樽味四反地遺跡3次調査	2	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第46集
244	松山大学構内遺跡3次調査	16	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第49集
255	樽味四反地遺跡4次調査	4	含浸済・乾燥中	松山市文化財調査報告書第46集
274	来住廃寺24次調査	30	含浸済・乾燥中	
281	瀬戸風峠遺跡	346	樹脂含浸	松山市文化財調査報告書第69集
305	畑寺6号墳	2	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第58集
336	船ヶ谷遺跡3次調査	11	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第73集

3. 人骨・獣骨（動物遺骸体）の保存処理

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けて全体（内部まで）を強化し保護する。また、収蔵遺物の再整理を行い収蔵台帳の作成も行っている。平成14年度は保護処理は行わず再整理を行った。以下、再整理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表2 平成14年度 動物遺骸体整理遺跡名一覧

No.	遺跡名	調査年	種類	点数	刊行物
8	御産所11号墳	S48年	人	48	松山市文化財調査報告書第9集
13	久万ノ台1号墳	S48年	人	16	松山市文化財調査報告書第9集
14	中村2丁目遺跡	S50年	人?	1	未報告
45	溝辺1号墳	S51年	人	4	溝辺遺跡調査報告書（県教委）
45	溝辺2号墳	S51年	人	13	溝辺遺跡調査報告書（県教委）
198	古照遺跡6次調査	H2年	人・獣	71	松山市文化財調査報告書第35集

4. 遺構・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合に遺構・遺物の取り上げを行う。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い（骨を土ごとに取り上げること、年報11、保存処理事業Ⅰ-3参照）、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる（年報X、保存処理事業Ⅰ-3参照）。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がり、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成14年度は遺構・遺物の取り上げは行っていない。

5. 土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取り転写は、転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成14年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献：1～5 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニュース16・24・28・31』

6. 出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

以下の表に平成14年度調査により出土した遺跡名、種類、点数を記す。

表 3 平成14年度 調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

No.	遺 跡 名	種 類	点 数	内 訳
376-3	桑原遺跡 4次調査地	金属製品	1	
395-1-A	西石井遺跡 (1区~3区)	金属製品	16	金銅製品 (ツバ) など
395-2	西石井遺跡 2次調査地	木製遺物	4	炭化材
401-1	上苅屋遺跡 3次調査地	木製遺物	11	桶底板・薪など
		金属製品	4	銭・刀子など
		動物遺骸体	2	人 (歯)
402	樽味高木遺跡 6次調査地	金属製品	42	鉄製品 (鈍・鋏先) など
寄贈11	芝が峠古墳採取遺物	金属製品	49	鉄製品 (轡・鋏) など
寄贈12	竹本コレクション	金属製品	1	馬具 (杏葉)

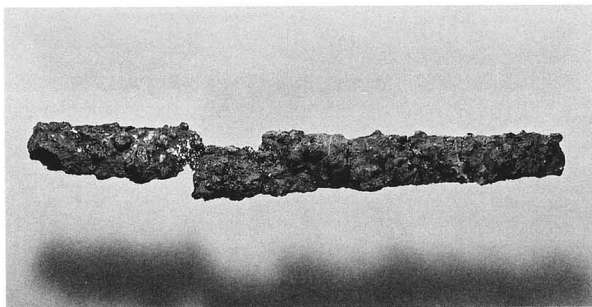


写真 1 東野お茶屋台14号墳出土鈍 (処理前)

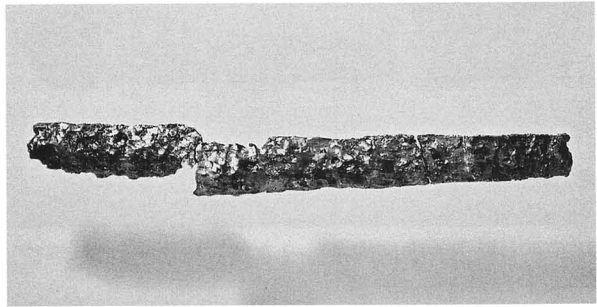


写真 2 東野お茶屋台14号墳出土鈍 (処理後)

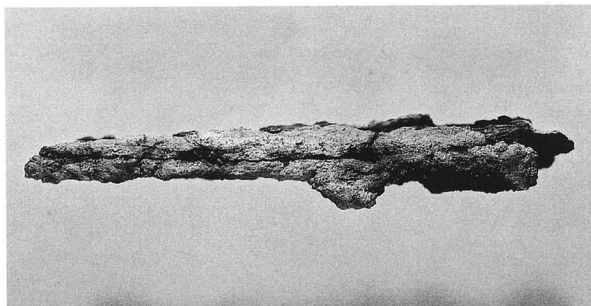


写真 3 東野お茶屋台18号墳出土鈍 (処理前)

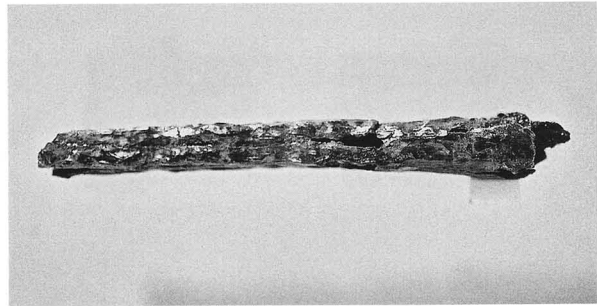


写真 4 東野お茶屋台18号墳出土鈍 (処理後)

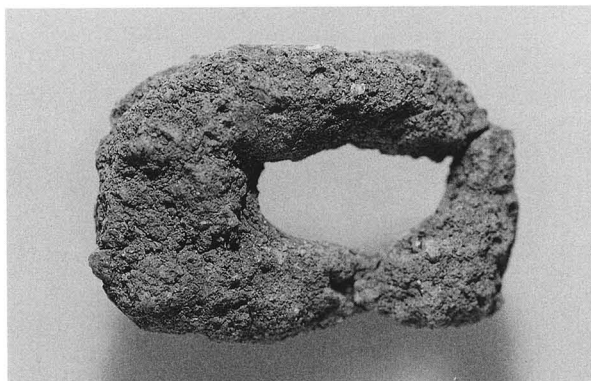


写真 5 伊台惣部遺跡出土馬具 (処理前)



写真 6 伊台惣部遺跡出土馬具 (処理後)



写真7 伊台惣部遺跡出土鉄片（処理前）

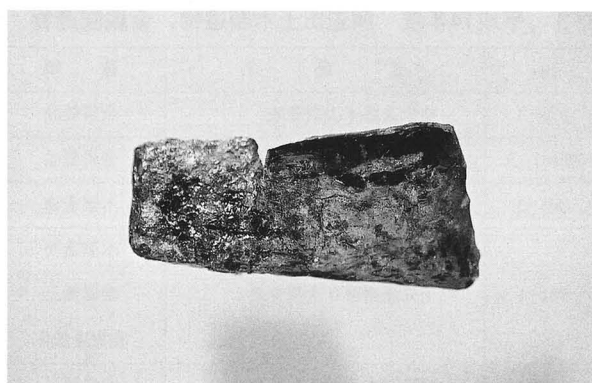


写真8 伊台惣部遺跡出土鉄片（処理後）

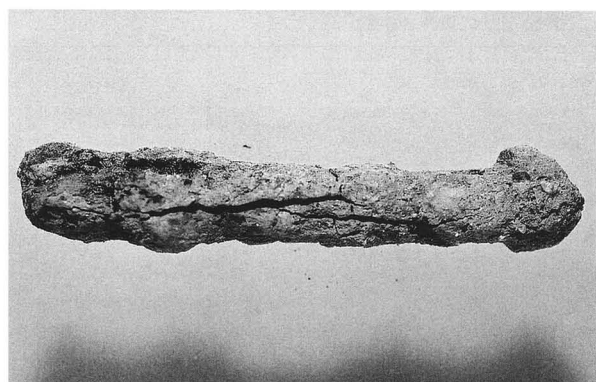


写真9 松山大学構内遺跡3次調査地出土釘（処理前）

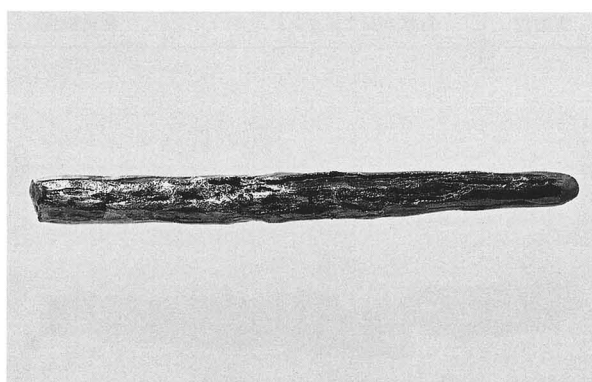


写真10 松山大学構内遺跡3次調査地出土釘（処理後）

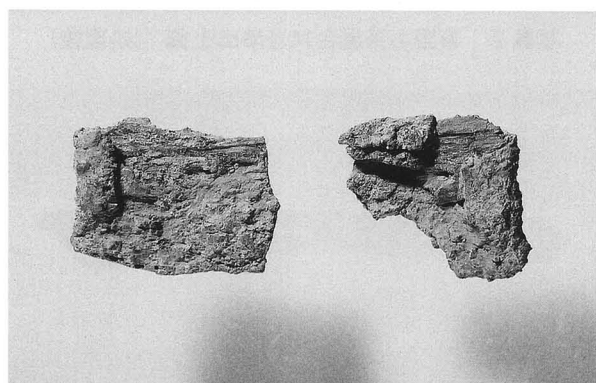


写真11 樽味四反地遺跡2次調査地出土摘鎌（処理前）

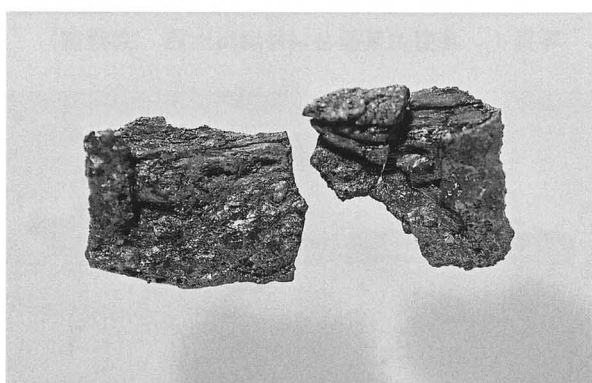


写真12 樽味四反地遺跡2次調査地出土摘鎌（処理後）

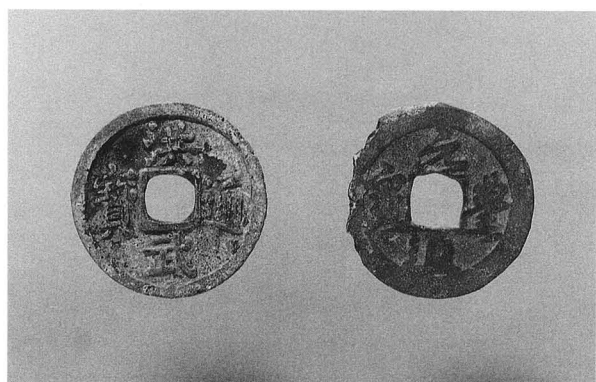


写真13 来住廃寺24次調査地出土銭貨（処理前）

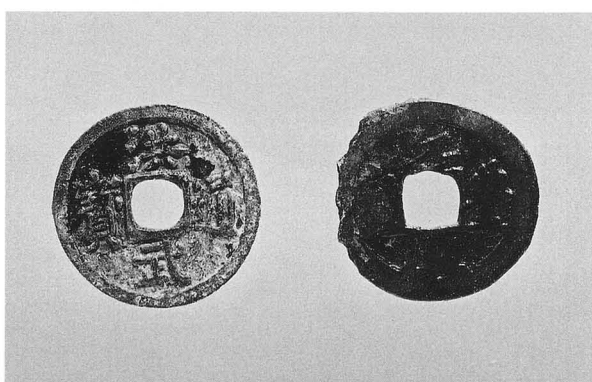


写真14 来住廃寺24次調査地出土銭貨（処理後）

3. 自然科学分析

北斎院地内遺跡 4 次調査における樹種同定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、分類群によって特徴ある組織をもっていることから、解剖学におおむね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、16世紀初頭とされる墓 1 の木材 3 点である。

3. 方法

カミソリを用いて、新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、生物顕微鏡によって60~600倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果を表 1 に示し、各試料の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表 1 樹種同定結果

試料	遺 構	樹種 (和名/学名)
1	土壙墓 1、No 2	ツガ <i>Tsuga sieboldii</i> Carr.
2	土壙墓 1、No 3	ツガ <i>Tsuga sieboldii</i> Carr.
3	土壙墓 1、No 4	ツガ <i>Tsuga sieboldii</i> Carr.

ツガ *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科 (図版 1・2・3)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。樹脂細胞が存在する。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、1分野に2~4個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。樹脂細胞が存在する。

5. 所見

分析の結果、16世紀初頭と推定される墓 1 の木材は、いずれもツガと同定された。ツガは、福島県以南の本州、四国、九州に分布する常緑高木で、通常高さ20~25m、径50~80cmである。材は耐朽、保存性中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

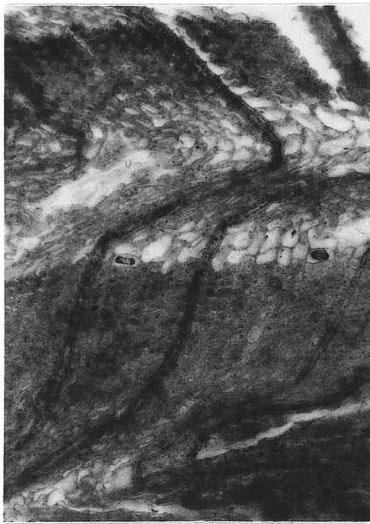
[文 献]

佐伯浩・原田浩 (1985) 「針葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版、p. 20-48.

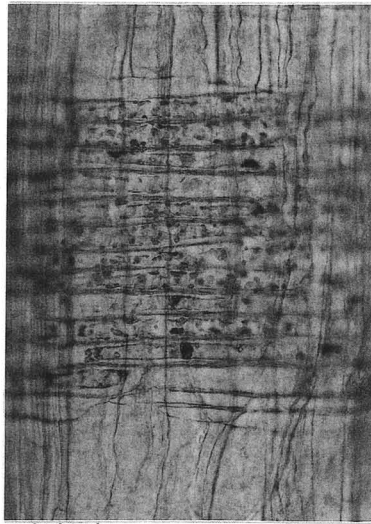
佐伯浩・原田浩 (1985) 「広葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版、p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫 (1988) 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣、296p.

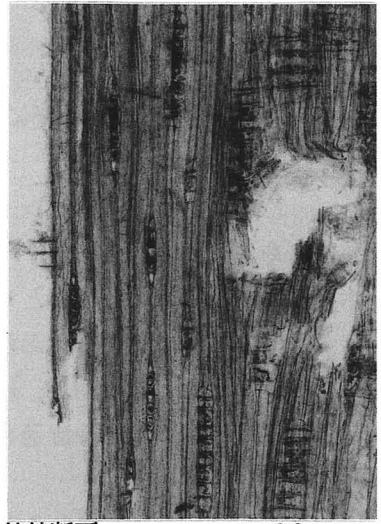
写真15 北斎院地内遺跡4次調査地出土木材の顕微鏡写真



横断面 : 0.2mm
1. サンプルNo.1 生材 土壙墓1



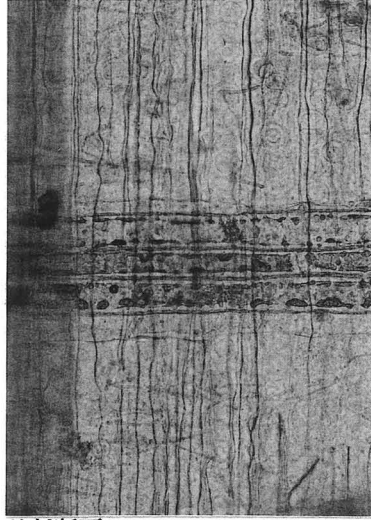
放射断面 : 0.1mm
No.2 ツガ



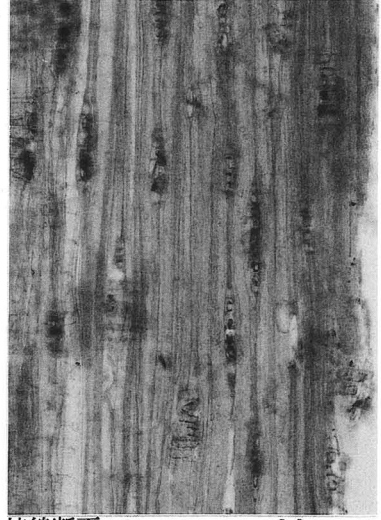
接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.2mm
2. サンプルNo.2 生材 土壙墓1



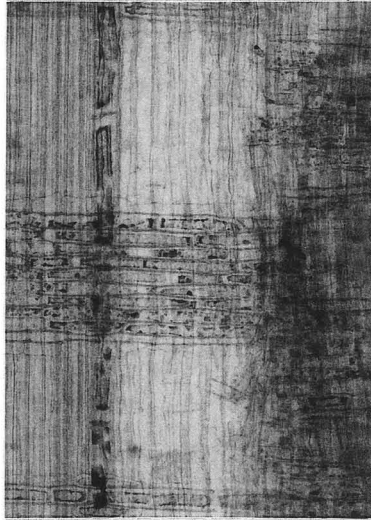
放射断面 : 0.1mm
No.3 ツガ



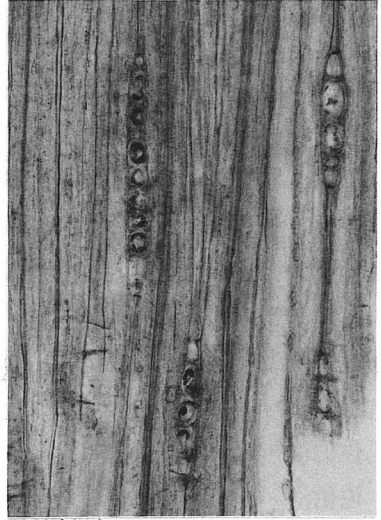
接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.2mm
3. サンプルNo.3 生材 土壙墓1



放射断面 : 0.2mm
No.4 ツガ



接線断面 : 0.1mm

4. 出土遺物整理

分銅形土製品：平成13年度までに当センターで保管している分銅形土製品は73点である。今年度は、これらを実測し、台帳を作成して、特別収蔵庫に一括管理した。ここでは、実測図と一覧表を掲載し、資料の公開に努めたい。

(山之内・梅木)

表1 分銅形土製品一覧

No.1

番号	遺跡名	出土地	形状	残存	塗彩	重さ(g)	時期	文献
1	祝谷六丁場	3区S4W6 灰褐色土層	隅丸方形	1/2	?	115	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-910
2	祝谷六丁場	3W区S4W11 青灰黄褐色	方形	1/4	?	54	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-911
3	祝谷六丁場	1区N6E2 暗青灰褐色	方形	1/2		89	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-912
4	祝谷六丁場	2区S4E6 黒褐色砂下層	方形	1/2		59	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-913
5	祝谷六丁場		円形	1/2		62	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-914
6	祝谷六丁場	1区N6E2 暗青灰粘	円形	1/2		22	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-915
7	祝谷六丁場		円形	1/4		48	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-916
8	祝谷六丁場	3W区S4W9 黒色下層	円形	1/2		64	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-917
9	祝谷六丁場	3区WS4W1 青灰黄褐色	方形	1/2		128	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-918
10	祝谷六丁場	3区S4W10 黒土下層	方形	1/2		91	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-919
11	祝谷六丁場	3区S2W9 青褐色土	円形(バチ形)	ほぼ完形		37	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-920
12	祝谷六丁場	1区N6E1 茶褐色土	方形	1/4		28	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
13	祝谷六丁場	1区N5E8 黒色土	方形	1/2		29	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
14	祝谷六丁場	1区黒	方形	1/2		77	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
15	祝谷六丁場	1区	方形	1/4		20	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
16	祝谷六丁場	1区N6E6 暗茶褐色	方形	1/2		35	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
17	祝谷六丁場	2区南東青黒下	不明	1/6	ベンガラ	48	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
18	祝谷六丁場	3区S4W11	隅丸方形	1/4		71	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
19	祝谷六丁場	3区S4W3 暗灰黄褐色	方形	1/2		47	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
20	祝谷六丁場	3W区S3W9 表採	円形	1/2		28	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
21	祝谷六丁場	3区S3W4 灰黄褐色	円形(バチ形)	1/2		90	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
22	祝谷六丁場	3区S3W10 灰黄褐色	円形	1/2		66	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
23	祝谷六丁場	3区S3W8 灰黄褐色	方形	1/2	ベンガラ	169	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
24	祝谷六丁場	3区S4W10 暗茶褐色	方形	1/2		85	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
25	祝谷六丁場	3区S3W9 黒色	隅丸方形	1/4		45	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
26	祝谷六丁場	3区S3W9 暗茶褐色	方形	1/2		23	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
27	祝谷六丁場	3区S5W5 明褐色	方形	1/2		34	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
28	祝谷六丁場	3区S3W8 黒色粘	方形	1/2		37	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
29	祝谷六丁場	3区S3W8 黒色粘	隅丸方形	1/3		9	弥生中期中葉	市24集「祝谷六丁場遺跡Ⅰ」-未掲載
30	祝谷アイリ	S B 2	隅丸方形	1/2		101	弥生後期前葉	市25集「祝谷アイリ遺跡」-アイリA
31	祝谷アイリ	S X 010	方形	1/2	ベンガラ	148		市25集「祝谷アイリ遺跡」-アイリB
32	松山大学構内3次	S X 2 上部	円形(バチ形)	1/2		24	弥生後期末	市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-671
33	松山大学構内3次	S R C 区	円形	1/2		18		市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-726
34	松山大学構内3次	埋土2	不明	1/5		7		市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1119
35	松山大学構内3次	埋土2	円形	1/2		39		市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1120

出土遺物整理

分銅形土製品一覧

No.2

番号	遺跡名	出土地	形状	残存	塗彩	重さ(g)	時期	文献
36	松山大学構内3次	SR1上層	円形	1/5		35	弥生後期前葉	市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1520
37	松山大学構内3次	SR1上層	方形	1/2		39	弥生後期前葉	市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1521
38	松山大学構内3次	SR1下層上部	方形	1/6		15	弥生中期後葉	市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1592
39	松山大学構内3次	SR1下層下部	円形	1/2		41	弥生中期～後期前葉	市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1730
40	松山大学構内3次	SR1(⑤区)	円形	1/2		136	弥生中期後葉～後期前葉	市49集「松山大学構内遺跡Ⅱ」-1785
41	文京遺跡3次	SB6	隅丸方形	1/5	ベンガラ	91	弥生中期後葉	市28集「文京遺跡2・3・5」-224
42	文京遺跡3次	包含層	円形	1/2		13		市28集「文京遺跡2・3・5」-486
43	文京遺跡3次	包含層	円形	完形		18		市28集「文京遺跡2・3・5」-487
44	文京遺跡3次	包含層	隅丸方形	1/4		22		市28集「文京遺跡2・3・5」-488
45	文京遺跡3次	包含層	隅丸方形	1/4		20		市28集「文京遺跡2・3・5」-489
46	文京遺跡3次	包含層	円形(バチ形)	1/4		51		市28集「文京遺跡2・3・5」-490
47	文京遺跡4次	土壌	隅丸方形	1/2		16	弥生中期後葉～後期初頭	市30集「道後城北遺跡群」-55
48	文京遺跡1次	PD5	円形	1/4		59	弥生中期後葉	市25集「祝谷アイリ遺跡」-文京A
49	道後鷺谷	包含層	丸	ほぼ完形		12	弥生中期中葉	市37集「道後城北遺跡群Ⅱ」-第38図
50	朝美辻	SD1	方形	1/2		60		未報告
51	大峰ヶ台	包含層	方形	1/2		105	弥生中期中葉	市48集「大峰ヶ台遺跡-4次」-194
52	大峰	P-238	方形	1/2		136		未報告
53	大峰山頂	T5	方形	1/6		33		未報告
54	久米高畑22次	包含層	隅丸方形	1/2		83		整理中
55	南久米九日田	SD1	隅丸方形	1/4		5		整理中
56	福音小学校構内	SB15	方形	1/2		70		市50集「福音小学校構内遺跡」 -福音小B
57	福音小学校構内	SP4522	隅丸方形	1/2		62		市50集「福音小学校構内遺跡」 -福音小A
58	岩崎	包含層	円形(バチ形)	1/2		76		市71集「岩崎遺跡」-Ⅲ128
59	岩崎	SDVI105地点不明	円形(バチ形)	1/4		14		市71集「岩崎遺跡」-VI270
60	岩崎	包含層	円形?	1/4		15		市71集「岩崎遺跡」-VI573
61	来住廃寺23次	SB002	円形	1/2		44		整理中
62	来住廃寺22次	SX1上層	円形	1/2		28		整理中
63	樽味四反地3次	SK18	隅丸方形	1/2	ベンガラ	18		市46集「桑原地区の遺跡Ⅱ」-94
64	船ヶ谷2次	E16	円形(バチ形)	1/2		44		市70集「船ヶ谷遺跡2次」-299
65	久米		隅丸方形	1/2		32		整理中
66	来住廃寺15次	Ⅶ層	円形(バチ形)	2/3		150		市34集「来住廃寺遺跡15次」-255
67	樽味四反地6次	SD001上層	円形	1/2		17	弥生中期～後期前葉	市94集「樽味四反地遺跡6次」-491
68	船ヶ谷4次	SR1-③層	方形	1/4		46	弥生中期中葉	市88集「船ヶ谷遺跡4次」-81
69	船ヶ谷4次	SR1-②層	円形	1/2		86		市88集「船ヶ谷遺跡4次」-842
70	船ヶ谷4次	SR1-②層	隅丸方形	1/4		47		市88集「船ヶ谷遺跡4次」-843
71	船ヶ谷4次	SR1-②層	方形	1/5		76		市88集「船ヶ谷遺跡4次」-965
72	船ヶ谷4次	SR1-①層	方形(羽子板形)	完形		38	弥生前期	市88集「船ヶ谷遺跡4次」-1201
73	船ヶ谷4次	Ⅶ層	円形(バチ形)	1/2		18	弥生中期	市88集「船ヶ谷遺跡4次」-1713

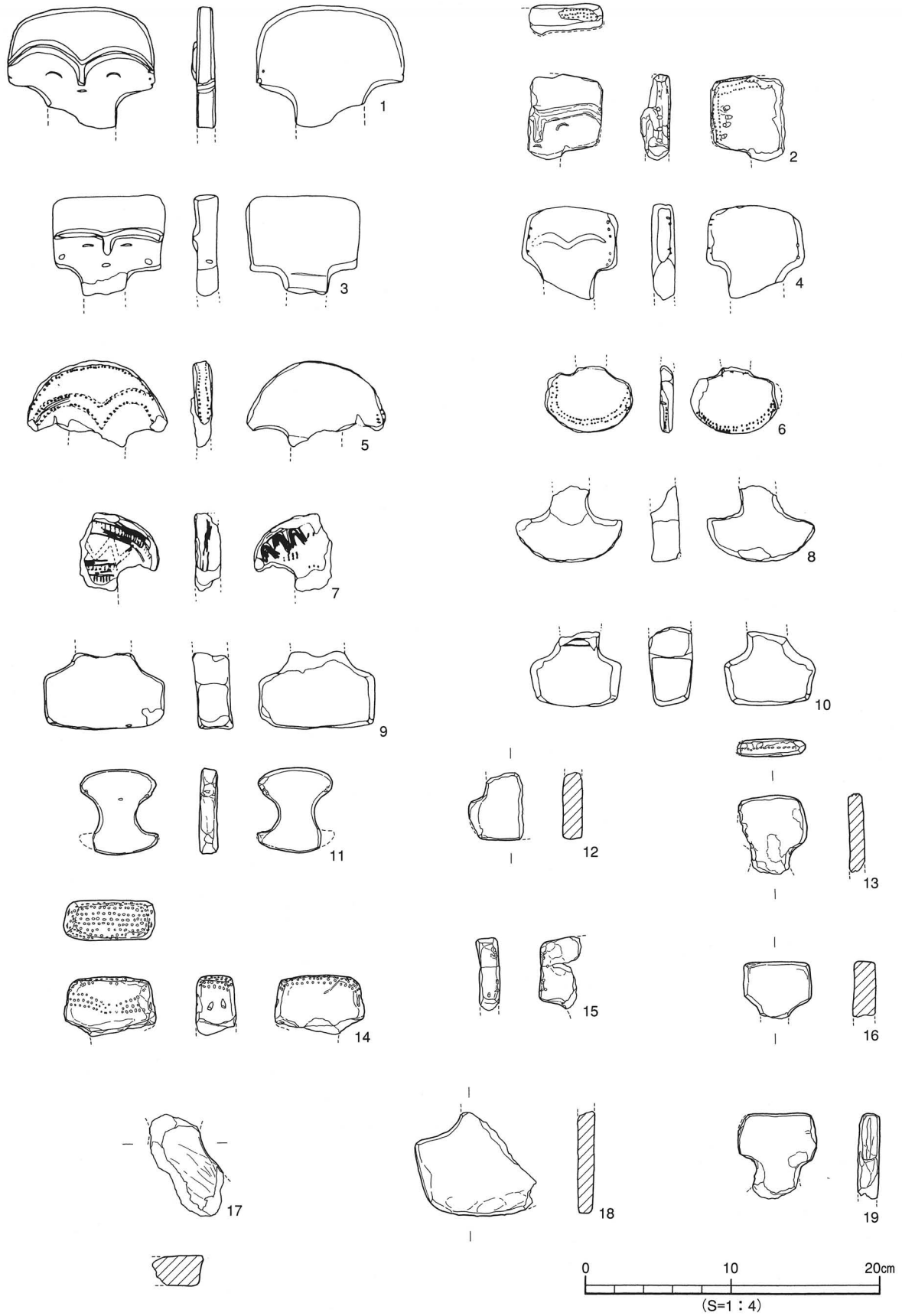


图1 分銅形土製品実測図(1)

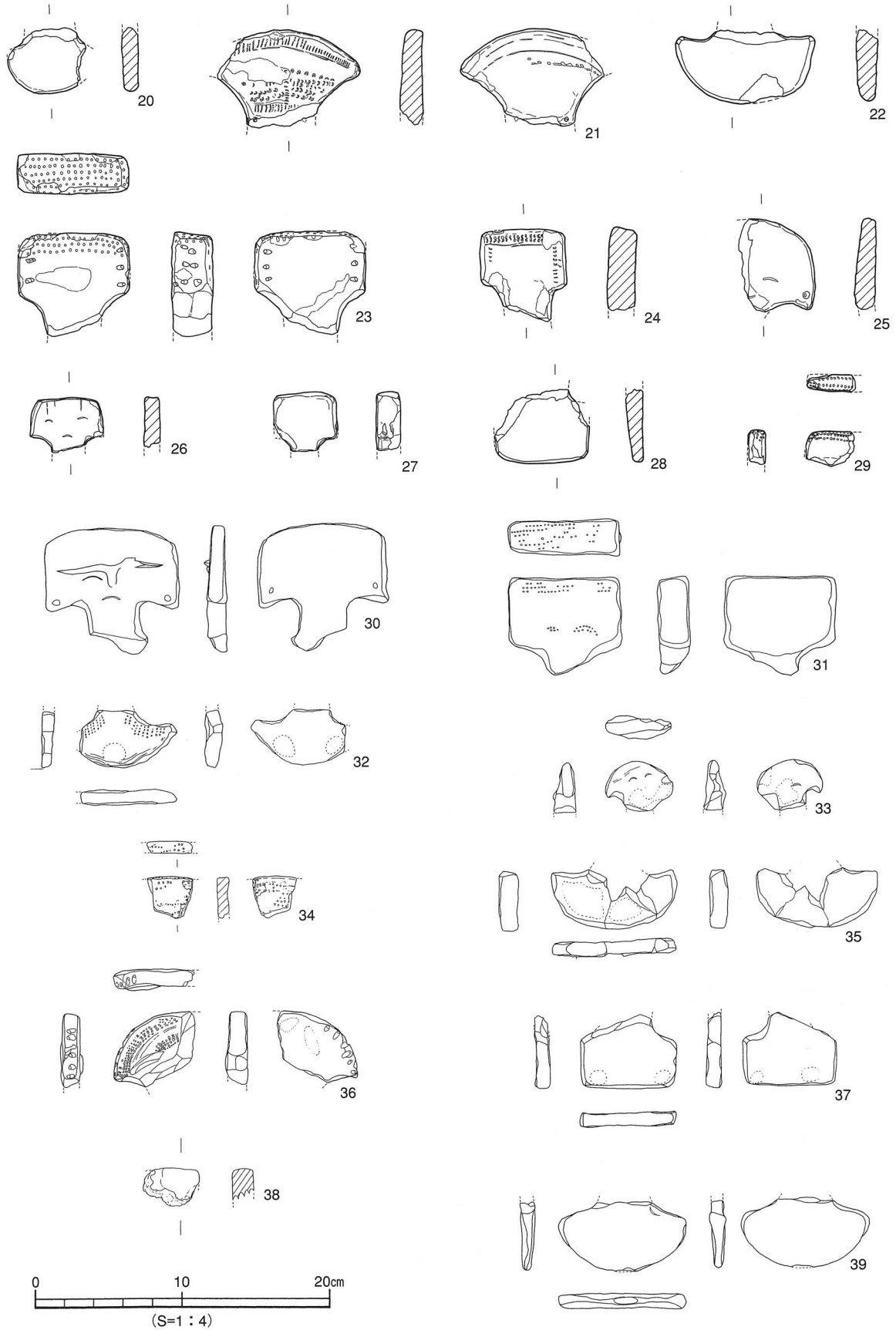


图2 分銅形土製品実測図(2)



图3 分銅形土製品実測図(3)

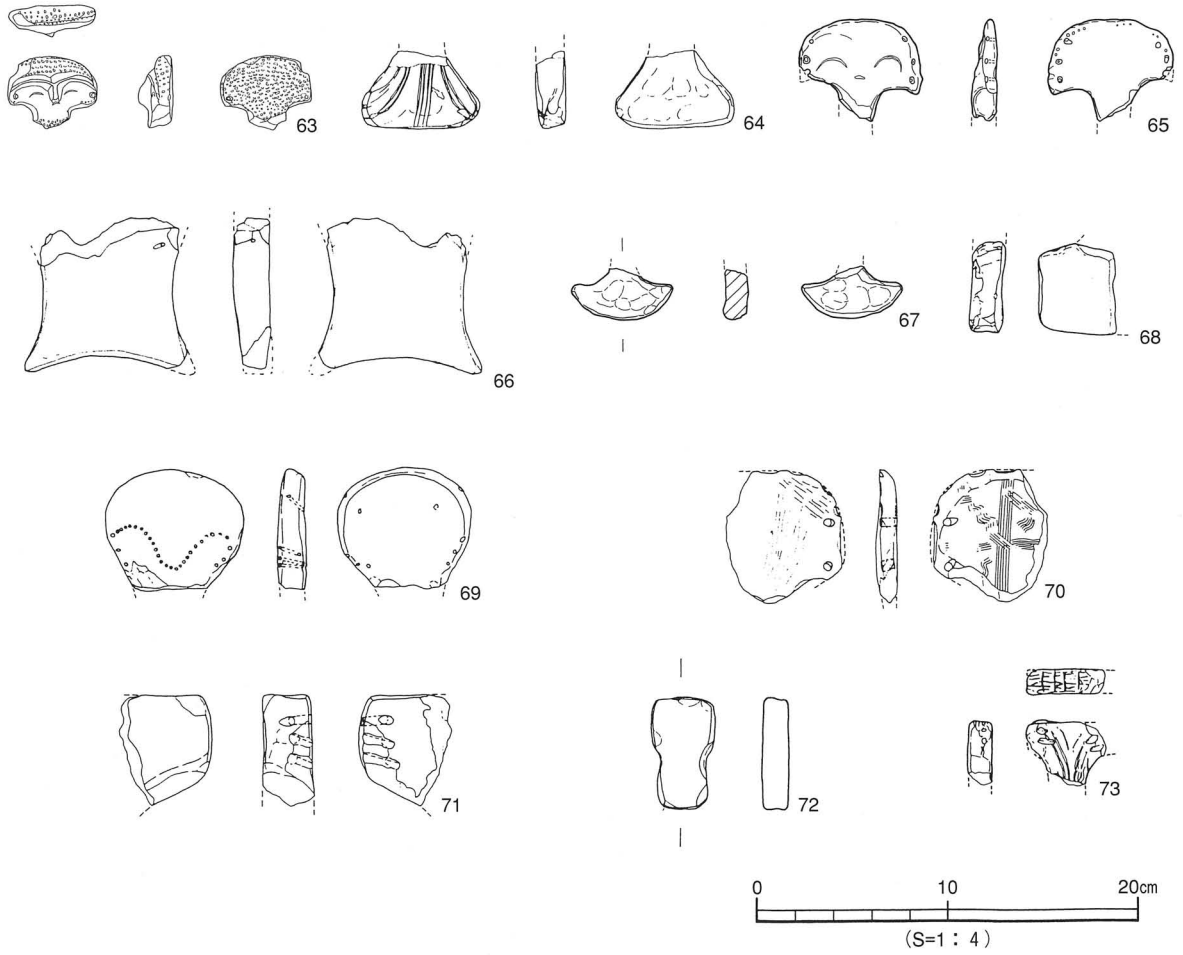


图4 分銅形土製品実測図(4)

平成14年度普及啓発事業

平成14年度普及啓発事業の概要は、以下の通りです。本事業は、市民の文化意識の向上を図ることを目的として実施されています。具体的には、市民講座、ワークショップ、展示会などを通じて、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

IV 平成14年度 普及啓発事業

本事業は、市民の文化意識の向上を図ることを目的として実施されています。具体的には、市民講座、ワークショップ、展示会などを通じて、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

本事業の目的は、市民の文化意識の向上を図ることです。具体的には、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。また、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

本事業の目的は、市民の文化意識の向上を図ることです。具体的には、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。また、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

本事業の目的は、市民の文化意識の向上を図ることです。具体的には、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。また、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

本事業の目的は、市民の文化意識の向上を図ることです。具体的には、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。また、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

本事業の目的は、市民の文化意識の向上を図ることです。具体的には、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。また、市民が主体的に関与し、地域の文化を創造していくことを目指しています。

平成14年度の普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料などを整理・保管している。発掘調査終了後は、随時現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書を刊行することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や遺跡めぐり・講演会・体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成14年度は下記の各種事業を実施した。

1. 展示活動
2. 教育普及活動
3. 収集・保管活動
4. 広報・出版活動
5. 施設の利用
6. 資料の貸出・調査
7. 職員研修・会議

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

1. 展示活動

考古館の常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとし、立体的な展示を心がけている。展示品は松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

また期間を限定して開催する展示会として(1)テーマ展(2)発掘調査写真展(3)発掘調査速報展(4)特別展(5)収藏品展(6)企画展を開催した。

(1) テーマ展「描かれた弥生の世界」(表1-①)

この展示会は、当館に所蔵している遺物の中で整理や集成作業が終了したものについて、広く公開することを目的としたものである。当年度は、弥生時代の絵画土器と記号土器にスポットを当て、遺物約200点を写真パネルなどで来館者に分かりやすく解説しながら展示を展開した。

(2) 発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る①②」(表1-②・⑥)

この展示会は、後述する(3)発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」のPRを兼ねて前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山市役所本館1階ロビーで行ったほか、松山城二之丸史跡庭園において初めて開催し、写真パネルと解説パネル各10枚を設置し、PRに努めた。

(3) 発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」(表1-③)

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された西石井遺跡を含む14遺跡を取り上げ、その出土遺物約100点を展示した。

(4) 特別展「海を渡ってきた ひと・もの・わざ」(表1-④)

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に

展示を展開するものである。当年度は、古墳時代中期に朝鮮半島からもたらされた陶質土器や、その影響のもとで製作された初期須恵器を中心に展示を行った。展示点数は約250点である。

(5) 収蔵品展「関太郎コレクション展」(表1-⑤)

この展示会は、収集活動により個人などから寄贈された遺物などを展示するものである。当年度は、現在広島県在住の関太郎氏が高校時代まで過ごした松山の採集資料を寄贈していただき、それに併せて展示会を行ったものである。その採集資料と関連資料約100点を展示した。

(6) 企画展「伊豫のアクセサリー」(表1-⑦)

この展示会は、ひとつのテーマのもとに県内の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、松山平野出土の耳環をテーマに取り上げ、縄文～古墳時代の装飾品を中心に出土遺物約200点を展示した。

表1 展示活動一覧表

No.	展 示 会 名	日 時	会 場	観覧者数
①	テーマ展「描かれた弥生の世界」	平成14年4月20日(土)～6月23日(日)	特別展示室	4,377人
②	発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る①」	平成14年6月18日(火)～21日(金)・ 7月1日(月)～5日(金)	松山市役所本館 1階ロビー	—
③	発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを撮る」	平成14年7月13日(土) ～9月23日(月・祝)	特別展示室	2,460人
④	特別展「海を渡ってきた ひと・もの・わざ」	平成14年10月19日(土)～12月1日(日)	特別展示室	2,133人
⑤	収蔵品展「関太郎コレクション展」	平成14年12月14日(土) ～15年1月26日(日)	特別展示室	1,180人
⑥	発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る②」	平成15年1月11日(土)～31日(金)	松山城二之丸 史跡庭園	—
⑦	企画展「伊豫のアクセサリー」	平成15年2月15日(土)～3月16日(日)	特別展示室	1,367人



写真1 特別展「海を渡ってきた ひと・もの・わざ」見学風景



写真2 写真展「むかし・昔のまつやまを撮る②」見学風景

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の普及啓発を目的とした講演会・夏休み親子体験学習セミナー・考古学講座などがある。

(1) 調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言をいただき、職員の資質向上をめざしている。(表2)

表2 教育普及活動一覧表(調査研究会)

(敬称略)

No.	テーマ名	日時	会場	講師
①	松山市船ヶ谷遺跡出土の 陶質土器と初期須恵器について	平成15年3月19日(水)	文化財情報館	(財)大阪府文化財センター 岡戸 哲紀

(2) 講演会・展示解説会

当年度は、テーマ展展示解説会・発掘調査報告会・特別展記念講演会・収蔵品展記念講演会・企画展記念講演会を行った。テーマ展展示解説会は、テーマ展開催を記念して担当学芸員による展示解説を特別展示室にて行った(表3-①)。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展開催初日に統括報告及び調査研究報告を行った(表3-②)。特別展記念講演会は、特別展開催を記念して2回開催し、第1回は2名の先生方による伊予出土の陶質土器と初期須恵器について比較検討を行い、第2回は須恵器の胎土分析から見た生産と交流についてご講演いただいた(表3-③)。収蔵品展記念講演会は、古代において木棺材として使用されるコウヤマキについて植物学的な見地も交えながらご講演いただいた(表3-④)。企画展記念講演会は、耳飾りの歴史をはじめとして、以前より松山平野出土の耳環について科学的分析と保存処理を行った成果を含めてご講演いただいた(表3-⑤)。

(3) 初心者のための考古学講座「とことん考古学Ⅱ」

当年度は、「集落」をテーマに計5回で弥生時代から中世にかけての集落の変遷について理解が深められるように内容を工夫した。また、第3回は発掘調査現場見学を取り入れることで、よりグローバルな展開を図っている(表3-⑥)。

表3 教育普及活動一覧表(講演会・展示解説会)

(敬称略)

No.	事業名	日時	会場	講師・報告者	聴講者数
①	テーマ展展示解説会	平成14年4月20日(土)	特別展示室	当考古館学芸員 田中いづみ	30人
②	発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成14年7月13日(土)	講堂	当センター調査員 栗田 茂敏 〃 水本 完児 〃 橋本 雄一	80人
③	特別展記念講演会 第1回「伊予の渡来人」 「伊予の初期須恵器」 第2回「土器を分析して何がわかったか」	平成14年10月19日(土)	講堂	徳島大学助教授 定森 秀夫 愛媛大学助手 三吉 秀充 大谷女子大学教授 大谷 三辻	113人
		10月26日(土)			73人
④	収蔵品展記念講演会「コウヤマキ」	平成14年12月14日(土)	講堂	広島大学名誉教授 関 太郎	96人
⑤	企画展記念講演会 「松山平野の耳飾り」	平成15年2月15日(土)	講堂	元興寺文化財研究所 保存処理検査委員代表 渡辺智恵美	115人
⑥	初心者のための考古学講座 「とことん考古学Ⅱ」 第1回 集落の概要 第2回 弥生時代の集落 第3回 西石井・東石井遺跡の概要 第4回 古墳時代の集落 第5回 中世の集落について	平成14年5月18日(土)	講堂	当考古館学芸員 山之内志郎 当センター調査員 高尾 和長 〃 宮内 慎一 〃 武正 良浩 〃 加島 次郎	45人
		6月1日(土)	〃		49人
		6月8日(土)	現場		47人
		6月15日(土)	講堂		48人
		6月29日(土)	〃		49人



写真3 企画展記念講演会風景



写真4 「とことん考古学Ⅱ」第3回風景

(4) 夏休み親子体験学習セミナー「古代のアクセサリー・自分だけの勾玉づくり」(表4)

当セミナーは、小学5年生から中学生とその保護者を対象に、子供たちの自由な発想で滑石製勾玉を製作することで古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的としており、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。



写真5 「古代のアクセサリー・自分だけの勾玉づくり」風景

表4 教育普及活動一覧表(勾玉づくり)

No.	事業名	日時	会場	参加者数
①	夏休み親子体験学習セミナー 「古代のアクセサリー・自分だけの勾玉づくり」	平成14年7月27日(土)	講堂	38人

(5) クリスマス特別企画「～古代から贈り物～ガラス勾玉を作ろう！」(表5)

当事業は、一般市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。

表5 教育普及活動一覧表(ガラス勾玉づくり)

No.	事業名	日時	会場	参加者数
①	クリスマス特別企画 「ガラス勾玉を作ろう！」	平成14年12月14日(土)	文化財情報館	14人



写真6 「ガラス勾玉を作ろう！」離型剤塗り風景



写真7 「ガラス勾玉を作ろう！」焼成風景

(6) 遺跡めぐり「～古代浪漫の旅～伊予のまほろば探訪 part 2」(表6)

当事業は、地域に所在する史跡や埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として開催するものである。当年度は前年度と同じコースを見学した。



写真8 「遺跡めぐり」湯築城資料館見学風景

表6 教育普及活動一覧表(遺跡めぐり)

No.	事業名	日時	見学先	参加者数
①	遺跡めぐり 「～古代浪漫の旅～伊予のまほろば探訪 part 2」	平成14年5月24日(金)	比翼塚・伊佐爾波神社・湯築城・来住廃寺など	50人

(7) 現地説明会(表7)

遺跡の見学を通して、より一層一般市民に埋蔵文化財に対する興味や関心を持ってもらうため開催するものである。当年度は、6ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。



写真9 城内3号墳現地説明会風景

表7 教育普及活動一覧表(現地説明会)

No.	遺跡名	日時	遺跡の主な概要	見学者数
①	久米高畑遺跡 54・55次調査地	平成14年9月28日(土) 10:30～11:30	(54次) 弥生時代～古代の遺構(掘立柱建物・竪穴式住居・溝・土坑)や遺物。(55次) 弥生時代前期末～中期初頭の環濠や遺物	135人
②	城内3号墳	平成15年1月11日(土) 10:00～11:00	松山城二之丸史跡庭園の石垣解体中に発見された直径10～12mの円墳。6世紀後半に築造されており、横穴式石室が残存。	220人
③	西石井遺跡2次調査地	平成15年3月15日(土) 10:30～11:30	弥生時代中期～末の遺構(掘立柱建物・竪穴式住居・溝・土坑・井戸・柱穴)や遺物	105人
④	松山城三之丸内 (県営ラグビー場跡) 確認調査	平成15年3月29日(土) 10:30～11:30	江戸時代の遺構(井戸・石垣・石組溝・暗渠・溝・土坑・柱穴)や遺物	85人
⑤	姫原遺跡2次調査地	平成15年3月30日(日) 10:30～11:30	弥生時代中期末～中世の遺構(掘立柱建物・竪穴式住居・溝など)や遺物	210人

(8) 博物館学芸員実習

平成6年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生のための実習を実施している。当年度は、8月29日～9月5日（屋外実習）と9月11日～17日（屋内実習）の日程で、愛媛大学生5名を受け入れた。展示実習（展示解説や来館者案内）、写実実習（機材の取り扱いや撮影技術）、保存処理（技術や工程）などのカリキュラムを実施した。

(9) 職場体験（表8）

当センターでは、中学生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。当年度は、4校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務を体験していただいた。

表8 教育普及活動一覧表（職場体験）

No.	学 校 名 ・ 学 年	日 時	内 容	参加者数
①	愛媛大学教育学部附属中学校 2年生	平成14年7月8・9日（月・火） 9：00～16：00	桑原遺跡4次調査地での発掘体験・接合体験	7人
②	松山市立雄新中学校 2年生	平成15年2月5日（水） 9：00～16：00	松山城三之丸跡での発掘体験	1人
③	松山市立久米中学校 2年生	平成15年2月5・6日（水・木） 9：00～16：00	久米官衙遺跡群での発掘体験	1人
④	松山市立桑原中学校 2年生	平成15年2月7日（金） 9：00～16：00	枝松遺跡7次調査地での発掘体験	10人



写真10 職場体験風景（発掘体験）



写真11 職場体験風景（接合体験）

(10) 出前考古学教室（表9）

当年度から公立学校において「総合的な学習の時間」が本格的にスタートしたことから、各学校や民間団体からの要請を受けて学校や発掘現場に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は7回実施した。



写真12 出前考古学教室（発掘体験）

表9 教育普及活動一覧表（出前考古学教室）

No.	学校名・学年及び団体名	日 時	内 容	参加者数
①	松山市立桑原小学校 6年生と保護者	平成14年6月3日(月) 9:00~11:30	桑原遺跡4次調査地の見学と分銅形土製品づくり	251人
②	松山子供歴史教室 (小学生と保護者)	平成14年6月22日(土) 13:00~15:30	滑石製勾玉づくり	57人
③	松山市立北中学校 1~3年生	平成14年7月17日(水) 8:40~10:30	滑石製勾玉づくり	35人
④	松山市立桑原中学校 1年生	平成14年10月11日(金) 9:20~11:30	経石山古墳と樽味高木遺跡の見学・発掘体験	16人
⑤	松山市立桑原中学校 1~3年生	平成14年11月12日(火) 13:15~14:45	分銅形土製品づくり	40人
⑥	松山子供歴史教室 (小学生と保護者)	平成14年11月2日(土) 11月16日(土) 10:00~15:00	土器づくり	90人
⑦	松山市立津田中学校 3年生	平成14年10月30日(水) 11月13日(水) 11月26日(火) 13:40~14:30	選択教科「社会科」での考古学に関する授業	25人



写真13 出前考古学教室（分銅形土製品製作）



写真14 出前考古学教室（土器見学）

3. 収集・保管活動

(1) 埋蔵文化財関連

当年度は、1名の篤志家より考古資料の寄贈を受けた。今後も継続して整理・研究を実施する。

(2) 大連古代ハス

平成10年4月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただいた。この古代ハスは、平成8年1月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張宏安氏から大連市で出土した1千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたもので、その後、農業指導センターで育成していたものである。当年度は、3つ開花した。

4. 広報・出版活動（表10・11）

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやリーフレットを発刊したり、発掘調査が行われた遺跡について発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の普及啓発に役立つものと思われる。

表10 出版物一覧表(1)

No.	出 版 物 名	発 行 日	対 象	版 型 ・ 頁	部 数
①	テーマ展 ポスター 〃 リーフレット 〃 はがき	平成14年 4月	一般	B 2 A 4 2頁 はがき	600枚 3,000枚 2,000枚
②	考古学講座(1) レジュメ 〃 (2) 〃 〃 (3) 〃 〃 (4) 〃 〃 (5) 〃	平成14年 5・6月	聴講者	A 3 3頁 A 3 4頁 A 3 7頁 A 3 4頁 A 3 5頁	50部 50部 50部 50部 50部
③	遺跡めぐり 旅のしおり	平成14年 5月	参加者	A 4 18頁	50部
④	発掘調査速報展 ポスター 〃 パンフレット 〃 はがき	平成14年 7月	一般	A 2 A 4 17頁 はがき	500枚 3,000枚 2,400枚
⑤	発掘調査報告会 レジュメ	平成14年 7月	聴講者	A 3 9頁	150部
⑥	夏休み体験学習セミナー パンフレット	平成14年 7月	参加者	A 4 9頁	40部
⑦	特別展 ポスター 〃 パンフレット 〃 リーフレット 〃 はがき 〃 図録	平成14年 9月	一般	B 2 A 4 4頁 A 4 2頁 はがき A 4 48頁	600枚 2,000枚 5,000枚 2,000枚 500冊
⑧	特別展 記念講演会(1) レジュメ 〃 (2) 〃	平成14年10月	聴講者	A 3 10頁 A 3 6頁	150部 150部
⑨	クリスマス特別企画 パンフレット	平成14年12月	参加者	A 4 12頁	30枚
⑩	収蔵品展 ポスター 〃 リーフレット 〃 はがき	平成14年12月	一般	B 2 A 4 2頁 はがき	300枚 1,500枚 2,000枚
⑪	収蔵品展 記念講演会レジュメ	平成14年12月	聴講者	A 4 5頁	150部
⑫	企画展 ポスター 〃 リーフレット 〃 はがき	平成15年 2月	一般	A 2 A 4 2頁 はがき	500枚 3,000枚 2,000枚
⑬	企画展 記念講演会レジュメ	平成15年 2月	聴講者	A 3 3頁	150部

表11 出版物一覧表(2)

No.	報 告 書 名	発 行 日	対 象	版 型 ・ 頁	冊 数
①	松山市文化財調査報告書 第87集 『樽味四反地遺跡－5次調査－』	平成14年 3月29日	一般	A 4 188頁	1,000冊
②	松山市文化財調査報告書 第88集 『船ヶ谷遺跡－4次調査－遺構・遺物編』	平成14年12月24日	一般	A 4 296頁	1,000冊
③	松山市文化財調査報告書 第89集 『松ヶ谷遺跡』	平成15年 3月 7日	一般	A 4 78頁	500冊
④	松山市文化財調査報告書 第90集 『潮見山古墳群』	平成15年 3月 7日	一般	A 4 46頁	500冊
⑤	松山市文化財調査報告書 第91集 『福音小学校構内遺跡Ⅱ－古墳時代以降編－』	平成15年 3月31日	一般	A 4 208頁	1,000冊
⑥	松山市文化財調査報告書 第92集 『葉佐池古墳』	平成15年 3月31日	一般	A 4 338頁	1,000冊
⑦	松山市文化財調査報告書 第93集 『久米高畑遺跡－25次調査－』	平成15年 3月31日	一般	A 4 174頁	300冊
⑧	松山市文化財調査報告書 第94集 『樽味四反地遺跡－6次調査－ 弥生時代～古墳時代初頭編』	平成15年 3月31日	一般	A 4 126頁	300冊
⑨	松山市文化財調査報告書 第95集 『船ヶ谷遺跡 4次調査Ⅱ・福音小学校構内遺跡Ⅲ』	平成15年 3月31日	一般	A 4 246頁	1,000冊
⑩	松山市埋蔵文化財調査年報14 (平成13年度)	平成15年 3月31日	一般	A 4 119頁	1,000冊

表13 資料の貸出一覧表

(敬称略) No.3

No.	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出・利用者
⑧	古照遺跡の復元された堰の写真	1点	『卑弥呼の時代を復元する』に掲載	平成14年8～9月	株式会社 碧水社
⑨	岩崎遺跡 遺構写真 福音小学校構内遺跡出土 弥生土器の写真	1点 1点	『埋文写真研究14号』に掲載	平成14年9～10月	井本 昭
⑩	来住庵寺5次調査 回廊状遺構北回廊の写真 来住庵寺塔基壇全景の写真 久米高畑遺跡32次調査 正倉院の建物群と区画溝の写真 久米高畑遺跡51次調査 政庁中央部全景の写真	1点 1点 1点 1点	『条里制・古代都市研究18号』に掲載	平成14年12月 ～15年2月	橋本雄一
⑪	船ヶ谷遺跡4次調査出土 陶質土器の写真	1点	『遺跡40号』に掲載	平成15年1～2月	正岡陸夫

表14 資料の調査一覧表

(敬称略) No.1

No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
①	祝谷六丁場遺跡出土 石器 岩崎遺跡出土 石器	29点 22点	修士論文作成のため実測及び写真撮影	平成14年6月18日 ～6月28日	愛媛大学 中 勇樹
②	松山城本丸出土 瓦 松山城二之丸出土 瓦	一式 一式	瓦研究のため実見	平成14年7月19日	(財)滋賀県文化財保護協会 木戸雅寿
③	竹本コレクション 旧石器 東本遺跡出土 旧石器	一式 一式	松山市内出土等旧石器の研究のため写真撮影	平成14年7月28日	香川県埋蔵文化財センター 森下英治
④	岩崎遺跡出土 石器 祝谷六丁場遺跡出土 石器	一式 一式	弥生時代石器の研究のため実測及び写真撮影	平成14年11月2日	香川県埋蔵文化財センター 森下英治
⑤	鶴が峠古墳群出土 埴輪	一式	科研に伴う埴輪集成的ため実測	平成15年 1月13・18日	愛媛大学 三吉秀充
⑥	斎院茶臼山古墳出土 鉄製品 高月山2号墳出土 鉄製品 塚本1号墳出土 鉄製品 葉佐池古墳出土 鉄製品 松山峠7号墳出土 須恵器・鉄製品 東山9号墳出土 須恵器 東山T4出土 須恵器・鉄製品 東山お茶屋台13・19号墳出土 須恵器 五郎兵衛谷古墳1号石室 三累環頭 北久米出土 単龍環頭(レプリカ) 東山鷹が森古墳群出土 貝製垂飾品	一式	資料調査(西南四国～九州間の考古学的研究)のため実測及び写真撮影	平成15年 1月26・27日	鹿児島大学 橋本達也
⑦	北谷王神ノ木1号墳出土 鉄製品 塚本1号墳出土 鉄製品 塚本2号墳出土 鉄製品 影浦谷1号墳出土 鉄製品 影浦谷2号墳A主体部出土 鉄製品 御産所11号墳出土 鉄製品 松山峠7号墳出土 鉄製品 瀬戸風峠1号墳出土 鉄製品 瀬戸風峠4号墳出土 鉄製品 瀬戸風峠6号墳出土 鉄製品 斎院茶臼山古墳出土 鉄製品 五郎兵衛谷1号墳出土 鉄製品 朝日谷1号墳出土 鉄製品 客谷1号墳出土 鉄製品 東山鷹が森2号墳出土 鉄製品 東山鷹が森4号墳A石室出土 鉄製品 東山鷹が森4号墳B石室出土 鉄製品 東山鷹が森6号墳出土 鉄製品 東山鷹が森8号墳A石室出土 鉄製品 東山鷹が森8号墳C石室出土 鉄製品 東山古墳出土 鉄製品 客谷10号墳出土 鉄製品 大池東2号墳出土 鉄製品	一式	卒業論文の資料作成のため実測	平成15年2月13日 ～3月31日	別府大学 谷 尊祥

表14 資料の調査一覧表

(敬称略) No.2

No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
⑧	文京遺跡出土 石器 齋院烏山遺跡出土 石器 筋違N遺跡出土 石器 筋違L遺跡出土 石器	一式	資料集成的ため写真撮影	平成15年2月5日	古代学協会 桐山秀穂
⑨	大洞遺跡出土 石庖丁	2点	研究のため写真撮影	平成15年2月25日	愛媛大学 児玉洋志

7. 職員研修・会議 (表15)

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

表15 職員研修・会議一覧表

No.	研修・会議名	日時	開催地	参加者数
①	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	平成14年6月13・14日(木・金)	栃木県塩谷郡藤原町	1名
②	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	平成14年9月5・6日(木・金)	松山市	4名
③	埋蔵文化財発掘技術者専門研修「交通遺跡調査」	平成14年10月23日(水)～30日(水)	奈良市	1名
④	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	平成14年10月17・18日(木・金)	金沢市	2名
⑤	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	平成14年10月24・25日(木・金)	北九州市	3名
⑥	四国埋蔵文化財法人実務担当者会	平成14年11月7・8日(木・金)	松山市	6名

8. その他 (表16)

表16 平成14年度 考古館月別入館者数調 (平成14年4月1日～15年3月31日)

(単位:人)

月	開館日数	個人一般	個人児童生徒	団体一般	団体児童生徒	高齢者割引	小中高生等無料入館者	速報展等無料入館者	入館者合計	一日平均入館者
4	25日	174	81	0	0	11	243	258	767	31
5	27日	278	66	1	0	31	1,009	1,692	3,077	114
6	26日	158	62	33	47	32	299	687	1,318	51
7	26日	115	66	172	0	21	0	538	912	35
8	27日	179	199	40	80	38	0	580	1,116	41
9	25日	131	31	1	0	71	82	296	612	24
10	27日	233	22	27	57	195	455	281	1,270	30
11	26日	327	70	6	79	22	650	123	1,277	25
12	24日	162	17	0	0	37	247	499	962	39
1	24日	98	13	0	0	7	0	239	357	15
2	20日	82	9	0	0	20	0	369	480	24
3	25日	170	44	1	1	65	257	556	1,094	44
計	302日	2,107	680	281	264	550	3,242	6,118	13,242	44

松山市埋蔵文化財調査年報 15

平成16年3月31日 発行

編 集
発 行

松 山 市 教 育 委 員 会

〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目6-1
TEL(089)948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団

埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6
TEL(089)923-6363
FAX(089)925-0260

印 刷

セ キ 株 式 会 社

〒790-8686 愛媛県松山市湊町7丁目7番地1
TEL(089)945-0111
